

又外國人ニシテ日本語ニ通セサル時ハ通事ヲ用ヒサルヲ得スト誰モ通事ヲ付スルハ其應答ノ不明ナルカ爲ノミ故ニ其訴訟ニ關係ヲ有スル者及審問ニ與ル官吏ニシテ或ル外國語ニ通シ之ヲ聞取ルニ妨ケナキ場合ニ於テ裁判長便利ナリト認ムルトキハ其外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得然レトモ裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユルヲ以テ原則トス故ニ便宜ノ爲メ外國語ヲ以テ審問シタル場合ト誰モ審問ノ公正記録ヘ原則ニ基キ日本語ヲ以テ之ヲ作ラサルヘカラス

第二章 裁判所ノ評議及言渡

凡ソ裁判ナルモノハ訴訟ノ争點ニ對シテ判斷ヲ與フルモノニシテ其判斷ヲ爲スニハ争ノ原因トナリシ事實ヲ判明ナラシムルヲ要ス何トナレハ事實ヲ措テ他ニ裁判ノ基礎タルモノナクハナリ今其事實評議及言渡ノ點ヲ左ニ説明セン

甲 事實ノ審問

合議裁判所ニ於ケル事實ノ審問ハ其裁判ニ與カル定數ノ判事即チ地方裁判所ニ在テハ三人控訴院ニ在テハ五人大審院ニ在テハ七人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ之ヲ爲ス若シ錯雜煩雜ナル事件ニ至テハ民事ニマレ刑事ニマレ其審問數日ニ涉リ尙ホ決セサルモノアリ從テ其長キ間ニ於テハ判事中疾病又ハ差支アリテ闕席スル者ナシトセス此場合ニ於テハ審問ヲ中止センカ官ニ訴訟ノ延滞ヲ來スノミナラス

法 成 構 所 判 裁

刑事ニ在テハ其間空シク被告人ヲ拘禁スル等ノ不都合アリ故ニ刑事事件ニシテ其審問四日以上引續クヘキ見込アルトキハ補充判事一人ヲ命シ常ニ其審問ニ立會ハシメ該審問ニ與ル判事ニシテ疾病其他ノ事故ニヨリ闕席スルトキハ之ニ代リ審問及裁判ヲ爲サシムルコトヲ得ト定メタリ然レトモ民事ニ在テハ假令其訴訟ヲ中止スルコトアルモ刑事ノ如ク時ニ無罪者ヲ囹圄ノ内ニ呻吟セシムルカ如キ憂ナキヲ以テ補充判事ヲ用ヒサルモノナラン歟

乙 評議

審問ニ依テ其争訟ノ事實判明セハ之カ判斷ヲ下サ、ルヘカラス故ニ數人ノ判事裁判ニ參與スルニ當テハ判決ニ際シテ評議ヲ爲スノ必要ヲ生ス今其評議ヲ爲スニ付テノ原則ヲ述フヘシ
第一判事ノ評議ハ之ヲ公行セサル事本法ハ裁判ニ公開主義ヲ採ルト雖モ判事ノ評議ハ之ヲ公行セシメス然ラサレハ裁判ニ先テ已ニ訴訟ノ勝敗外ニ漏洩スル等ノ不都合ヲ來スノミナラス當事者若クハ刑事被告人ニ不利益ナル意見ヲ主張スル判事ノ意見ヲ聞ク者ハ或ハ之ヲ怨望シ自然裁判官ノ信用ヲ害スルノ虞ナシトセサレハナリ然レトモ闕位ヲ待テ補セラルヘキ豫備判事又ハ事務修習中ニ在ル所ノ試補ハ其評議ヲ洩スノ虞ナキノミナラス事務ヲ修習スル上ニ於テ必要ナルニヨリ之カ傍聽ヲ許スコトヲ得ルナリ

法 成 構 所 判 裁

第二 判事ハ意見ノ陳述ヲ拒ムヲ得ス 評議ノ際各判事カ意見ヲ述ルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始メトシ順次ニ裁判長ニ遡及ス而シテ其判事中ニ官等同シキ者アルトキハ年少ノ者ヨリ始ム夫レ此規定ノ精神タルヤ威壓雷同ノ弊ヲ避ク各其信スル所ニ從ヒテ十分ニ意見ヲ述ヘシメントスルニ外ナラス然レトモ受命判事ニ至テハ特ニ命ヲ受クテ事件ノ取調ニ從事シタルモノナルカ故ニ官等ノ高低年齢ノ多少ヲ問ハス其評議ヲ爲スニ當テハ最初ニ意見ヲ述フルモノトス

各判事評議スルニ當テハ其裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムヲ得ス是レ合議ノ本旨ヨリ來ル必要ノ結果ナリトス若シ夫レ各判事ニ於テ其意見ヲ述ヘサルモ可ナリトセハ評議決定スルノ途ナク從テ合議裁判ノ效ヲ奏スル能ハサレハナリ

第三 判事ノ評議ハ過半数ニ依テ決スル事 各判事評議ヲ爲スニ當テハ裁判長タルト陪席判事タルトヲ問ハス皆同一ノ權利ヲ有ス故ニ裁判長ノ意見ト雖モ少数ナルトキハ行ハレス而シテ各判事ノ説カ三箇以上ニ分レ何レノ説モ過半数ニ至ラサルトキハ左ノ方法ニ依リ評議決定ス

(イ)金額ニ付判事ノ意見三説以上ニ分レ各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス例ヘハ損害賠償ノ訴訟ニ付其金額ヲ定ムルニ當リ甲判事ハ千圓ナリトシ乙判事ハ九百圓ナリトシ丙判事ハ八百圓ナリトスルトキハ其意見ハ各過半数ニ至ラサルカ故ニ此場合ニ於

法 成 構 所 判 裁

テハ最多額ヲ主張スル甲判事ノ意見ヲ乙判事ノ意見ニ合算シ以テ三人ニ對スル一人ノ多数ヲ得ヘシ依テ其賠償額ハ乙判事ノ説則チ九百圓ニ定ムルモノトス(七人合議甲二人乙二人丙三人ト假定ス)

(ロ)刑事ニ付判事ノ意見三説以上ニ分レ各過半数ニ至ラサルトキハ過半数ニ至ルマテ被告人ニ不利益ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス例ヘハ竊盜ノ被告事件ニ付刑ヲ適用スルニ方リ甲判事ハ重禁錮一年トシ乙判事ハ一年六個月トシ丙判事ハ二年ト主張スルトキハ其意見各半数ニ至ラサルカ故ニ此場合ニ於テハ被告人ニ最モ不利ナル丙判事ノ意見ヲ乙判事ノ意見ニ合算シ此乙説ヲ以テ過半数ノ意見ト爲シ重禁錮一年六個月ニ處スルカ如シ

以上述フル如ク裁判ハ過半数ノ意見ニ依ル然レトモ又其理由ニ付判事ノ意見三説以上ニ分ルルトキハ如何ニ決定スヘキ乎曰ク合議裁判所ノ判決ニ付スヘキ理由ハ即チ其合議體ノ意見ナラサルヘカラス故ニ其理由ニ付テモ亦過半数ノ説ニ依ルハ當然ナリ

(丙)裁判ノ言渡

合議裁判所ニ在テハ審問ヲ終リテ後各判事ノ評議ヲ爲シ定數ノ判事列席シ其裁判ヲ言渡シ單獨裁判所ニ在テハ當該判事審問ノ上其意見ヲ以テ言渡ヲ爲ス尙判決言渡ニ付テハ本法民事訴訟法及刑事訴訟法ノ規定ヲ参照シテ論スヘキモノアリト雖モ之ヲ略ス

第四章 裁判所及検事局ノ事務章程

凡職務ノ何タルヲ問ハス事務取扱上ニ付一定ノ規則ヲ要スヘキハ勿論ナリ殊ニ司法事務ノ如キ直接ニ各人ノ權利消長ニ關スルモノニ在テハ其事務章程ヲ一定スルコト寧ロ他ノ官廳ヨリモ必要ナリトス
裁判所及検事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム又控訴院長及検事長ハ其司法大臣ノ定メタル規則ニ從ヒ各其管轄スル區域内ノ地方裁判所若シハ區裁判所又ハ是等ノ裁判所ノ検事局ニ對シ事務ノ一般ノ取扱ニ關シ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及検事局ノ開廳スル時間並ニ開廷スル日時ニ付訓令ヲ發ス然レトモ大審院ハ最高等ノ裁判所ナルヲ以テ自ラ其事務章程ヲ定メ之ヲ實施スル前ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得ルニ止メタリ

第五章 司法年度及休暇

司法年度ハ曆ニ從ヒ一月一日ヨリ十二月三十一日ニ終ル故ニ政府ノ會計年度トハ相異レリ
裁判所ノ休暇ハ七月十一日ヨリ九月十日迄トス是レ一般官吏ノ暑中休暇ト異ナルコトナシ尙ホ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ハ休暇トシテ訴訟法ニ規定セリ

十二月廿九日ヨリ三十一日マテハ休暇ナリヤ否ニ付テハ嘗テ議論ノ起リタルコトアルモ民事訴訟法ニ於テハ其第六十六條二項ニ期間ノ終カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルトキハ其日ヲ期間ニ算入セス

法 成 構 所 判 裁

トアルニヨリ其祝祭日ニアラサル年末休暇ハ假令期間ノ終ニ當ルモ期間ニ算入スヘカラサルモノニアラス然レトモ民事訴訟法第十五條ニ於テハ若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入スヘカラスト規定シ單ニ休暇云々トアルニ由リ十二月二十九日以降ノ年末休暇ト雖モ期間ノ終ニ當ルトキハ上訴期間ニ算入セサルナリ

裁判所ハ休暇中一般ノ訴訟事件ハ之ヲ停止スルヲ以テ原則トス然レトモ事件ノ性質急速ヲ要スルモノハ之ヲ取扱ハサルヘカラスト故ニ休暇中取扱フヘキ事件ハ本法第二百二十八條第二百二十九條ニ之ヲ列記セリ而シテ第二百二十八條ハ本法ニ所謂休暇事件ナルモノニシテ則チ休暇中ハ一切ノ民事訴訟ヲ中止シ若クハ新訴ニ着手セストノ原則ニ對スル例外ナリ

其他尙休暇中ト雖モ常時ト異ナルナク常ニ取扱ハサルヘカサル事件アリ即チ第二百二十九條ニ規定スルモノ是ナリ今其種類ヲ舉クレハ第一刑事ナリ夫レ刑事ハ人ノ身體自由ニ關スルヲ以テ假令一般休暇中ナリト雖モ其處分ヲ休止スルハ穩當ナラサレハナリ又登記ノ如キ非訟事件ハ固ヨリ之ヲ裁判スルニ非スシテ裁判所カ取扱フ事務ニ關ルヲ以テ休暇中ト雖モ之ヲ停止セサルコトヲ特ニ定メタリ又判決執行ヲ停止スルトキハ債務者ノ爲ニ債權者ノ權利ノ實行ヲ妨クルノ虞アルヲ以テ之ヲ停止セス又破産事件ヲ停止セハ債權者ニ不利ナルノミナラス其決定ノ如何ハ實ニ破産者カ爲シタル行爲ノ有罪無罪ノ

法 成 構 所 判 裁

別ル、所ニシテ且財團ノ損益ニ關シ重大ノ關係アルカ故ニ之ヲ停止スルヲ得サルモノトス又民事訴訟法ニ依リ略式ヲ以テ取扱フ事件ハ休暇中ニ拘ラス之ヲ取扱フ其略式ヲ以テ取扱フ事件トハ督促手續ニ於ケル支拂命令ノ如キモノ是ナリ

以上述フル所ノ休暇中取扱フヘキ事件ヲ取扱フ爲メ裁判所ハ休暇部ヲ設ク

第六章 法律上ノ共助

法律上ノ共助トハ裁判所ト裁判所又検事局ト検事局ノ間相互ニ事務ヲ補助スル云フ元來此制度ノ必要ナルハ固ト裁判所ノ管轄ハ土地ヲ以テ區域ヲ定ムルカ故其管轄地外ニ於テ事務ヲ取扱フヲ得サルヲ以テ原則トス去レハ管轄地外ニ於テ取調ヲ要スルトキハ其地ノ裁判所ニ囑托セサルヲ得ス是レ此共助ノ設ケアル所以ナリ而シテ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ補助ヲ爲スモノトス

検事局モ亦各自ノ管轄地内ニ在テ取扱フヘキ事件ニ付テハ互ニ補助ヲ爲ス書記課モ亦其權内ノ事件又ハ配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付テハ要求ニ應シテ互ニ補助ヲ爲スモノトス

第四編 司法行政ノ職務及監督

裁判官カ裁判ヲ行フニ方テハ固ヨリ獨立ニシテ毫モ他ノ掣肘ヲ受クヘキモノニアラスト雖モ司法部内ニ於ケル行政ノ事務若シ正當ニ行ハレズンハ勢ヒ司法權ノ神聖ヲ害スルニ至ルヲ以テ本編ニ之カ監督ノ規定ヲ設ケタリ

司法行政ノ事務ヲ行フ所ノ上長官ハ司法大臣ナリ而シテ司法大臣ノ由テ以テ職務ヲ行フモノハ合議裁判所長區裁判所判事又二人以上ノ判事アルトキハ監督判事又檢事總長檢事長及檢事正トス以下監督權ノ施行及範圍ノ點ヲ説明セン

甲 監督權ノ施行

司法行政ノ監督權ハ左ニ掲クル順序ニ由リ之ヲ施行ス

第一 司法大臣ハ各裁判所及各検事局ヲ監督ス 是レ司法行政上ノ監督ニシテ裁判事務ニ付テハ司法大臣ト雖モ容喙スル所ニアラス併シ檢事局ハ行政官ノ性質アルヲ以テ上長官ノ命令ニ從ハサルヘカラス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其控訴院及其管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其裁判所若ハ其支部及其管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

法 成 構 所 判 裁

- 第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス
- 第六 檢事總長ハ其檢事局及下級檢事局ヲ監督ス
- 第七 檢事長ハ其檢事局及其局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス
- 第八 檢事正ハ其檢事局及其局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス
- 右ノ外警察官憲兵將校下士又ハ林務官等ヲシテ司法警察ノ事務ヲ取扱ハレムル場合ニ於テハ其指揮命令スルモノ之ヲ監督ス
- 乙 監督權ノ範圍
- 司法行政ノ監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス
 - 第一 官吏ニシテ其事務ヲ不適當又ハ不充分ニ取扱タルトキハ之ニ注意ヲ促シ並ニ適當ニ其事務ヲ取扱フヘキコトヲ之ニ訓令スル事
 - 第二 官吏ニシテ其職務上下否トニ拘ラス其地位ニ不相應ナル行狀アルトキハ之ニ諭告スル事但此諭告ヲ爲ス前ニ其官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシム
 - 第三 前二項ノ訓諭方法アリト雖モ若シ裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ其官吏タルニ適當ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其行狀其地位ニ不相應ナル者ニシテ前二項ノ方法ヲ以テ其行爲ヲ訓戒スルモ輕キニ失

法 成 構 所 判 裁

スル場合ニ於テハ判事ハ懲戒法其他ノ者ニ在テハ官吏懲戒例ニ從ヒ之ヲ處分スル事例ヘハ判事カ開延日ニ故ナク欠席シ又ハ負債ノ爲ニ起訴セラレ結局其執行ヲ受クルニ至リタルカ又ハ檢事カ無罪免訴ノ言渡ヲ受ケタル被告人ヲ故ナク拘留シ置キタルカ如シ要スルニ其情狀重キ行爲ナリトス

司法行政ノ監督權ニ依ルモノハ以上三種ノ場合ノミニ限ラス尙判事若ハ檢事ノ事務取扱方法ニ對スル抗告殊ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ延滞若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此司法行政監督權ニ依リ之ヲ處分ス

其監督權ニ基ク處分ハ判事檢事タル官吏ノ資格又ハ其他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其請求ヲ満足セシムル爲メ之ヲ執行スルコトヲ得ス然ラサレハ其監督權ハ自然人民ニ左右セラレ遂ニ司法權ノ尊嚴ヲ害スルニ至レハナリ

監督處分ハ判事檢事等ノ資格又ハ其他ノ資格ヲ以テ爲シタルニ拘ラス其監督權ヲ有スル者ニ於テ唯不適當ノ行爲ナリト思惟スル一事ヲ以テ輕忽ニ之ヲ處分スルニ於テハ時ニ或ハ冤罪ヲ罰スルコトナシトセス故ニ裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ請求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フルモノトス是レ監督權ヲ行フ上ニ於テ寔ニ至當ノ規定ナリトス

然レトモ此監督權ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ是レ裁判權ノ執行ハ其判事ノ自由ニシテ何人モ之ニ干渉スルヲ得サルモノナレハナリ

裁判所構成法 終

憲 法

第一編 總 論

第一章 國 家

國家ハ統治權ノ主体ナリ、統治權ノ主体ト云フハ權力ノ主体ト云フカ如ク統治ノ能力者タルコトヲ意味スルナリ、而シテ公法ハ權力ノ關係ヲ論スルモノニシテ私法ハ權利ノ學問ナリトス故ニ、私法上ニ於テ人ト云ヘハ權利ノ主体ナルカ如ク公法ニ於テ國家ト謂ヘハ統治權ノ主体タリ、茲ニ所謂國家ト稱スルハ只法理上ノ觀念ニ於ケル國家ノ解釋ナリトス、然レトモ實權上ノ國家ト云フトキハ境土及臣民ヲ基礎トシ其上ニ唯一獨立ノ君主之ヲ統治スル團體ナリトス、凡ソ人類ハ相集團シテ共同生存ノ目的ヲ達スル爲メニ一家ヲ爲シ一町村ヲ爲シ一郡ヲ爲シ一府縣ヲ爲シ一國ヲ形成スルモノ即チ國家ノ要素タル境土是ナリ

國家ハ法人ナリトノ說ハ近來公法學ノ發達ト共ニ學者ノ間ニ頌揚セララル所ナリト雖モ法人ナリト云フ觀念ハ法律ニ依テ得タル名稱タルニ過キスシテ自然人ト區別スルノ主意ニアラス、故ニ法人ト云ハスシテ人格ナリト云フヲ以テ正確ナリトス人格トハ通常私法ノ範圍内ニ於テハ權利ノ主体ヲ意味シ公

法ノ觀念ニ於テ人格ト云フトキハ權力ノ主体ヲ意味スルナリ、即チ權力ノ存在スル所ニシテ法律力之ヲ認ムルカ故ニ人格ナリ故ニ權力ノ主体ト云フハ即チ統治ノ主体ト云フト同一ニシテ帝國憲法ヲ解釋スルニ當テハ國家ハ統治ノ主体ナリト云フヲ以テ肯綮ヲ得タルモノトス、之ヲ詳言スレハ私法上ニ於テ人格ト(普通法人ト云フ)稱スルトキハ權利能力ヲ以テ其標準トスルカ故ニ團體其モノト組合人トノ間ニ權利義務ノ關係ヲ生スヘシト雖モ權力關係ナシ權力關係ノ存在スル所即チ服從關係生スルナリ然レトモ權力ニ對スル服從關係ト權利ニ對スル權利義務ノ關係トハ同時ニ併存スルコト毫モ抵觸ヲ見サルナリ而シテ以上ノ兩者相待テ國家ヲ組織スルノ基礎トナル故ニ公法私法併存シテ完全ナル國家ノ組織ヲナス所以ナリトス

第一章 國體

國家ノ組織ハ建國以來歷史上ノ關係ヨリ種々ノ種類ニ分タル即チ君主國ト云ヒ共和國ト云ヒ專政ト云ヒ立憲政体ト云フカ如キ名稱アリト雖モ是等ハ唯歴史或ハ政治學上ノ分類ニシテ國家カ公法上ニ於ケル區別ニアラサルナリ然レモ國家統治權ノ所在ヲ標準トシ又ハ統治權ヲ行フ体用ヨリ區別シテ國体ヲ別ツコトハ亦法理上ノ區別ヲ以テ論シ得ヘキナリ而シテ茲ニ所謂國体トハ即チ後者ヲ意味スルモノナリ」歐州ノ國体ヲ論スル學者ハ種々ノ解釋ヲ下スト雖モ我國体ヲ論スルニハ國家ハ統治ノ主体ナリト云フ

憲

法

ヲ以テ満足セサルヘラカス而シテ尙國家ヲ分ツテ君主國、非君主國ノ二トシ統治ノ主体カ特定ノ一人ナルトキハ之ヲ君主國トシ國家ト統治者トヲ別異スル國体ヲ非君主國ト稱ス而シテ君主國体ヲ區別シテ立憲政体、共和政体トナスハ政治上ノ區別ニ過キササルナリ我帝國ハ即チ君主國体中ノ立憲政体ニシテ君主ヲ以テ統治ノ主体トナシ國家ト君主ト同一体ヲナス故ニ君主ハ國家ノ機關トシテ權力ヲ有スルニアラサルナリ換言スレハ君主カ國家ヲ統治スルハ他ノ委任ニ依テ他人ノ目的ヲ達スル爲メニ之ヲ行フニアラスシテ君主ハ自己ノ目的ヲ達スルカ爲メニ自己ノ權力ヲ行フモノナリトス

之ヲ要スルニ國体ハ統治主權ノ所在ニ依テ分カレ政体ハ國家ヲ統治スルノ形式ナリ而シテ我國体ハ常ニ純正ナル君主國体ノ模範ヲ中外ニ表彰シ開闢以來未タ曾テ他ノ紛更ヲ許サス萬世無疆天壤ト極マリナシ之ニ反シ政体ハ時世ノ變遷ニ伴ヒ時ニ變轉アルヲ妨ケス即チ帝國憲法ハ以テ從來ノ政体ノ上ニ鞏固ナル基礎ヲ確定シタルニ過キス故ニ將來憲法ノ條項ヲ改正セラルルコトアルモ國体ノ變更ハ永遠ニ之ヲ許サ、ルナリ

第二章 憲法

憲法ハ國家統治ノ大法ニシテ成文法典タル特別ノ効力アルモノナリ換言スレハ國權ノ體ト用トノ大綱ヲ規定シタルモノナリ即チ憲法ハ君主カ大權ニ依リ制定シタルモノニシテ統治主權ノ行用ヲシテ一定

ノ軌道ニ據ラシメ國家ノ隆昌ト臣民ノ幸福ヲ増進スルノ大典タリ故ニ臣民ハ無限ニ之ニ遵由スヘクシテ苟モ之カ紛更ヲ試ムルヲ許サルナリ是レ即チ我帝國憲法ハ萬世一系ノ皇統ヲ繼カセ賜フ君主ノ發セラレシ詔命タルヲ以テナリ

帝國憲法ハ君主カ皇祖皇宗ノ遺烈ヲ承ク帝國國體ノ基礎ヲ紹述シタルニ過キササルヲ以テ國權ノ本源ニアラサルハ勿論又統治ノ主權ヲ制限スル成典ニモアラサルナリ故ニ君主ト國權トハ兩々相對峙シ相抵觸スルコトナシ彼ノ歐洲ノ學者カ唱フル如ク憲法ヲ以テ君主ノ權力ヲ制限スルモノナリトナスカ如キハ到底我立憲ノ本旨ニ悖戾スルノ誤認ノ見解タルヲ免レサルナリ從テ憲法ノ改正ヲ必要トスル場合ニ於テモ獨リ君主カ之レカ發案權ヲ有スルモノニシテ帝國議會ハ唯參贊ノ任務アルニ過キササルナリ加之此場合ニ於テハ兩議院各其總員三分ノ二以上出席スルヲ要シ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得サルコトトセリ(憲法第七十三條)

然レトモ憲法ノ規定スル所ハ唯國家統治ノ大綱準則ヲ示スニ止マリ其細綱ニ至テハ此憲法ノ條規ニ依リ便宜法律命令ヲ以テ臣民ニ遵由ノ效力ヲ及ホスモノトス是レ蓋シ君主カ帝國ノ元首トシテ統治權ヲ總攬スルハ即チ國家統治ノ本體ニシテ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フハ即チ統治ノ作用ナリ尙ホ之ヲ云ヒ換ユレハ君主カ種々ノ統治機關ヲ設ケテ各其政務ヲ行ハシムルハ即チ其作用ニシテ君主カ法律ヲ裁

憲

法

憲

法

可シ及諸般ノ命令ヲ發シ又ハ發セシムルハ君主カ統治ノ本體タルヲ以テノ故ナリ
既ニ憲法ハ統治權ノ体用ヲ規定シタルモノナリトセハ之ヲ區別シテ統治ノ主体、客體、機關及作用ノ四種トナスヲ得ヘシ即チ主体ハ君主ノ身體ニシテ客體ハ統治權ノ及フ範圍ナリ機關ハ即チ統治ノ器具ニシテ作用ハ統治權行使ノ形式ナリトス以下之ヲ四編ニ分チ法理上ヨリ帝國憲法ノ解說ヲ試ミント欲ス

第二編 天皇

第一章 統治ノ主體

日本帝國ハ純粹ナル君主政體ナリ憲法第一條ハ之ヲ保明シテ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治スト云ヘリ即チ君主ハ統治權ノ主體ニシテ君主ノ權力ハ即チ統治權ナリトス依是觀之ハ統治權ト君主トハ相密接シテ離ル可カラサルノ性質ヲ有ス即チ左ニ我國體ニ依リ君主制ノ特質ヲ論ス

第一君主ト謂フ資格即チ皇位ハ國家ノ機關ニアラサルナリ歐洲ノ國法ヲ論スル學者ノ間ニ君主ヲ以テ國家統治ノ機關ナリト云フ說盛ニ行ハルト雖モ君主ヲ以テ國家ノ機關ナリト謂フ說ヲ詳解セハ君主ハ即チ國家ノ器械ニ過キスシテ統治ノ目的ヲ達スル爲メニ權力ヲ委托シタルモノナリト論結セ

サルヘカラサルニ至ルノ虞レアリ然レトモ我國體ニ於テハ決シテ此說ヲ認了スヘカラサルナリ即チ君主ノ權力ハ決シテ他ノ委託ニ出テスシテ自己固有ノ獨立權力ナルコトヲ忘ルヘカラサルナリ

第二君主ハ統治權ノ全部ヲ有ス然レトモ歐洲ノ君主制ノ國ニ在テハ事實上又ハ憲法上種種ノ變則ヲ認メ君主ハ統治權ノ主体タリト雖モ其作用ハ憲法ニ依テ制限セラルト云フニアリ加之ナラス白耳義國ノ憲法ノ如キハ國權ノ本体ハ人民ニアリ君主ハ人民ノ委託ニ依テ統治權ヲ運用スルト云フ觀念ニ出テタルカ如シ故ニ近來ノ立憲政体ヲ論スル者ハ或ハ彼ノ三權分立說ヲ踏襲シ國家ノ主權ヲ立法、司法、行政ノ三權ニ分別スト云フ觀念ヲ抱クモノアリト雖モ以上ハ我國體ノ精神ト相容レサル所ニシテ君主ノ統治權ハ絕對無限ナリ君主ハ即チ統治權ナリト云フニアラサレハ我憲法全体ヲ解説スル能ハサルニ至ル

第三帝國憲法ハ天皇ノ意志ノ發表ナリ是レ又歐洲ノ君主制ノ國ト其主旨ヲ異ニセリ歐洲ノ憲法ニ於テハ君主ノ地位ハ憲法ニ依テ其地位ヲ得ルモノトナシ國家ト君主トヲ區別シタル觀念ニ出ツ即チ君主ノ意思ハ憲法ニ依テ制限セラルト云フニアリ是レ我憲法ト其性質ヲ異ニス我國體ニ於テハ帝國憲法ハ天皇ノ命スル所ニシテ君主ト國權トハ同一體ニシテ其間ニ分界ヲ立ツヘカラサルコトハ亦々間接ニ之ヲ證明シ得ラルヘシト信ス

法

憲

憲

法

第四君主ノ權力ハ固有ニシテ關係的ノモノニアラス是レ我國建國以來ノ歴史ニ徴シテ明カナル事實ニシテ何人モ疑ハサル所ナリ歐洲ノ諸國ニ於テハ昔時封建時代ニ於ケル諸侯割據ノ制度ニ酷似シタル所アリ恰モ統治權ヲ以テ所有權ノ如ク見做シ他ニ移轉、贈與、分割スル等ノ事ヲ爲シ得タリシカ如シ是レ即チ統治權ト國土ノ所有權ト同一視シタル結果ナルヘシト雖モ我國ノ統治權ハ大ニ之ニ異ナリ建國ノ基礎ニ於テ既ニ獨立固有ノ原因アリテ存ス之ヲ要スルニ苟モ我帝國ノ國法ヲ論スル諸士ハ歐米文明國ノ制度ヲ參考スル素ヨリ必要ナリト雖モ彼我建國ノ歴史ニ於テ大ナル差異アルコトハ須ラク常ニ之ヲ念頭ニ置クヲ要ス何トナレハ各國政体ノ如何ハ其國固有ノ歴史ト重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ從テ其國憲法ノ如キハ古來ヨリ固有ノ歴史ノ上ニ建設セラレタルヲ以テナリ

第二章 統治權

統治權ハ君主カ帝國臣民ニ對スル唯一ノ統治ノ權力ニシテ獨立シテ固有ノモノタリ故ニ又之ヲ分割スベカラサルナリ彼ノ攝政ヲ置ク場合ニハ外面上統治權ヲ分割スルカ如キ形式アリト雖モ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ統治ノ一部ノ本体タルニ過キスシテ此場合ニ於テハ君主ト攝政トカ相合シテ統治ノ全体ヲ爲スモノニシテ統治權ノ分割ニアラサルコトハ蓋シ何人モ疑ハサル所ナリ歐洲ノ國法學ニ於テハ統治權

ヲ稱シ主權或ハ國權等ノ名目アリ從テ其間ニ多少ノ異ナリタル意味ノ存スルコトナレトモ我國法ニ於テハ以上ノ三者皆同一物ト解釋シテ差支アルヲ見ズ

統治トハ絶對的無條件ニ國家カ臣民ニ對スル命令關係ナリ而シテ茲ニ絶對的ト云フハ法令ニ依テ臣民カ國家ニ對シ服從關係ヲ生スルノミナラズ常ニ臣民ハ國家ニ對シ絶對無限ノ服從關係アルカ故ニ國家ノ法令ニ服從セサルヘカラス換言セハ法律命令ハ統治ノ原因ニアラスシテ統治ノ結果ナリ即チ法律命令ハ統治權ノ發表ニ外ナラサレハナリ人或ハ法律ノ効力ヲ目シテ神聖ナリト云フハ誤解ニシテ寧ロ法律ハ神聖ナル統治權ノ作用ナルカ故ニ之ニ服從セサルヘカラスト云フニ歸ス何トナレハ法律命令モ君主ノ意思ニ依テ廢止若クハ消滅セシムルコトアルヲ以テ通常トスレハナリ然ルニ佛白等ノ憲法ニ於テハ之ニ反シテ法律ハ神聖ニシテ君主神聖ニアラス故ニ君主モ又法律ノ下ニアリト云フノ精神ナリト雖モ是レ全ク我國法ノ精神ト異ナル所ヲ了解スヘキナリ

尙茲ニ一言スヘキハ統治權ハ權利ニアラスト云フコト是レナリ君主ハ統治權ヲ總攬スト云フトキハ外形上統治權ト云フ一種ノ權利ヲ有スルニ似タリト雖モ普通ニ權利ト云フトキハ利益之ニ伴ハサルヘカラス又權利ノ半面ニハ必ス義務アリ權利義務ヲ判斷スルニ此兩者ノ外ニ獨立ノ權力者ナカルヘカラスルニ依テ之ヲ見ルモ統治權カ權利ニアラサルコトハ了解セララルナリ之ヲ要スルニ君主ハ即チ統治權

憲

法

ニシテ君主ノ意思ハ即チ統治ノ本体ナリト云フヘシ之ヲ形容シテ云ヘハ君主カ統治權ヲ有スルト云フハ尙ホ各人ハ意思ノ自由ヲ有スト云フ辭ト同シ意味ナリト知レハ可ナリ

第二章 帝國君主ノ地位

憲

法

帝國君主ノ地位ハ憲法第三條ニ於テ宣明セラレタリ即チ天皇ノ資格ハ他ノ委託ニ依ラス自己獨特ノ權カトシテ天皇ノ位ニアリ國家ヲ統治スルモノナルコトハ既ニ之ヲ説明シタリ故ヲ以テ天皇ト帝國トノ關係ハ法律上ノ名義ニアラスシテ代理代表ノ關係ニアラサルナリ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストハ君主ノ地位ハ絶對無限ニシテ毫モ他ノ制限ヲ受クルコトナク何人ノ權力ノ下ニモ立タサルヲ明言セルナリ歐洲ノ國法ノ精神ニ於テハ君主ノ地位ヲ稱シテ無責任ナリ、或ハ統治者タルノ位ナリト解釋スルモノアリト雖トモ兩者ハ共ニ我國法上採ラサル所ナリ何トナレハ君主ノ地位ヲシテ果シテ統治者ノ位ナリトセハ君主ノ身體ト統治權其モノトヲ區別シタルノ議論トナリ我國法ノ精神ニ適セス又無責任ナリト云フハ其語辭甚タ穩當ナラサルノ虞レアリ蓋シ責任ト云フハ權力者ニ對スル服從ノ關係ヨリ出テタル名稱ニシテ帝國君主ノ地位ノ如ク公法上絶對ニ服從ノ關係ナキ天皇ニ向テ無責任ナリトノ解釋ハ當テ得ス要之ニ我憲法ノ此條ハ無責任ナリト云ハスシテ積極的ニ侵スヘカラスト云フハ即チ君主ハ憲法ニ依リテ其實ヲ免カル、ニアラスシテ當然ニ其責任ナキコトヲ意味スルナリ

憲

君主ハ絶對的ニ侵スヘカラサルモノナリ但シ此意味ハ刑法ノ制裁ナシト云フ意味ノミニ止マラス、警察ノ力或ハ兵力ヲ以テモ侵犯ノ行爲ヲ鎮壓シ得ルコトハ當然ナリ然ルニ特ニ我刑法ニ於テ君主ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ不敬ヲ加フル者ヲ公益ニ關スル編中ニ掲ケタルハ恐ラクハ歐州ノ觀念ニ出タルヲ疑ハスハアラス何ントナレハ我刑法ノ精神ヨリ之ヲ觀察スレハ君主ノ地位ヲ保護スルハ公益ヲ主トシテ君主ニ服従スルノ觀念ヲ養フカ如キ弊アルヲ以テナリ然レトモ憲法ノ精神ハ刑法ノ規定ニ拘ハラス神聖ニシテ侵スヘカラストハ公益ヲ害スル結果ニアラス君主タル官職ヲ保護スルノ意思ニモアラサルナリ亦君主ノ地位ハ決シテ官職ニモアラサルコトヲ記憶スヘシ

君主ハ亦當然ニ法律命令ノ適用ノ範圍外ニアリトス法令ハ權力者ノ服従者ニ討スル關係ニシテ法律ノ効力ハ君主ニ遡及スヘカラサルヲ原則トス之ヲ例言スレハ君主ハ國法上凡テ人事負擔ヲサス又君主ハ納稅ノ義務ヲ有セス刑事民事ノ制裁ヲ受ケス警察ノ力ヲ及ホスヲ得サルヲ云フナリ換言スレハ凡テ法律命令ハ君主カ意志ノ發表ニシテ臣民カ君主ニ對スル服従關係ヲ規定シタルモノニ外ナラサレハナリ然レトモ君主モ又憲法ノ規定ニ抵觸スルヲ得サルナリ即チ或ル行爲ヲ爲スニハ憲法上ノ形式ニ依ラサルヘカラサルヲ意味ス而シテ其形式ナキモノハ憲法上ノ行爲ニアラサルナリ

第四章 皇位ノ繼承及攝政

法

憲

皇位ノ繼承ハ統治ノ主體タル天皇ノ位ヲ繼承スルコトヲ云フ皇位繼承法理論ハ時代ト國柄ニ依リ區別アリト雖モ帝國憲法ニ於テハ皇室典範ノ規定スル所ニ依テ一定セラル是レ我國建國以來ノ歴史ニ依テ茲ニ之ヲ發表セラレタルニ過キサルナリ而シテ皇位繼承ノ順位ハ皇室典範ニ屬スルヲ以テ之ヲ説明セサルヘシト雖モ茲ニ注意スヘキハ皇位繼承ト民法上ノ相續トノ區別アルコト是ナリ皇位繼承ハ國家ノ成立元素タル領土、臣民及君主ノ地位ヲ世襲スルト云フ義ニアラスシテ何人カ統治ノ主體タル天皇ノ位ヲ繼承スルカヲ指示スルニ過キサルコト是レナリ之ヲ換言スレハ統治權ハ尙人ノ意志ノ如シ之ヲ人ニ讓渡スコトヲ得サルナリ故ニ統治權ハ君主タル人格ヨリ分離シ得ヘカラサル性質ヲ有ス之ニ反シテ私權ハ人格ヨリ分離シテ他人ニ讓渡スコトヲ得是レ即チ皇位繼承ハ私法上ノ相續ト其性質ヲ異ニスル所以ナリトス

皇位繼承法ハ政務ノ能力ノ如何ニ依リ位ニ即クノ妨ケトナラサルヲ以テ通常トス故ニ君主ノ身體若クハ精神上ノ故障ニ依リ自ラ統治權ヲ行フコト能ハサル場合ナキヲ保セス是レ即チ憲法及皇室典範ニ於テ攝政ノ制ヲ定メタル所以ニシテ攝政ハ君主ノ爲メ其權力ヲ行フモノナルコトヲ必要トス我國古來ノ歴史ニ於テハ攝政ヲ以テ一ノ官職トナシタル例尠ナキニアラスト雖モ茲ニ所謂攝政トハ大ニ其性質ヲ異ニスルコトヲ知ラサルヘカラサルナリ攝政ヲ置クノ必要アル場合ハ(第一)君主未タ成年ニ達セサ

ルトキ(第二)久シキニ亘ルノ故障アルトキ(皇室典範第十九條)ト以上二個ニ限ラレタリ第一天皇、皇太子、皇太孫滿十八年ヲ以テ御成年ト定メアルヲ以テ未成年ノ天皇ノ踐阼ト同時ニ攝政ヲ置クハ當然法定ノ結果ナリト雖トモ第二ノ場合ニ於ケル久シキニ亘ル故障ト云フニ付テハ學者ノ解釋一定セスト雖トモ立法ノ精神ハ若シ君主カ絕對的ニ政務ヲ親ラスル能ハサル場合アルトキハ攝政ヲ置クモノト認メタルカ如シ而シテ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フト云フ此簡單ナル文字ハ以テ攝政ノ性質ヲ充分ニ言顯ハシタルモノト云フヘシ試ミニ攝政ノ性質ヲ解説セハ殆ソト左ノ如シ

第一、攝政ハ統治權其モノニアラサルコト、此場合ニ於テハ未成年若クハ故障アル在位ノ君主カ即チ統治權ノ主体タルナリ即チ法律上ノ觀念ヲ以テ云ヘハ此場合ニ於ケル天皇ハ權力ノ能力者ニシテ權力ノ行使者ハ即チ攝政ナリトス

第二、攝政ハ官職ニナラス又臣民ニアラサルコト古昔攝政ナル官職ヲ置キ政務ヲ委任シタルコトアリト雖トモ憲法及典範ノ所謂攝政ハ統治ノ機關ニアラスシテ統治ノ本体ノ一部分タリ即チ君主ト攝政トハ國法上相一致シテ統治權ヲ行フモノナリ從テ攝政ハ官職ニアラス又臣民ニモアラサルナリ

第三、攝政ハ臣民ニアラサルノ結果外形ニ於テハ君主ト同一ノ待遇ヲ受ク

第四、攝政ト君主ノ差異、攝政ヲ置クノ間ハ憲法及皇室典範ハ之ヲ改正スルヲ得サルナリ(憲法第

法

憲

五十七條)

攝政ヲ置クノ順序ハ皇室典範ノ明文ニ於テ之ヲ掲ケタリ讀者須ラク就テ研究スヘシ

第三編 統治ノ客體

第一章 領土

凡ソ國家ヲ組織スルニハ三個ノ要素ヲ備フルヲ要ス即チ君主、領土及臣民是レナリ君主ハ統治ノ主體ニシテ領土及臣民ハ其客體ナリトス而シテ此主客ノ關係ハ即チ治者被治者ノ關係ニシテ以上ノ三者ヲ具備スルニアラサレハ完全ナル公法上ノ國家ト稱スヘカラサルナリ而シテ統治ノ主體ハ既ニ前編ニ於テ之ヲ説明シタルヲ以テ是レヨリ統治ノ客體ニ就テ研究ヲ試ミント欲ス

領土トハ帝國ノ版圖ニシテ統治權ノ及フ範圍ヲ稱スルヲ以テ通則トス然レトモ之レカ例外トシテ我統治權カ領土以外ニ及フコトナキニアラス例ヘハ彼ノ治外法權ヲ有スル支那朝鮮ニ於ケル居留地制度ノ如キハ明カニ帝國ノ統治權ノ領土以外ニ及フ實例ニシテ其他臣民ニ就テモ又此例外ナキニアラス即チ彼ノ帝國ノ臣民ニシテ外國ニ在留スル者ニ就テモ外國政府ノ之ヲ許ストキハ我主權ヲ他國ノ範圍内ニ及スコトヲ得ルハ國際上普通ノ慣例ニシテ以上ノ二場合ハ眞ニ領土權ノ例外ナリトス現今文明國ノ國

法

憲

體ニ於テハ主權ハ常ニ一定ノ領土ニ及ホスヲ以テ通例ト爲スカ故ニ帝國ノ版圖ハ即チ我統治權ノ及フ一ノ標準タルコトヲ知ルヘキナリ歐洲及我國ノ歴史上ノ觀念ニ於テモ領土ハ即チ君主若クハ國家カ所
有權ヲ有スル土地ナリトノ解釋ヨリ國家領土ノ範圍ヲ稱シテ最高ノ所有權ナリト稱スル說アリト雖ト
モ此詞ハ未タ統治權ト所有權トヲ混同シタルノ見解タルヲ免カレサルニ依ルナリ何ントナレハ統治權
ト所有權ノ區別ハ甲ハ之ヲ他ニ移轉賣買スルヲ得スト雖トモ乙ハ所有者ノ自由ニ讓渡移轉スルヲ得ヘ
キヲ以テナリ

帝國憲法ハ何レノ場合ニ於テモ單ニ帝國又ハ大日本帝國ト云ヒテ帝國ノ版圖ヲ列記セサルハ廣ク帝國
主權ノ及フ範圍ヲ指シタルモノニシテ即チ其範圍ハ事實ノ問題ニシテ解釋ニアラサルナリ

第二章 臣民

臣民ハ統治ノ客體ナリ目的物タリ臣民タル資格ハ管ニ國家ノ領土ニ居留スルト云フコトノミヲ以テ臣
民タラス必ズ別ニ權力關係ノ特質アルヲ要ス故ニ臣民ハ領土内ニ在ルト外國ニアルトヲ問ハス臣民タ
リ故ニ之レカ反對ニ國內ニ居住スト雖トモ外國ノ人民ハ臣民ト云フヘカラサルナリ是レ即チ特別ナル
服從干係(臣民タル資格)ヲ有セサルヲ以テナリ臣民トハ身分ニ伴フ服從關係ニシテ當事者ノ意思ニ依
ル服從關係ニアラサルナリ當事者ノ意思ニ依ル服從關係ハ法律上ノ行爲ニ依リ生スルモノトス例ヘハ

法

憲

外國人ハ歸化法ニ依リ他國ノ臣民トナルカ如キ即チ國法ノ結果ニ依リ其國ノ臣民籍ヲ得ルニ外ナラ
ス

歐洲ノ學者殊ニ民法學者ハ臣民籍ヲ以テ一ノ權利ノ如ク説明シ臣民ノ資格ノ得喪ヲ名ウテ臣民權ヲ得
又ハ失フト云フモノアリト雖トモ开ハ正鵠ヲ得サルカ如シ蓋シ臣民タル資格ハ人民カ國家ニ服從スル
狀態ニアリト云フニアリ即チ權利ノ集合ニアラスシテ身分カ他ノモノニ支配セラレル所ノ服從ノ狀況
ナリ故ニ臣民籍ハ權利ニアラスト云フニ歸ス

或人ハ亦君主及國家ニ對シテ忠誠ヲ盡スヘシトノ條件ヲ以テ臣民タルノ本領ナリト云フモノアリ此解
釋ハ強キ之ヲ排斥スヘキニアラスト雖モ法律上臣民タル資格ノ本領ハ寧ロ完全ナル服從者ナリト云フ
ヲ以テ正當ナリト認ム故ニ忠實或ハ誠忠ト云フハ即チ服從ノ狀況ヨリ起ル結果ナリト云フヘキナリ
帝國憲法ニ於テ日本人民ト記セスシテ特ニ臣民ト云フハ意味ノ存スル所ニシテ佛國ノ如キ純然タル立
憲政體ニ於テハ臣民ト云ハスシテ人民ト稱スルハ可ナルモ我帝國ノ如キ君主制ノ國體ニ在テハ君主ニ
對スル服從關係ヲ稱シテ特ニ臣民ト云フナリ

法

憲

第三章 臣民ノ權利義務

憲法第二章ハ臣民ノ權利義務ト題シ國家ト臣民トノ關係ヲ列舉シタリ凡ソ普通ニ權利義務ト云フ觀念

憲

法

ハ双互間ノ平等關係ニ於テ國家機關、即チ裁判所ノ援助ニ依リ一方ヲ強制シテ他方ノ意志ニ從ハシムル不平等ノ法律關係ヲ云フ然レトモ茲ニ所謂臣民ノ權利義務トアルハ此意味ニ對スル權利又ハ義務ニアラスシテ法律ニ於テ保護シ確認セラレタル臣民ノ利益及自由ナリト解スルヲ以テ穩當ナリトス然ルヲ若シモ憲法上臣民ノ權利義務トアルヲ以テ直チニ普通ノ觀念ニ依テ之ヲ解釋スルモノアラハ是レ實ニ大ナル誤解ナリト云ハサルヘカラス何ントナレハ國家ト臣民トノ關係ハ國權ニ對スル無限ノ服從關係ニシテ而シテ此不平等ナル兩者ノ間ニハ法律上所謂權利義務テハ觀念ハ到底之ヲ生セサレハナリ尙之ヲ詳言スレハ臣民ハ國家主權ニ對シテ絕對的服從關係ヲ有シ而シテ之レト同時ニ國家モ亦臣民ニ對シテハ何等ノ義務ヲ負フコトナシト云フニアリ歐洲ノ學者ハ臣民權ト稱スルモノヲ認メ恰モ臣民カ國家ニ對シ權利(強制束縛權力)ヲ有スルカ如ク説クモノアリト雖モ开ハ何レモ歷史的問題ニ屬スルヲ以テ此法理ヲ直チニ我國體ニ適用セントスルカ如キハ大ナル誤解ヲ招クニ至ルノ虞レナリ即チ左ニ此主義ヲ以テ帝國憲法上ノ權利義務ヲ説明セント欲ス

臣民ノ權利ト云フハ國法ノ制限ニ依テ享有スル權利ヲ汎稱スルノ意ニシテ臣民カ主權ニ對シ一定ノ權利ヲ有スルト云フノ意味ニアラサルナリ故ニ憲法上ノ臣民ノ權利ハ之ヲ強制力ト看做サス寧ロ之ヲ臣民ノ利益ト看做ササルヘカラス即チ國法カ臣民ノ利益ヲ認メテ保護ヲ仰クコトヲ許シタル場合ニ於テ

憲

凡テ權利アリト認メタルナリ例ヘハ兵役、納税ノ義務及住居移轉ノ自由、逮捕監禁審問處罰ノ擔保等憲法第二章ノ各條項ハ凡テ臣民ノ利益自由ヲ法律ヲ以テ擔保セラレ又法律ノ規定ニ依ルニアラサレハ之ヲ奪ハルルコトナキヲ保明シタルニ過キササルナリ依是觀之ハ臣民ノ權利ト云ヒ義務ト云フモ同一物ニ對シ只其觀察點ヲ異ニシタルニ過キスシテ臣民ノ利益自由ハ其ニ法律ニ依テ之ヲ保護シタルコトヲ宣明セルニ過キササルナリ

第四章 臣民籍ノ得喪

日本臣民ノ分限ハ法律ノ定ムル所ニ依ルトハ憲法第十八條ノ規定スル所ニシテ通常臣民籍ヲ得ル場合ハ第一親族法ノ結果ニ依リ第二國權ノ特別ノ作用ニ依リテ之ヲ取得スルモノトス然レトモ我國未タ完全ナル法律ナキニ依リ茲ニハ只普通ノ原則ヲ説明スルニ止メントス、第一親屬法ニ依ル臣民ノ分限ヲ取得スル事實ハ誕生、認知、婚姻トノ三個ノ場合ナリトス蓋シ誕生ハ最モ普通ニ臣民タル資格ヲ生スル分限ノ取得事實ニシテ日本人ノ子ハ日本人ナリ故ニ其父ノ日本人ナルトキハ其子ノ日本人タル索ヨリ論テ俟タスト雖モ其母ノミカ日本人ニシテ父カ外國人タル場合ニハ直ニ其子ヲ日本人ナリト云フコトヲ得サルナリ故ニ若シモ外國ノ法律ニ於テ妻ハ夫ノ身分ニ從フモノナルトキハ外國人ニ嫁シタル日本ノ婦人ハ外國ノ籍ニ入ルヲ以テ其間ニ生シタル子ハ又外國人タルナリ然レトモ誕生地ノ内外國ノ區

法

憲

法

別ハ臣民籍ニ何等ノ關係ヲ有セサルナリ即チ外國ニ於テ生レタル日本人ノ子ハ日本臣民タルト同時ニ日本ニ於テ生レタル外國人ノ子ハ日本人ニアラサルコト亦タ勿論ナリトス次ニ認知ニ依テ臣民籍ヲ得ルコト云フ所以ハ父カ私生ノ子ヲ自己ノ子ナリト認知シタルトキハ其子ハ父ノ屬スル國ノ臣民籍ニ入ルナリ而シテ此場合ハ婚姻ノ有無ハ素ヨリ之ヲ問ハサルナリ但養子ハ認知ノミテ以テ臣民籍ヲ得ル能ハサルナリ例ヘハ外國人ヲ養子トナストキ養子タル行爲ノ外ニ歸化ノ手續ヲ要スレハナリ尋テ婚姻ハ外國人(妻)ヲシテ日本人(夫)ノ臣民籍ヲ取得セシムルコトハ妻ハ夫ノ身分ニ從フトノ原則ノ結果ニシテ敢テ説明スルノ要ヲ見ス以上ハ只親族法ノ結果ニ依リ臣民籍ヲ得ル場合ノ概略ナリ次ニ國權特別ノ作用ニ依テ臣民籍ヲ得ル場合ハ外國人カ日本ニ歸化スル場合ナリ抑モ歸化ハ如何ナル性質ノモノナルヤトノ問題ハ學說種種アリト雖モ一言ニテ之ヲ掩ヘハ歸化ハ當事者ノ意思ニ依テ國家カ定ムル所ノ命令ナリト云フヲ以テ穩當ナリトス我國未タ純然タル歸化法ノ設ケナリト雖モ政府ノ特許ヲ以テ歸化ヲ許シタル實例少ナキニアラサルナリ

臣民籍ヲ失フ場合ハ前ニ述ヘタル取得ノ場合ヲ反對ニ考フレハ之ヲ了解スルニ難カラサルヘキヲ以テ之ヲ省ク政府ノ處分ニ依テ臣民籍ヲ失フコトハ任意ノ場合ト強行ノ場合トノ二ツアリ(一)外國ニ歸化セシムルコトヲ請願スル者ニ就テ之ヲ許スト否トハ政府ノ自由ニアルコト(二)政府カ國民ノ臣民籍ヲ隨意

憲

法

ニ剝奪スルコト即チ許可ヲ得シテ十年以上外國ニ留マリ歸國ノ意志ナキトキ又ハ外國政府ノ軍隊ニ入り又ハ官吏トナルトキハ其臣民籍ヲ剝奪スルカ如キ政府カ隨意ニ臣民籍ヲ奪フ場合ナリトス

第四編 統治ノ機關

第一章 總說

君主ハ統治ノ主体ニシテ領土及臣民ハ統治ノ客體ヨリ目的タルコトハ前ニ編ヲ別チテ之ヲ論述シタリ然レトモ君主カ統治權ヲ行フニ當リテハ其作用ヲ掌ル所ノ機關ノ設定ヲ要ス之ヲ稱シテ統治ノ機關ト云フ換言スレハ君主カ國家ヲ統治スルノ機關ナリト云フ意味ナリ尙之ヲ詳解スレハ機關ト云フ辭ハ自己獨立ノ目的ヲ有セスシテ他人ノ用ニ供スルモノニシテ機關ハ法人タルノ人格ヲ有セサルナリ故ニ自ラ權利ノ主体タルヲ得ス例ヘハ尙ホ內務省ト云フ官府ハ內務行政ヲ監督スル君主ノ機關ナリト雖モ內務省ナル營造物其物ハ機關タル人格ナキト同一ノ意味ニシテ憲法第四條ニ於テ君主ハ憲法ノ定ムル所ニ依リ統治權ヲ行フト云フハ統治ノ機關ハ憲法ニ依テ設定セラレ君主ハ之ニ依テ統治權ヲ行フト云フノ義ナリ而シテ憲法其モノハ君主カ欽定スルモノナルコトヲ知ラハ憲法モ亦統治ノ機關タルコトハ固ヨリ疑フヘクモアヲサルナリ以下統治ノ機關ヲ各別ニ論セン

第二章 帝國議會

憲

歐洲ノ國法學者ノ間ニハ國會ヲ目シテ統治者ナリト云フモノアリ、被治者即チ臣民ノ代表者ナリシト云フ説ナリ或ハ臣民ノ代表者ニシテ國家ノ自治機關ナリト説クモノアリト雖我國體ノ精神ニアラス帝國憲法ノ精神ニ於テハ帝國議會ヲ以テ統治ノ機關ナリトスルニアリ即チ君主カ國家ヲ統治スル爲メニ設立スル所ノ機關ナリト云フ意味ニ歸ス然レトモ何レノ國何レノ時代ヲ問ハス悉ク此法理ヲ以テ説明シ得ヘシト誤解スルコトナカレ何トナレハ各國其國ノ歷史上ノ沿革ニ依リ憲法ノ精神ヲ異ニスルモノ多キヲ以テ讀者ノ須ラク注意スヘキ點トス以下漸チ追フテ帝國議會ニ關スル事項ヲ解説セント欲ス帝國議會ハ合議體ノ官府ニシテ法人タル資格ヲ有シ自己獨立ノ權力ヲ有スルニアラサルナリ而シテ之ヲ組織スル所ノ方法ハ憲法及法律命令ノ定ムル所ニ依テ之ヲ開閉スルモノトス而シテ議會ハ貴族院衆議院ノ二局部ヨリ成立ス故ニ議會トシテノ職權ハ議會其モノニ存シ各院別々ニ獨立シテ職權ヲ行フモノニアラサルナリ憲法ハ大體ニ於テ議院ノ組織及權限ヲ認メ其詳細ナル事項ニ就テハ總テ之ヲ他ノ法律命令ニ讓レリ而シテ帝國憲法ハ二院制度ヲ採用シタリト雖トモ議院ノ一院制ナルト二院制度ナルトハ組織ノ便宜論ニ屬シテ國會ノ性質ニハ直接何等ノ關係ヲ有セサルナリ又其權限ノ如キモ我憲法ニ於テハ議會ノ決議ハ尙他ノ官府カ政務ヲ議決スルト等シク君主ノ直接間接ノ裁可ニ依ルニアラサレハ其

法

憲

法

効力ヲ生スルモノニアラサルナリ左レハ議會ハ君主ヨリ分離セラレタル獨立意志ヲ發表スル効力アルモノニアラサルナリ故ニ議會ノ權限ハ憲法及法令ニ依テ其職ヲ行フ外總テノ法則ヲ遵守スヘキコト取テ他ノ統治ノ機關ト異ナルコトナシ或ハ説クナスモノアリ曰ク議會ハ自己ノ議決ヲ經タル法律ノ外總テ國家ノ法則ニ檢束セラルルコトナシト然レトモ是レ大ニ誤解ナリトス何トナレハ議會ヲ以テ國家統治ノ機關トシテハ憲法及議院法其他ノ檢束ヲ受クルハ勿論一ノ造營物トシテハ行政官カ管理シ運轉スル所ノ法規ノ支配ヲ受クルヲ要ス而シテ其議會ノ議員ハ撰擧ニ依リテ定ムルト或ハ任命其他ノ方法ニ依リテ之ヲ組織スルトハ議會カ國家ノ機關タル性質ヲ左右スルモノニアラサルハ勿論ナリトス即チ我帝國議會ハ其議員ヲ擧クルニ或ハ撰擧ニ依リ或ハ君主ノ勅任ニ依リ或ハ當然議員ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ宛ツ尙茲ニ一ノ注意スヘキハ議會ハ命令權ヲ有セス又處分權ヲ有セサル國家ノ機關タルコト是レナリ彼ノ通俗ニ所謂國會ハ國ノ立法府ナリトノ觀念ハ容易ニ世人ヲシテ誤謬ニ陥ラシムルノ虞レアリ何トナレハ議會ハ自ラ立法者タル能ハサルノミナラス立法者ノ委任ヲ受ケテモ法則ヲ命令シ得ルモノニアラサルナリ又議會ハ法律案ヲ議スルト雖モ其名ニ於テ法令ヲ設定スルコトヲ得ス（議院規則ハ議院内ノ秩序ヲ保維スルモノナルヲ以テ例外トス）又行政ノ行爲ニ就テ決議スルコトヲ得ルト雖トモ行政處分ヲ行フコトヲ得ス依是觀之ハ議會ハ立法機關ニアラス行政機關ニアラスシテ君主カ統治權

ヲ行フ爲メニ諮詢ノ府トシテ設ケラレタル參與機關ナリト云フヘシ

議會ハ君主ノ權力ヲ制限スルモノナリトノ解釋ハ學者ノ間ニ盛ニ行ハルト雖モ果シテ議會カ君主ノ權力ヲ制限スルモノナリトセハ勅令ニ國務大臣ノ副署ヲ要スルモ其他行政或ハ司法ノ國家ノ機關カ憲法ノ明文ニ依リ行動スルモ皆等シク君主ノ權力ヲ制限スルモノト云ハサルヘカラサルニ至リ其語辭甚ク穩當ヲ缺クノ嫌アリ尤モ廣キ意味ニ於テ制限スルカ如キ形式アリト雖トモ其實質ニ於テハ君主カ親ラ憲法法律ヲ設ケ各種ノ機關ニ依テ任意ニ政務ヲ行ハシムルモノニシテ語ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ君主ノ權力ハ君主自ラノ機關ニ依テ制限セラルルモ歐洲學者ノ所謂國會ハ人民ノ代表者タル資格ニ於テ制限スヘキモノニアラサルコト勿論ナリトス

帝國議會ノ權限ハ憲法ニ依テ付與セラレタリ而シテ議會ハ其權限ヲ行フ爲メニ種々ノ行爲ヲナスノ自由アリ然レトモ其行爲ハ目的以外ニ背馳スヘカラサルナリ故ニ憲法及法律ニ認メサル行爲ハ法律上ノ効果ヲ生セサルナリ即チ議會ハ法律案ヲ議決スルノ權利ヲ有スルハ勿論上奏建議質問ヲナスノ權利ヲ有ス然レモ如何ナル事柄ニ付上奏建議質問ヲナスカハ憲法ニ列記セラレサルヲ以テ議會ノ自由ナリトス又議會ノ議決ヲ經テ裁可アリタルモノハ皆法律ナリトノ見解ヲ取ルモノアリ然レトモ單リ豫算ノ事ニ至テハ議會ノ協賛ヲ經ルモ法律ノ公布式ヲ用弗ス從テ豫算ハ法律ニアラサルコトハ現今學者ノ間ニ異

憲

法

論ナキ所ナリ

第三章 帝國議會ノ召集開會停會閉會及解散

帝國議會ハ國家統治ノ機關ナルコトハ前章ニ於テ之ヲ説明シタリ然レトモ議會ハ常設ノモノニアラスシテ其之ヲ召集開會停會閉會スルハ共ニ君主ノ大權ニ屬ス憲法第四十一條ニ帝國議會ハ毎年之ヲ召集ストアリテ一見スレハ召集ノ命令ハ議院ニ對スルカ如シト雖トモ開會以前ハ議會カ未タ成立ヲ告ケサルモノニシテ召集令ハ即チ一定ノ場所及一定ノ時日ニ集合スヘキコトヲ官報ヲ以テ公ニシ議員各個人ニ命令スルニ過キサルナリ人或ハ議會ハ毎年之ヲ召集ストアルヲ以テ君主ノ之ヲ召集セサルトキハ議員自ラ會合スルノ權利アルカ如ク解スルモノアリト雖トモ此憲法ノ規定ハ權利規定ニアラス從テ君主カ若シ議會ヲ召集セサルコトモアルトキハ國務大臣ニ其實アリト云フニ過キス然レトモ國務大臣ノ責任ハ議會ニ對スルモノニアラサルヲ以テ從テ又議會ノ權利ヲ毀損シタリト云フヘカラサルナリ

憲

法

議會ノ開會ハ君主之ヲ行フモノニシテ開會ニ依テ始メテ議院ノ成立ヲ見ルナリ故ニ召集後開會ノ式ヲ行ハセラレサル以前ニ在テハ議員タル當然ノ職權ヲ行フコトヲ得ス、只事實上ノ準備ヲナシ得ルノミ換言スレハ開會以前ノ議事ハ統治ノ機關トシテノ議會ニアラサルナリ

停會ハ議事ヲ停止スルモノニシテ會期ヲ短縮スルモノニアラサルナリ而シテ一面ニハ休會ト云フ文字

憲

ヲ用イ議事ヲ停止スルコト之レアルヲ見ル然レトモ憲法上停會ト云フトキハ議會ノ意思ニ拘ラス君主ノ命令ヲ以テ議事ヲ停止スルヲ云ヒ休會トハ議會ノ意志ヲ以テ何時ニテモ其議事ヲ休止スルコトヲ云フ要スルニ停會ハ職權ノ停止ニシテ休會ハ事實上ノモノタリ乍併會期ヲ紳縮スルモノニアラサルハ兩者同一ナリ尙茲ニ一ノ附記スヘキコトアリ憲法第四十四條第二項ニ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラレヘシト云ヘリ是レ貴族院ハ停會スヘクシテ解散スヘカラサルヲ意味セリ然レトモ此停會ナル文字ハ同第一項ノ停會トハ其意味ヲ異ニシ穩當ナラサルカ如シ何トナレハ衆議院ヲ解散セラレタルトキハ最早會期ハ斷絶シタルナリ會期ノ斷絶ハ寧ロ閉會(貴族院ニ對シ)ニシテ議事停止ニアラサレハナリ

閉會ハ議院ノ成立ヲ解クモノナリ停會ハ停會後ニ於テ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルト雖トモ閉會ハ會期ノ終了ヲ告ケタルナリ

法

解散トハ衆議院議員ノ任期ヲ短縮シ議員ノ資格ヲ奪フモノニシテ議會其モノノ解散ニアラサルナリ解散ヲ命スルノ權ハ君主ノ大權ニ出ツ然レトモ解散ハ必ス議院ノ成立後ナラサルヘカラスシテ成立セサル以前ニ解散ヲ命スルコト行ハサルナリ而シテ解散後五ヶ月以内ニ新議員ヲ召集スヘシト云フハ政府カ擅マ、ニ議會ヲ廢止スルノ專横ヲ豫防スルニ出テタルナリ

第四章 國務大臣

憲

統治ノ機關ハ帝國議會ノ外政府モ亦機關ノ一トス憲法ハ國務大臣及樞密顧問ノ章ヲ設ケ其主旨ヲ宣明セリ依是觀之モ國務大臣ハ君主ノ憲法上ノ機關ニシテ統治機關ノ一ナリ即チ政府トハ國務大臣以下官府ノ總稱ニシテ我國法ニ於テハ君主ハ統治ノ主體ニシテ統治ノ機關タル政府及帝國議會ノ上ニ特立シタル主權者ナリトス以下政府及國務大臣ノ職權ヲ述ヘシ

政府ハ君主カ大權ヲ執行スルノ府ニシテ臣民ニ對シテ命令權ヲ執行スルヲ以テ職權トス而シテ政府ハ官府ヲ以テ組織セラル官府ト云フハ國權ノ名ニ於テ國務ヲ掌ルモノヲ云フ故ニ行政官府ト云フトキハ統治權ノ執行ヲ掌ル官府ノ總稱ニシテ特ニ議會ニ對シテ政府ト稱スルトキハ行政ノ府ヲ指スノ意味ナリ政府ノ組織ハ監督權ノ分配ニ依テ統一セラル而シテ國務大臣ハ總テノ行政官府ヲ監督シ併セテ君主ノ大權ニ參與スルノ機關タルナリ

法

國務大臣ハ入テ君主ヲ輔弼シ出テハ各省事務ヲ掌リ大政ニ參贊ス然レトモ國務大臣カ國法上ノ位地ハ議會ト等シク憲法上ノ規定ニ依ル只議會ハ内部ニ於テ君主ヲ補助シ國務大臣ハ外部ニ對シテ君主ノ命令ヲ傳達スルコトヲ職トス要スルニ兩者共ニ憲法ノ規定ニ依リ君主ノ委任ニ依リ成立シ是レナクシテ能ク自立シ獨存スルノ力アラサルナリ而シテ其實ニ任ストハ國務大臣ハ君主ニ對シテ責任ヲ負フト云

フノ意味ナリ然ルニ動モスレハ國務大臣ハ君主ニ代テ議會又ハ人民ニ對シ責任ヲ負フモノナリト解釋スルモノアリト雖トモ君主ハ素ト神聖ニシテ責任ヲ負ハサルニ此責任ナキ行爲ニ付キ國務大臣カ代テ責任ヲ負フヘキ理由アルヘキ道理アラサレハナリ從テ大臣ノ職務上ノ責任ハ君主ニ對スルノ外何人ニ對シテモ責任ヲ負フニ及ハサルナリ

國務大臣ハ君主ノ凡テノ命令ニ副署ストハ文字ノ示スカ如ク君主ノ命令權ニ特ニ參襄シタルコトヲ署名スルニ過キスシテ副署ハ君主ノ命令ニ隨伴スル所ノ一ノ形式タリ學者或ハ副署ヲ以テ同意ヲ表スル意味ト解釋スルモノアリト雖トモ是レ論理ニ於テ誤リタル見解ナリトス何ントナレハ大臣ノ副署ヲ要スルハ即チ君主ノ命令ニシテ大臣ハ隨意ニ副署ヲ拒ムコトヲ得サレハナリ尙一ノ注意スヘキコトハ大臣ノ責任ハ副署ニ依テ生スルモノニアラサルコト是レナリ故ニ法令ニ副署セサルヲ口實トシテ其責任ヲ免カルルコトヲ得サルナリ

第五章 地方團體

地方團體ハ又統治機關ノ一ナリ是レ即チ國法全体ノ上ヨリ觀察シタルモノニシテ總テノ行政官府モ亦等シク統治機關ノ一部タルニ相違ナシト雖トモ純然タル中央行政官府ハ各省大臣之ヲ統轄スルモノナルヲ以テ從テ其責任ヲ以テ凡テノ行政官府ヲ掩フヲ以テナリ然レトモ當リ地方團體ハ其性質中央行政

憲

官府ト異ナリ獨立シテ統治機關ノ一部タルナリ何チカ地方團體ナリト云フニ一定ノ區域内ニ於テ自治團體ヲ形成シ法律上ノ人格ヲ有スルモノヲ云フ即チ自治團體タル市町村カ特別ノ法律命令ニ依リ中央行政ヲ併セ行フカ如キ例ヘハ地租其他國稅ヲ徵收スル事務等ノ類ハ即チ統治ノ機關タル資格ニ於テ之ヲ行フモノナリ然レトモ二者共ニ統治ノ作用ヲ掌ル機關タルコトハ忘ルヘカラサルナリ而シテ之ヲ區別スルノ理由ハ地方團體ハ自己ノ目的ヲ有シ地方共同ノ利益ヲ増進セン爲メ法人格ヲ認ムルモノニシテ官府行政ハ國家ノ目的ヲ達スル爲メノミニシテ法人格ヲ有セサルモノトス其詳細ナルコトハ行政法ニ讓ル

第六章 裁判所

裁判所ハ法律ニ依リ構成セラレタル司法權ヲ行フ官府ニシテ統治機關ノ一部タリ而シテ其性質ハ通常ノ廣キ意味ニ於ケル官府ト異ナルヲキテ以テ別ニ説明スルノ必要ナキカ如シト雖トモ帝國憲法ハ特ニ章ヲ設ケタリ是レ近世ノ立憲政體ノ觀念ニ於テハ議會ト政府及裁判所ヲ以テ統治ノ機關トナシ以上ノ三者ヲ以テ憲法上ノ國家ノ機關ト唱フルヲ以テ特ニ説明セントス

憲法ニ於テハ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトアリ依是觀之ハ裁判所ノ行フ事務ハ總テ司法權ニシテ訴訟事件ノミナラス權利ノ存在或ハ移轉ヲ確認スル行爲(登記事務)或ハ其他行政

法

憲

行爲管理行爲ノ性質ヲ有スル後見及財産管理制度ノ如キモ現今ノ規定ニ於テハ司法事件ト云ヘリ故ニ司法事務ニ付テハ訴訟事件非訴訟事件ノ區別アルコトハ以テ知り得ヘキナリ

裁判ト行政トハ何レモ法律命令ノ執行ヲ掌ルモノナルヲ以テ兩者ノ區別ハ其目的ニアラスシテ寧ロ其手續ノ異ナルニアリ即チ裁判トハ法律命令ニ依リ自己ノ自由ヲ束縛セラルヘキ當事者カ已ノ權利トシテ其事件ノ確定ニ參與スヘキ場合ヲ指シ當事者ニ參與ヲ許サスシテ國家ノ機關カ獨斷ヲ以テ命令ヲ爲ス手續ハ總テ之ヲ行政處分ト云フナリ尙茲ニ一言付記スヘキハ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトアルヲ解釋シテ裁判所ノ行フ事務ハ總テ法律ニ依ラサルヘカラス換言スレハ裁判所ハ法律ノ外命令規則アルコトヲ認メスト云フ解釋ヲ持スルモノアリ然レトモ是レ誤解タルヲ免レス蓋シ憲法ニ於テ法律ニ依ルト云フハ裁判所カ司法權ヲ行フニハ法律ノ範圍内ナルヲ要ス例ヘハ裁判所ノ構成及手續法(訴訟法)ハ法律ヲ以テ規定セサルヘカラスト云フノ意味ナリトス

法

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フトハ司法權ハ君主ノ權力ニ歸スルコトヲ明言シタルモノニシテ君主ヲ離レテ獨立スル權力ニアラサルヲ意味セリ果シテ然ラハ獨リ司法權ニ限リ此明文ヲ要スルヤトノ疑問ハ正當ニ起ル可キ問題ナリト雖トモ之ヲ解スル者ハ曰ク行政權ノ本体ト作用ト共ニ君主ニアリ之ニ反シ司法權ハ其本体ハ君主ニアリト雖其作用ハ裁判所ニアルヲ以テノ故ナリト是レ即チ普通ノ說ナリ

ト雖トモ未タ正確ナル理論ト看做ス能ハサルカ如シ

第五編 統治權ノ作用

第一章 大權

憲

統治權ノ主体、容体、機關ノ編ハ既ニ之ヲ説明シタリ而シテ統治權ノ作用トハ立法ハ議會、司法ハ裁判所、行政ハ政府ト云フカ如ク各其機關ニ依テ行ハシムルヲ通常トス、是レ即チ統用權ノ作用ノ分配ニ過キス、我國ニ於テハ君主ハ主權者ニシテ統治權ノ全部ヲ總攬ス、然リト雖モ君主ノ統治權ハ君主自ラ行フ所ノ部分ト機關ニ委任シテ行フ所トハ自ラ區別アルヘキナリ、故ニ我憲法ニ於テ君主ノ大權ト云フコトヲ認メ即チ君主カ直接ニ統治スル權力ノ作用ヲ認メタリ、如斯解釋セハ機關ニ委任シテ行ハシムル統治ノ作用ハ君主ヲ離レテ獨立セルカ如ク認メラルルト雖モ是レ只外形ニ於テ矛盾スルノミニシテ國法上ノ解釋トシテハ當ラサルナリ、例ハ法律、詔勅、勅令ハ等シク君主ノ意志ノ發表ナルニモ拘ハラス各其名稱ヲ異ニスルト一般、君主カ大權ニ依テ行フト機關ニ委託シテ行ハシムルトハ只統治權作用ノ方法ヲ異ニスルニ過キサナルナリ、故ニ君主ノ憲法上ノ大權ト云フハ君主カ憲法上ノ機關ニ委託セスシテ親ラ裁可シ行フ所ノ事柄ヲ稱スルモノト知ルベシ

法

憲法ニ於テ君主ノ大權ト然ラサルモノトテ區別スルハ君主ノ權力ヲ制限スルモノニアラズシテ君主カ直接ニ行フ所ノ事柄ト議會若クハ裁判所ノ機關ヲシテ行ハシムル事柄トテ區別スルノ必要ニ出テタルモノニシテ統治權ハ機關ノ爲ニ制限ヲ受クヘキモノニアラサルナリ、然共茲ニ親ラ行フトハ君主カ單獨ニ行フトノ意味ニアラスシテ國務大臣ノ副署ヲ要スルハ勿論、副署ハ大權ノ行使ニ何等ノ制限ヲ加フルモノニアラサルコトハ前ニ既ニ辨明セリト信ス、之ヲ要スルニ君主ノ大權トハ立法、司法、行政ノ上ニアル權力ニシテ此三者ハ君主カ機關ニ委託シテ行ハシムル統治ノ作用ナリト解釋スヘシ而シテ此三者ノ作用ノ基礎大綱ヲ掌握スル所即チ君主カ直接ニ權力ヲ行フ範圍ヲ名付テ君主ノ大權ト云フ例ハ法律ヲ裁可シ及公布執行ヲ命スルコト(憲法第六條)及第七條乃至第十六條ノ規定ハ皆君主ノ大權ノ範圍ニ屬ス

法

統治權作用ノ形式ヲ別テ二トナス(一)法規ヲ設クル行爲(二)法律ヲ事實ニ適用スル行爲トス換言スレハ國家カ法規ヲ設定シ若クハ處分ヲナズコトカ統治權作用ノ形式トス

第二章 立法ノ手續及法律ノ裁可、公布、檢束力

憲法ニ所謂法律ナルモノハ君主カ帝國議會ノ協賛ヲ經タル草案ヲ裁可シ公布セシムル所ノ成文法律ヲ云フ以下立法ノ手續ヲ述ヘン

憲

第一、法律案ノ制定及提案、法律案ヲ調製スルハ事實上ノ事ニ屬スルヲ以テ憲法ノ規定ハ之ニ對シテ特別ノ手續ヲ定メサルナリ然レトモ普通ハ政府カ其主管官吏ニ命ジテ之ヲ起草セシメ或ハ帝國議會議員各個人モ之ヲ草案スルコトヲ得、故ニ憲法上ノ法律案ニ就テハ何等ノ意義ナク只法律トナルヘキ草案ハ何人カ之ヲ調製スルモ差支アラサルナリ然リト雖モ立法ノ手續トシテ法律案ノ提出權ハ我々憲法ニ於テハ政府及兩院ノ三者ニ限ラレタリ、故ニ議員ノ發案ニ係ル法律案ハ其院ニ於テ第一讀會ヲ經テ法律案トナスノ議決ヲ經タルモノナラサルベカラズ、但豫算ノ提案權ハ獨リ政府ノ專有ニ係リ又憲法ノ改正案ハ大權ヲ以テノミ之レカ提出權ヲ有スルニ過キズ

法

政府カ議案ヲ議會ニ提出スルハ何レノ議院ヲ先キニスルモ隨意ニシテ我憲法ハ何レノ議會ニモ先議權アルコトヲ認メス、只一ノ例外トシテ豫算案ニ限り衆議院ニ先議權アルノミ而シテ先議權ハ議決ノ前後ヲ云フニ止マリテ政府カ之ヲ一院ニ提出スレハ既ニ議會ニ提出シタルモノタルヲ以テ兩院ノ議權ハ先議院ノ有無議案提出ノ前後ニ依テ輕重アルニアラサルナリ

第二、議會ノ議權 各議院ハ法律案ヲ可決シ又ハ修正スルコトヲ得、一院ニ於テ議決シタル法律案ハ之ヲ他院ニ送付スルナリ政府ノ提出ニシテ兩院ノ議決ヲ經タルトキハ政府ヨリ上奏裁可ヲ請フ之ヲ以テ議會ノ立法手續ヲ終了スルモノトス

憲

第三、法律案ノ裁可及公布 君主ハ法律案ノ議決ヲ裁可シ又ハ裁可セサル自由アリ故ニ議會ハ採否如何ノ返答ヲ君主ニ請求スルノ權ナシ又裁可ノ期限ヲ定メザルナリ、然レトモ次ノ會期マデニ公布ナキトキハ裁可ナキモノト知ラザルヘカラス(議院法第三十二條)政府提出案ニ付テモ君主ハ裁可不裁可ノ自由アルコト議院ノ提出案ト異ナルコトナシ左ニ裁可公布ノ法理ヲ略説セシ

法律ノ裁可ハ君主ノ大權ニ屬ス、即チ君主カ親ラ直接ニ行フモノニシテ機關ニ委託シテ行ハシムルモノニアラス裁可ハ君主ノ意思ノ發表ナリ、國家ノ統治作用トシテ主權者カ臣民ニ對スル命令ニシテ法律ノ裁可ハ之ヲ法律トシテ効力アラシムルコトヲ宣言スルモノナリ

法

公布ハ裁可アリタル法律ヲ頒布スルモノニシテ國務大臣ニ命ジテ公布セシムルヲ通例トス之ヲ詳言スレハ凡テノ法律案ハ裁可ニ依テ法律トナルヲ以テ裁可ハ直チニ法律タルノ効力ヲ生スト雖モ法律案カ法律トシテ臣民ニ遵由ノ効力ヲ生スルハ公文式ニ依リ公布アリタル以後ナラザルベカラサルナリ、而シテ既ニ裁可アリタル法律ハ國務大臣ニ於テ必ス之ヲ公布セサルヘカラス、要之ニ裁可ハ法効ヲ生シ公布ハ臣民ニ對シテ執行力ヲ生スト解スレハ可ナリト然レトモ法律ノ檢束力ヲ生スルノ日ハ豫メ一定セズ明文ヲ以テ其施行ノ日ヲ掲ケタルハ格別其明文ナキモノニ在テハ明治三十一年法律第十號法例ニ依ルヘキハ勿論ナリトス

憲

法律ノ檢束力ト云フハ尙執行力ト云フカ如ク其法律ヲシテ効果ヲ生セシムルナリ法律ニ形式上ノ檢束力ト實積上ノ檢束力トアリ形式上ノ檢束力トハ即チ法律ハ更ニ立法ノ手續ヲ經タル法律ヲ以テスルニアラサレハ廢止變更スルヲ得サルヲ云フ例ハ法律ノ廢止又ハ改正ハ議會ノ議決、裁可、公布ノ三階級ヲ經ルニアラサレハ到底不能ノ事ニ屬ス憲法カ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得スト云フハ即チ法律ノ形式的ノ檢束力ヲ確ムルニ足ラス實積上ノ檢束力トハ臣民ニ對シテノ遵由ノ効力ヲ生セシメ及統治ノ機關カ之ヲ適用スル執行力ヲ云フナリ即チ公布ニ依テ此力生ス

法

第二章 立法ノ範圍

立法ノ範圍トハ法律ヲ以テ規定スル事柄ノ範圍ヲ云フ單ニ法律トシ云ヘハ國家的ノ規則ヲ總稱シタル語トモナリ其形式ノ如何ヲ問ハス憲法ヲ始トシ法律勅令省令等何等ノ名稱ヲ以テスルヲ問ハス總テ此

語中ニ包含セリト見做サルト雖モ茲ニ所謂立法ノ範圍トハ公文式中形式の法律ノ範圍ヲ云フナリ立法ノ範圍ヲ分テ政治的ノ見解ト國法の見解トノ二種トナスコトヲ得ヘシ政治的見解トハ國家ノ目的ヲ達スルニ適應スルヲ以テ立法ノ標準トスルヲ云フ然レトモ國家ノ目的ヲ推測スルハ國法学ノ範圍ニ屬セス而シテ我憲法ハ國家ノ目的ヲ明言セサルヲ以テ茲ニ之ヲ論セサルナリ國法のノ見解トハ國家カ立法ノ範圍ヲ國家ノ目的ニ求メスシテ憲法ノ規定ニ求ム故ニ憲法ニ於テ別ニ立法ノ範圍ヲ制限セサル事項ニ就テハ立法者自由ノ範圍内ナリト解釋スヘシ

近世ノ立憲制ノ國ニ行ハルル立法ノ範圍ヲ定ムル標準ニ二個ノ慣例アルカ如シ第一凡ソ人ノ自由權利ヲ制限スルコトハ必ス議會ノ協賛ヲ經タル法律ヲ以テスルヲ要ストナシ其他ノ勅令省令ハ法律ヲ執行スル爲メノ訓令タルニ過キササルモノトスルニアリ第二ハ特ニ法律ヲ以テ規定スヘキ事柄ハ憲法ニ列記シタルヲ以テ列記以外ノ事項ハ形式ノ如何ヲ問ハス命令ヲ以テ人民ノ自由權利ヲ制限スルコトヲ得ルト云フニアリ我憲法ハ第一說ヲ取ラス寧ロ第二說ヲ採用セリ是レ即チ法律命令ハ憲法ノ制限内ニ於テ各獨立立法スルコトヲ得ヘシト云フ原則ニ歸着ス而シテ我憲法カ此第二說ヲ採用シタル理由ハ抑モ我國體ハ歐洲ノ立憲政體ト歴史及建國ヲ異ニスルニ出テタルノ結果ニシテ別段奇トスルニ足ラサルナリ何トナレハ歐洲ノ立憲政體ニ於ケル法律ニ對スル觀念ハ法律ハ國家最高ノ意思ニシテ常ニ君主ノ上

法

憲

憲

法

ニアリトス換言スレハ君主ト雖モ法律ニ服従スルノ義務アリト云フニアリ故ニ君主ノ命令權ハ常ニ法律ノ制限ヲ守ラサルヘカラストノ議論アリ之ニ反シテ我國法ニ於テハ主權ハ常ニ法律ノ上ニアリ即チ法律ハ君主カ他ノ機關ノ協賛ヲ經テ制定スト雖モ法律ハ只統治權ノ一部ノ發表タルニ過キスシテ尙此外ニ君主ノ大權ヲ以テ諸般ノ命令ヲ發スルハ勿論、法律命令ハ即チ君主カ其國ヲ統治スルノ器具ナリトスルニアリ以上ノ原則ニ於テ歐洲ノ立憲政體ト其觀念ヲ異ニスルモノナルヲ以テ又其結果トシテ立法ノ範圍ノ標準ヲ異ニスルハ到底免カルヘカラサル事實ナリトス我憲法ニ於テ立法ノ範圍ヲ定ムルトキハ左ノ三種ノ區別アリトス

- 第一、必ス法律ヲ以テ規定スヘキ事項
- 第二、法律ヲ以テ規定スヘカラサル事項
- 第三、法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項

第一必ス法律ヲ以テ規定スヘキ事項トハ憲法第二章ノ列記事項ニシテ憲法カ明カニ立法ノ範圍ヲ定メタルモノヲ云フ例ヘハ兵役ノ義務、租税ノ義務ノ如キ積極的ニ立法ノ範圍ヲ制限シ居住移轉ノ自由、審問處罰ヲ受クルコトヲ信書ノ秘密ヲ侵サルコトヲキ事項等ノ類ハ消極的ニ立法ノ範圍ヲ定メ兩者共ニ法律ヲ以テスルニアラサレハ人民ノ自由ヲ制限シ財産及人事上ノ負擔ヲ賦課徵收スルコトヲ得

サルモノトス

第二法律ヲ以テ規定スヘカラサル事項トハ憲法上ノ君主ノ大權ニ屬スル事項ヲ云フ、我國法ニ於テハ憲法ハ法律ノ上ニアリ從テ法律ヲ以テ憲法ヲ變更スルコトヲ許ササル所以ニシテ君主ノ大權ト立法機關ノ參與スヘキ事項トハ明カニ其間ニ區別ヲ立テタルニ依テ見ルモ法律ヲ以テ大權事項ヲ規定シ或ハ制限ヲ加フルコトヲ得サルハ勿論ナリトス例ヘハ憲法第一章中官制制定權、官吏任命權、陸海軍統帥權、宣戰媾和ノ權、榮典授與ノ權、大赦特赦權ノ如キハ純然タル大權事項ニシテ毫モ他ノ容喙ヲ許ササルモノヲ云フ然レトモ茲ニ一ノ注意スヘキ事柄ハ君主ノ大權行使ト大權ヨリ出ツル所ノ結果トヲ混同スヘカラサルコト是レナリ前ニ例示シタル事柄ハ即チ大權ノ行使ニシテ憲法第九條ノ執行命令ハ大權ニ相違ナシト雖モ其如何ナル事柄ヲ命令スルカト云フコトハ第九條ニ規定セサルノミナラス此命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得サルカ如キハ大權ヨリ出タル結果ナリトス

第三法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事項トハ法律命令何レヲ以テ規定スルモ憲法上自由ノ範圍ニ屬スル事柄ヲ云フ而シテ此範圍ハ憲法ニ列記セラレズト雖モ要スルニ命令ヲ以テスルモ法律ヲ以テスルモ立法者ノ自由範圍ナリトス即チ憲法第九條ノ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムトアルハ明カニ法律命令共通ノ範圍トセルカ如シ加之ナラス法律ヲ裁可スル

法

モ命令ヲ發スルモ共ニ君主ノ統治權ニ屬スルヲ以テ之ヲ何レノ形式ニ於テ發表スルカト云フコトハ素ヨリ君主ノ撰ム所ナリトス

憲

以上三個ノ標準ニ依リ立法ノ範圍ヲ區別スレハ第一法律ヲ以テ規定スヘキ事柄ト第三法律ヲ以テ規定シ得ヘキ事柄トハ明カニ我憲法ニ於ケル立法ノ範圍ニ屬スルコトヲ知り得ヘキナリ

第四章 法律ノ廢止停止及免除

形式的法律ノ効力トハ法律ハ法律ヲ以テスルニアラサレハ廢止又ハ變更スルヲ得サルヲ云フ即チ立法ノ手續ヲ定メタル趣旨ハ蓋シ此意味ヲ云フナルヘシ但憲法カ法律ニ代フル勅令ヲ發スル權ヲ規定シタル場合(第八條)及國家ノ事變ニ際シ戒發ヲ宣告シ(第十四條)普通法律ノ執行ヲ停止シ軍事行政ヲ行フ場合ノ如キハ特ニ憲法ノ明文ニ依リテノミ之ヲ行フコトヲ得ルニ過キサルナリ

法律ハ法律ヲ以テノミ廢止シ變更スルト云フトキハ例ハ或人ニ對シ法律ヲ免除シ又ハ効力ヲ停止シ或ハ法律ノ適用ヲ救免スルコトモ是レ又間接ニ法律ヲ變更スルノ結果ナルカ故ニ法律ヲ要スト云フ問題トナル然レトモ是レ法律ノ變更ニアラサルナリ停止トハ法律其モノノ適用ヲ停止スルモノニシテ法律ヲ適用セスシテ特定人ニ利益ヲ與アルコトハ法律ノ効力ヲ停止スルナリ、而シテ免除ハ一般ニ法律ノ効力ヲ奪フ場合ヲ云フ法律ノ免除ト權利ノ拋棄トハ之ヲ區別セサルヘカラス拋棄トハ法律カ特定ノ人

法

ニ對シテ權利ヲ有シナカラ之ヲ強行セスシテ不問ニ付スルヲ云フ

我國法ニ於テ法律ヲ免除スルコトハ一般ノ命令權ニ存セスト認ム、然レトモ國家カ權利ヲ拋棄スルコトハ之ヲ爲シ得ルナリ即チ或人ニ對シテ法律ヲ免除スルハ許ササル所ナリト雖モ法律執行ノ權利ヲ拋棄スルハ執行官府ニ於テノミ之ヲ爲シ得ルナリ、斯ノ如ク解釋セハ甚タ奇ナルカ如シト雖トモ例ヘハ監獄ノ官吏カ獄則チ犯シタル者アル場合ニ於テ之ヲ罰スルト否トハ行刑官其人ノ職權ニシテ之ヲ違法ト云フヘカラスト雖トモ一般ニ免除スルト云フコトハ到底違法タルヲ免カレサルカ如シ

囚人ノ赦免權ハ即チ法律免除ノ一ノ場合ナリ大赦特赦減刑復權ハ憲法上ノ大權ナルヲ以テ之ヲ説明スルノ要ヲ見スト雖モ此明文ナキ場合モ赦免ヲ行フコトヲ得ルヤ否ヤハ國法上ノ問題トシテ論究スルノ價值アルカ如シ然レトモ一般ノ公法學者ノ議論ハ法律ノ免除ハ即チ法律ノ效力ヲ奪フモノナルカ故ニ命令ニ依リ之ヲ免除スルヲ得スト云ニアリ現ニ政府ノ解釋モ亦此議論ナルカ如シ

法律ノ停止ト云フハ或ル地方ニ限リ又ハ或ル事情ノ存在スル爲ニ一時法律ノ適用ヲ停止スルナリ停止ハ憲法ニ明文アル場合ノ外ニ矢張法律ノ形式ヲ要ス例ヘハ平時ニ於テ戒嚴令ノ執行ヲ停止スルハ君主ノ大權ニ許シアリト雖モ近ク民法ノ施行ヲ延期シタルカ如キハ法律ニ依ル法律ノ停止ナリトス或學者ハ君主ハ法律ノ執行ヲ命スルノ權アルヲ以テ之ヲ停止スルノ權アリトスルモノアリ然レトモ此

憲

法

ノ論鋒ヲ以テ云ヘハ君主ハ法律ヲ裁可スル權アルカ故ニ單獨ニテ之ヲ廢止スルヲ得ヘキコトトナリ論理ニ合ハサルノ解釋ナリト云ハサルヘカササルナリ要之ニ法律ノ廢止停止及免除ハ憲法ニ明文アルモノノ外法律ニ依ラスシテ命令ヲ以テ行フコトヲ得サルナリ

第五章 法律ノ委任

法律ノ委任ト云フ語ハ從來學者ノ慣用スル所ナリト雖モ其原因ハ佛國ノ三權分立說ノ觀念ニ基クモノニシテ近時國法學者ノ共ニ解釋ニ苦ム所ナリ、茲ニ所謂法律ノ委任ナル辭ノ意味ヲ説明センニ凡ソ立憲政体ニ於ケル立法ノ範圍ニ屬スル事項ニ付之ヲ命令權ニ委任シタルトキハ勅令ヲ以テ法律ニ代フル法規ヲ設定スルコトヲ法律ノ委任ト云ヘリ、然リト雖モ立法及行政ノ二權ハ共ニ君主統治權ノ分配ナルヲ以テ立法事項ヲ行政權ニ委任スルト云フ法理ハ到底我憲法ニ於テ之ヲ認ムルヲ得サルナリ我憲法ヲ説明スルニ當リ第一ニ起ルヘキ問題ハ法律ヲ以テ規定スヘント指定シタル事柄ニ付法律カ之ヲ命令ニ讓ルコトヲ明言シタルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ヘキヤ否ヤト云フニアリ何故法律ヲ以テ定ムヘキ事項ヲ命令ノ形式ヲ以テ規定シ得ヘキヤト云フニ法律ノ委任ニ依ル命令ハ其形式コソ異ナレ其實質ニ於テハ間接ノ法律ナリト云フ觀念ニ出テタルモノノ如シ

法律カ明文ヲ以テ命令ニ讓リタル實例ハ多々アリト雖モ例ハ法律ニ依ルニアラサレハ審問處罰ヲ受ケ

憲

法

ルコトナシト云フ明文アルニ拘ハラス種々ノ警察罰則ハ實際ニ行ハレツツアルナリ大臣ハ勿論、知事モ下級行政官モ之ヲ發スルコトヲ得ルコトナレリ是レ即チ法律カ命令ニ委任シタル結果ニシテ憲法ニ抵觸シタルモノニアラスト云フ見解ナリ然レトモ此解釋ヲ以テ概括的ニ之ヲ一般ニ適用スルヲ得サルモノト信ス何トナレハ若シモ法律カ命令ニ委任シタルトキハ命令ヲ以テ之ヲ規定シ得ヘシトセリ憲法カ立法ノ範圍ト命令ノ範圍ヲ分割シタル趣旨ハ全ク無用ノ贅文トナリ法律ニ依ルヘシトノ保證モ遂ニ命令ノ爲ニ蹂躪セラルルニ至ルノ慮レアリ況ンヤ第八條ノ法律ニ代ルヘキ緊急命令ノ規定ハ徒法ニ屬スルニ至ルニ於テヤ故ニ我國ノ公法學者ハ法律ノ委任ニ依ル命令ノ場合ヲ左ノ二種ニ區別シテ解釋セリ

- 一、憲法ノ明文中法律ノ定ムル所トアル場合ハ絶對的ニ法律ノ形式ヲ要シ
- 二、法律ノ範圍内ニ於テ若クハ法律ニ依ルニアラスシテアル場合ハ法律ノ直接間接ノ規定ニ依リテト云フ趣意ニ解釋セルカ如シ然レトモ此區別ハ曖昧ニシテ甚タ明了ナラサルカ如シ姑ク記シテ他日ノ研究ヲ待ツ

第六章 命令權

命令トハ法律ニ對スル語ニシテ國會ノ協賛ヲ經スシテ君主親カラ發布シ及ヒ發布セシムル所ノ國家ノ

憲

意思ノ發表ヲ總稱スルナリ立憲君主國ニ於テハ君主カ獨立シテ命令權ヲ有スル制度ト法律ノ明示默示或ハ直接間接ニ法律ノ委任ニ依リテノ命令權ヲ有スル制度ト二様ノ區別アリ又命令トハ君主ノ意思ニシテ法律ハ國家ノ意思ナリトスル國法論者アリ我憲法ニ於テハ君主ノ意思外ニ國家ノ意思ト云フモノナシ法律ハ君主カ之ヲ裁可スル所ニシテ勅令ヲ裁可スルト裁可ノ意味ニ於テ異ナル所ナシ故ニ法律ト云ヒ勅令ト云フモ等シク國家ノ意思ニシテ同時ニ君主ノ意思タルナリ而シテ兩者ノ區別ハ只立法ノ手續ト發布ノ形式ヲ異ニスルニ過キスシテ我憲法ノ命令權ハ獨立シタル君主ノ意思ナルヲ以テ直接間接ニ法律ニ依テ得タル命令權ニアラサルナリ

法

歐洲ノ立憲國ノ學說ニ依レハ凡ソ法規ヲ設定スルハ法律ニ依ルヘク命令ヲ以テ法規ヲ設定スルヲ得スシテ只行政事務ノ規程ヲ定ムルハ命令當然ノ範圍ナリト云フ見解ヲ取レリ而シテ法規トハ人ノ自由ヲ制限シ權利義務ノ標準タル規則ナルヲ以テ人ノ自由權利ニ關スル事項ハ法律ニ依ルニアラサレハ命令ヲ以テ規定スルヲ得サルモノト云フ主義ニ歸着ス然レトモ我憲法ニ依レハ法律モ命令モ共ニ人ノ自由ヲ制限シ若クハ權利義務ヲ創設變更スルノ規定ヲ設ケ得ルモノト解釋セサルヘカラス而シテ又命令ヲ分テ形式的ノ命令(勅令)ト實質的ノ命令(訓令)ト區別セリ即チ甲チ法規命令ト云ヒ乙チ行政命令ト云フ君主ハ命令ヲ發シ又ハ發セシム(憲法第九條)命令權ハ君主直接ニ之ヲ行フノ外官府ニ命シテ此權ヲ行

ハシムルコトヲ得、故ニ官府カ發スル命令權ヲ委任命令ト稱スルヲ適當ナリトス然レトモ法律ノ委任ニ依ル命令ト之ヲ混スヘカラサルナリ君主カ官府ニ命令權ヲ委任スルハ專ラ官制ニ依ル官制ハ即チ官府ニ一定ノ職權ヲ與フルノ行政命令ナリ而シテ官制ハ君主ノ大權ヲ以テ之ヲ定ムルコト勿論ナリトス命令ニハ法規命令行政命令ノ區別アルコトハ前ニ之ヲ説明シタリ法規命令トハ人ノ權利義務ノ準則タル規則ヲ設クルモノニシテ其重モナルモノハ警察命令是レナリ例ヘハ警察命令ヲ發セシムルニハ一定ノ嚴格ナル委任條件ヲ定ムルヲ必要トス則チ官制ヲ以テ各省大臣及地方長官ニ此權限ヲ與ヘラレタリ現行官制ニ於テハ或ハ法規命令ヲ擅マニ設定スル虞ナシトセス只僅ニ罰則ヲ設クルコトニ就テノミ一ノ制限アルノミ是レ恐ラクハ現行行政法ノ不備ナル點ナランカ之ニ反シテ行政命令ハ下級官府ニ對スル規則ニシテ君主カ行政ヲ監督スル監督權ノ分配ト同時ニ行政官府ニ此權限ヲ委任スルヲ得ヘキコトトナレリ

第七章 命令ノ種類

命令ハ其之ヲ制定スル式ニ於テ又ハ之ヲ發布スルノ期間ニ於テ種々ナル形式アリ法律ノ如ク之ヲ一種類トシテ概括シ論スルコトヲ得ス命令ハ之ヲ發布スルノ主体ニ就テ之ヲ區別スレハ左ノ四種トナス

第一、大權命令

法

第二、法律ニ代ルノ命令

第三、獨立命令

第四、執行命令

第一、大權命令ハ憲法第一章ノ大權事項ヲ命令スルモノナリ凡テノ命令ヲ發スルハ皆大權ノ行動ナルヲ以テ一般ノ勅令ハ悉ク大權命令ナルカ如シト雖モ茲ニ所謂大權命令トハ斯ノ如キ廣義ノ意味ニアラサルナリ大權命令トハ憲法ノ明文ヲ以テ法律ト相對峙シ相犯スルコトナク兩者等シク統治權直接ノ發動ニシテ其範圍ハ憲法ニ於テ截然タル區別ヲ立テ雙方相抵觸スルコトナシ而シテ又法律ノ爲ニ變更シ得ヘキモノニアラサルナリ試ニ左ニ憲法上ノ大權命令ヲ例舉セン

一、法律ノ裁可權

一、緊急命令發布權

一、帝國議會ノ召集、開會、停會、及衆議院ノ解散權

一、官制々定、文武官ノ俸給々定、及文武官任免ノ權

一、陸海軍統帥、編制並常備兵額々定ムルノ權

一、宣戰媾和及外交條約締結ノ權

憲

法

一、戒嚴宣告ノ權

一、榮典授與ノ權

一、赦免權

一、帝國憲法改定發議權

第二、法律ニ代ルノ命令トハ帝國議會閉鎖ノ場合ニ於テ緊急ノ必要アルニ當リ法律ニ代ル命令ヲ發シ一時法律ノ効力ヲ停止シ若クハ立法事項ニ關スルノ事柄ヲ君主ノ命令ヲ以テ規定スルヲ云フ（憲法第八條）而シテ普通ニ之ヲ緊急勅令ト云ヒ他ノ一般命令ト區別セリ之ヲ要スルニ法律ニ代ルノ命令ト云フ所以ハ立法ノ範圍ニ屬スル事項ヲ勅令ヲ以テ規定スルヲ以テナリ而シテ之ヲ立法權ノ委任ト云ヒ又ハ立法手續ノ除外例ト云ヒ又或ハ非立憲的ノ默認ナリト説クカ如キハ何レモ我國法ノ精神ニ違反スル誤認ノ説タルヲ免レサルナリ

緊急命令ヲ發スルニハ左ノ三條件ヲ備フルヲ要ス

第一、議會閉會ノ場合タルコト

第二、消極的ニ危害ヲ避クル爲メ公共ノ安寧ヲ保維スルニ避クヘカラサル必要アル場合

第三、緊急命令ハ次ノ議會ニ提出シテ承諾ヲ求ムルヲ要ス

法

憲

承諾ヲ求ムルト云フハ猶決議ヲ要スト云フニ同シ意味ニシテ議會カ之ヲ可トスルトキハ法律トシテ永久ニ効力ヲ有シ若シ可決セサルトキハ政府ハ此命令ヲ廢止スヘキコトヲ公布セサルヘカラス然レトモ議會ハ只將來ニ存廢ヲ議定スルニ過キスシテ既往ニ溯リテ其効力ノ有無ヲ決スルニアラサルナリ尙一ノ注意スヘキハ緊急命令ニ對スル議會ノ權限ハ勅令ノ全文ニ對シ承諾不承諾ヲ決スルノ外之ヲ修正スルノ權ナキコト是レナリ

緊急命令ヲ發スルノ要件ハ緊急ノ必要アル場合ニ限ルコトハ既ニ説明シタリ而シテ此要件ハ事實ノ認定ニシテ其認定權ハ無論天皇ノ大權ニ屬ス故ニ議會ハ其發布シタル當時ノ狀況事實ニ付キ審査權ナシ右ノ外憲法第七十條ハ財政上ノ緊急處分ヲ認メタリト雖モ財政處分ハ法律ニ代ルヘキ命令ニアラサルヲ以テ茲ニ之ヲ説明スルノ要ナシ然レトモ第八條ノ緊急命令ハ議會閉會ナルトキハ臨時議會ノ召集ヲ要セサレトモ第七十條ノ財政處分ハ議會ヲ召集スル能ハサル場合ニ限ラレタリ

第三、獨立命令トハ憲法第九條ノ場合ニ於テ議會ノ協賛ヲ經スシテ法規ヲ設定スルモノヲ云フ即チ社會公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ若クハ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ換言スレハ積極的、消極的ニ國家ノ目的ヲ達スルカ爲メ獨立ノ命令ヲ發スルモノニシテ法律ノ不備ヲ補ヒ或ハ法律ノ外ニ命令ヲ以テ國家ノ目的ヲ達スル法則ヲ云フ茲ニ獨立命令ト云フハ他ノ命令ニ對シ語弊ナキニアラスト雖モ歐州立憲

法

憲

國ニ通用ノ語ナルヲ以テ之ヲ假用シタルニ過キス而シテ獨立命令ハ畢竟法律ノ外ニ立テ人ノ自由權利ヲ制限スル特立ノ命令ナリト云フ意味ナリトス

憲
第四、執行命令トハ法律ヲ執行スル爲メ君主ノ發スル命令ヲ云フ即チ憲法第九條ニ依レハ天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ(中略)必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシムトアリ之ヲ詳言スレハ君主ハ法律ヲ執行スル權アリ又責任アルヲ以テ法律執行ノ爲メニ必要ノ命令ヲ發スルコトハ當然ノ權力ニ屬シ敢テ特別ノ委任アルコトヲ要セス現行法律ノ慣例ニ依レハ執行命令ヲ發スルコトヲ許スト明言セルアリ又ハ明言セサルアリテ一定セサルカ如シ抑モ執行命令ト稱スルモ或ハ法律ノ不備ヲ補ヒ人民ノ自由權利ニ制限ヲ加フル法規ヲ設定スルコトアリ又ハ只行政官ニ向テ行政ノ統一ヲ保ツカ爲ニ法律ノ解釋ヲ一定シ行政事務ノ規程トシテ行政命令ヲ發スルコトアリ故ニ執行命令ヲ別テ法規ノ設定及行政事務ノ規程トノ二種トナス之ヲ換言スレハ補充命令、註釋命令ト稱スヘキナリ而シテ補充命令ハ法律ノ委任アルニアラサレハ法律ノ規定以外ノコトヲ命令スルコトヲ得スト雖モ行政官ニ對シテハ之ヲ執行スルノ訓令トシテ註釋命令ヲ發スルコトヲ得

註釋命令ハ行政監督權ノ作用ニシテ行政ノ統一ヲ期スルニアリ故ニ上級官府ノ註釋命令(訓令指令等)ハ下級行政官府ヲ羈束スルノ効力ヲ有スト雖モ其上級行政官ノ與ヘタル訓令指令カ果シテ正當ナルヤ

憲
否ヤト云フコトハ裁判所ニ訴ヘ判決ヲ請フコトヲ得、但民事、及刑事及行政訴訟ヲ許シタル場合ニ限リ其他ノ場合ニハ之ヲ訴フルノ道ナシ故ニ實際ノ結果ハ註釋命令ヲ以テ間接ニ人ノ自由ヲ制限スルコトトナル

執行命令權ハ之ヲ官府ニ委任スルコトヲ得、即チ國務大臣以下府縣知事等執行命令ヲ發スルコトヲ得ルヲ云フ我現行法ニ於テハ官制ニ依リ執行命令ヲ發スルコトヲ大臣、知事、郡長ニ委任セリ其他警察官カ警察命令ヲ發スルカ如キモ專ラ官制ノ委任ニ依ルノ結果ニシテ其範圍甚タ廣大ナリトス尙此外ニ法令ノ特別委任ニ依ル執行命令ハ其數却テ寡少ナリトス例ヘハ彼監獄則ニ於テ此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ムトアルカ如キ類是レナリ

執行命令ハ又之ヲ分テ法規命令、處分命令トナス法規トハ一般遵由ノ規則ニシテ處分トハ特定ノ人及物ニ對スル權力行爲ナリ其詳細ナルコトハ行政法ニ讓ル

第八章 命令ノ範圍

法律ト命令トノ分界ハ憲法ノ規定スル所ニシテ之ヲ分テ三トナス大權命令ハ即チ命令固有ノ範圍ニ屬シ(一)法律ヲ以テ規定スルコトヲ明示シタル場合ハ即チ立法ノ範圍ニシテ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ許ササルナリ(二)以上二者ノ制限外ノ事項ニ就テハ命令ヲ以テ隨意ニ之ヲ規定スルコトヲ得(三)

然レトモ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得サルハ憲法ノ宣明スル所ナリ(第九條但書)故ニ第三ノ範圍ハ法律、命令ノ自由範圍ナリト雖モ兩者相衝突スルトキハ命令ハ法律ノ範圍ニ之ヲ讓ラサルヘカラサルナリ

以上ノ説明ハ憲法上ノ法律命令ヲ分界スル原則ナリト雖モ元來命令ノ本源タル君主ノ意思ノ發表ハ即チ統治權全部ノ作用ナルヲ以テ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ憲法ノ條規ノミヲ以テ國家生存ノ安固ヲ保全スル能ハサルトキハ憲法上ノ法令分界ノ如何ニ拘ハラズ大權命令ヲ以テ危機ニ應スル丈クノ國權ノ行動ハ之ヲ君主ノ命令ニ仰カサルヲ得サルナリ(第三十一條)

第九章 官制權

君主ハ國家ノ統治機關トシテ行政各部ノ官府ヲ設ケ行政百般ノ事務ヲ分擔セシム而シテ此事務ノ分配ヲ規定シタルモノヲ官制ト云フ乍併之レカ例外トシテ議會ノ協贊ヲ要スルモノハ特ニ憲法ニ之ヲ明言セリ例ハ裁判所及會計検査院ノ構成ノ如キ或ハ帝國議會ノ組織權限ノ如キ之レカ例外タリ然レトモ法律命令共ニ君主ノ意思タルコト勿論ナルカ故ニ統治者タル君主カ統治ノ機關ヲ設クルト云フ定義ニ聊ノ抵觸アルヲ見サルナリ然レハ憲法ノ明文ニ於テ天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免スト規定シタリ蓋シ茲ニ行政ト云フハ廣キ意味ニテ以上ノ例外ヲ除キタル總テノ官制ヲ意味スルモノト解釋スヘキナリ

法

憲

官府ヲ組織スルニハ二様ノ行爲ヲ要ス一ハ其職制ニシテ他ハ任官ナリ職制トハ政務ノ一部分ヲ特定ノ人(即官吏)ニ委任シテ行ハシムルモノニシテ任官ハ即チ其委任ナリトス而シテ任官ト職制トヲ區別セラルモノト區別セサルモノアリト雖モ法理上ニ於テハ兩者等シク同一ノ事ニ歸着スルナリ即チ特定ノ人ニ一定ノ職務ヲ其任官ノ手續ニ依リテ之ヲ與フルヲ得ヘク(即チ補職)又ハ豫メ官府ノ職制ヲ定メ特定ノ人ニ職權ヲ委任スルノ煩ヲナササルモノナリ(即チ任官)故ニ官制權及官吏任免ノ權ハ相分離スヘカラスシテ共ニ君主ノ大權ニ屬セシメサルヘカラサルナリ然レトモ茲ニ一ノ問題アリ即チ議會ハ豫算議定權アルカ故ニ其結果間接ニ議會カ官制權ニ容喙スルノ權アリトスルモノアリト雖モ是レ全ク誤解タリ何トナレハ豫算ヲ議定スルノ權ハ政務ニ必要ナル費用ヲ豫定スルモノニ過キスシテ官府其モノノ存廢ヲ議定スルモノニアラサレハナリ故ニ從テ豫算議定權ト官制定權トハ兩立シテ相抵觸スルモノニアラサルナリ尙一ノ注意スヘキハ官府ハ法人ニアラサルコト是レナリ換言スレハ官府ハ權限アリテ權利ナク職務アリテ義務ナキナリ故ニ其結果トシテ外部ニ對シテハ官府ノ名ニ於テ國家ノ權カヲ行フニ過キスシテ即チ官府ハ權カノ主體ニアラスト云フ意味ニ歸着ス

第十章 榮典授與ノ權

憲

君主ハ榮譽ノ淵源ナリトノ法語ハ我憲法ノ明示スル所ニシテ榮典授與ノ權ハ專ラ君主ノ大權ニ屬ス榮典ノ性質ハ君主カ臣民ヲ優待スル禮遇ト云フニ過キスシテ權利ヲ與ヘ權力ヲ授クル意味ニアラサルナリ然レトモ榮典ハ法律ノ保護ヲ受クルカ故ニ若シ榮典ノ享有ヲ全フスルコトヲ妨害セラルトキハ之ニ對シテ法律ハ保護ヲ與フ、是レ即チ一個人間ニ於ケル名譽ノ旌表ト異ナル所ナリ

君主ヨリ授與セラレタル位記賞號勳章等ハ特ニ法律上國家ノ榮典トシテ保護ヲ與フルモノナルカ故ニ外國ノ君主又ハ君主以外ノ權力者ヨリ出ツル榮譽ハ之ヲ認メス只特別ノ法令ヲ以テ佩用ヲ允許スルトキハ此限ニアラス外國勳章佩用規則ノ如キ即チ是レナリ古昔ハ榮典ノ授與ヲ以テ權力ノ授與トナシ國民ノ階級ヲ定ムルモノナリトナシタレトモ此說ハ個人ノ權能ハ平等ナリト云フ主義ニ反スルヲ以テ憲法上ノ榮典授與ハ國家カ禮遇ヲ厚フスルト云フ意味ニテ人ノ權能ヲ迥異ニスルニアラサルナリ例ヘハ華族ニ列セラレタリト云フトキハ是レ只榮譽ノ表彰タルニ過キスシテ權能ノ區別ニアラサルコトヲ知レハ足レリ

第十一章 外國條約

法

外國條約トハ國ト國トノ間ニ締結スル條約ノ總稱ニシテ國際上ノ習慣ニ於テ公法上ノ契約ヲ外國條約ト云フ條約ノ締結權ハ天皇ノ大權ニ屬ス以下ニ於テ外國條約ノ性質ヲ略述シ尋テ其締結ノ方法及效果

憲

ヲ説明スヘシ

凡ソ法律命令ノ國民ニ對スル關係ハ權力者ヨリ服從者ニ對スル意思ノ發表ナルコトハ屢々之ヲ説明シタリト信ス然レトモ條約ハ之ニ反シ法律ニアラス命令ニアラスシテ双方平等ナル權利者ノ間ニ行ハルル合意契約ナリ國際法ニ於テハ國家ハ各權利義務ノ主体ト見做サルルヲ以テ條約ニ依リ國家カ義務ヲ負ヒ權利ヲ得ルヲ以テ通常トナス既ニ國際ノ關係ハ權力關係ニアラサルカ故ニ相手方ヲ強制スルト云フ法理上ノ効力ナシ故ニ若シ強制効力ヲ有スラアラハ事實上國家ノ兵力ニ訴フルノ外他ニ強制執行ノ手段アラサルナリ而シテ又條約ハ國內ニ對シテ直接ノ効力ヲ生スルモノニアラスシテ外國ニ對スル權利行為タルナリ、去レハ條約ハ相手方ニ對スルノ外直接ニ自國臣民ニ對シテ權利義務ノ原因トナラス然レトモ事實上外國條約ハ人民ノ權義ニ關係スルカ故ニ國內ノ人民ハ之ニ對シテ利益ヲ享有スルモノタルハ勿論ナリト雖モ條約其モノノ性質ニ於テ臣民ハ之ニ依テ權利ヲ得義務ヲ負フモノニアラサルコトヲ知ルヘシ故ヲ以テ條約ヲシテ自國內ニ有効ナラシメント欲セハ君主ノ批准後命令ヲ以テ之ヲ國內ニ公布スルノ手續ヲ踏マサルヘカラサルナリ例ハ外國ト通商條約ヲ訂結スルトキハ其結果トシテ相互國ノ臣民ニ關稅ヲ納ムルノ義務ヲ生スルカ如キ類是レナリ但國民ノ權利義務ニ影響ヲ及ホササル條約ハ命令ヲ以テ國民ニ公布スルヲ待タスシテ有効ナリトス

法

以上ヲ約言スレハ條約ハ法規ヲ設定スルモノニアラス、法規ハ人民ニ對スル自由ノ制限、權利ノ標準
タリ外國ト條約ヲ訂結シタルトキハ國家ハ國內ニ對シ法令ヲ發スル義務ヲ外國ニ對シテ負フコトアリ
例ヘハ日本ト魯國トノ間ニ大洋上ニ於ケル漁獲ノ取締法ヲ制定スヘキコトヲ約シタルトキハ双方ノ政
府ハ其條約通ノ法令ヲ發スルノ義務ヲ負フト雖モ臣民ハ法令ノ公布ヲクシテ條約ノミニ依リ之ヲ遵奉
スルノ義務ヲ生セサルナリ是レ條約ノ成立ト履行トノ區別アル所以ニシテ條約ト命令トハ別物ナルコ
トヲ知ルニ難シトセサルナリ

條約締結權ハ君主ノ大權ニ屬ス故ニ條約ハ議會ノ協贊ヲ經スシテ成立スト雖モ國內ニ之ヲ執行スルニ
ハ法律命令ノ形式ヲ以テ公布スルヲ必要トス而シテ條約ノ公布ハ法律ヲ以テスヘキヤ否ヤノ議論ハ我
國ニ於テ一時議論アリシ問題ナリト雖モ既ニ憲法ニ於テ條約權ヲ君主ノ大權トシタルノミナラス議會
ハ即チ統治機關ノ一部タルヲ以テ之ヲ見ルモ議會ノ議ヲ經ルヲ要セサルコト寧ロ正當ナリトス現ニ我
國現行ノ慣例ニ依レハ條約ノ公布ハ條約其モノノ全文ヲ明示シ勅令ヲ以テ之ヲ公布スルコトトナレ
リ

條約ハ法律ニアラスト云フ原則ハ學者ノ間ニ異論ナシ而シテ之ヲ以テ直接ニ人民ヲ束縛スルモノニア
ラサルハ又之ヲ説明シタリト信ス然レトモ勅令ヲ以テ之ヲ公布シタルトキハ條約ハ臣民ノ自由權利ヲ

憲

法

制限スルノ準則トナルヘシ例ヘハ公布シタル條約ハ裁判所ヲ拘束シ裁判ノ準則トナリ得ルナリ彼ノ罪
人引渡條約カ締結セラレタリト雖モ檢事ハ直ニ罪人ヲ引渡スノ義務ヲ生セス其條約ヲ命令トシテ公布
シタル結果トシテ其義務ヲ生ス

第十二章 司法權

司法權トハ法律ヲ適用シ社會ノ秩序ヲ維持スルカ爲メ刑罰ヲ宣告シ又ハ臣民ノ權利ヲ保護スル爲メ設
ケタル國家統治權作用ノ一部ニシテ統治權ヲ離レテ獨立ノ權力ニアラサルコト勿論ナリトス、憲法、
第五十七條ニ於テ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトアルハ深キ意味アルニアラス
只司法權ト云フ憲法上ノ機關ニ委任シテ行ハシムルト云フ宣言ニ過キサルナリ而シテ之ヲ行政及立法
機關ト分岐シタルハ裁判ノ公平ヲ保チ他ノ紛更ヲ許ササルノ趣旨ニ出テタルニ外ナラサルナリ

法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトハ裁判所ハ専ラ司法權ノ行動ヲ掌リ其レ以外ノ機關カ裁判所ノ權限ヲ犯
シテ裁判判決スル能ハサルヲ意味セリ換言スレハ日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判所ノ裁判ヲ受クル外
他ノ機關ノ判決ハ適法トシテ服従スルノ義務ナキコトヲ示シタルナリ然レトモ裁判所ニハ普通ノモノ
アリ特別ノモノアリ普通裁判所ハ民事刑事ヲ掌リ特別裁判所ハ各其法律ノ規定スル所ニ依テ管轄權ヲ
有ス例ヘハ陸海軍裁判所、行政裁判所ノ權限ニ屬スルモノノ類是レナリ然レトモ茲ニ法律ニ依リト云

憲

法

フハ單ニ權限ヲ定メタル法律(裁判所構成法ノ類)ニ依リト云フ意味ニシテ其適用スヘキ規則ハ必ス法律ノ形式ヲ以テ公布シタルモノニ限ルトノ趣旨ニアラサルコトヲ知ラサルヘカラス故ニ法律ノ委任ニ依リ各地方ニ於テ定メタル違警罪罰則ト雖モ其事件ヲ裁判スルニ當リテハ區裁判所ハ其形式ノ如何ニ拘ラス其地方ノ罰則ヲ適用セサルヘカラス

司法權ハ特定ノ事實ニ對シ法規ヲ適用スルモノニシテ豫メ一般ノ事實ヲ豫想シ法規ヲ設クルモノニアラス即チ判決ハ特定ノ人ニ對シ法律ノ保護ニ依テ強制ノ方ヲ有シ其法効ハ當事者以外ニ及スコトヲ得サルナリ一般ノ法規ハ之ニ反ス

第十三章 行政

行政トハ大權命令及法律ヲ執行シ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ臣民ニ向テ政府ノ行フ統治ノ執行機關ナリ歐洲ノ立憲政體ニ在テハ大權ト行政トヲ同一視スルモノアリト雖モ、我國法ニ於テハ行政ハ君主ノ大權ト異ナリ行政ハ大權其モノヲ行使スル官府ノ行爲ニシテ法律及大權命令ハ行政官府ヲ經由シテ臣民ニ行ハル、然リト雖モ行政ハ又立法、司法トハ其形式ヲ異ニシ特立シテ政府ニ屬シ國法上各其本領ヲ明ニセリ(憲法第十條)

政府ハ行政ノ機關ナリ大權及法律ハ行政ノ上ニアリ故ニ政府ハ大權法律ノ執行官府タルナリ、君主ハ

法

憲

憲

法

憲法上ノ大權ニ依リ行政各部ノ官制ヲ定メ官府ニ委任シテ行ハシムル政務ハ即チ行政ナリ而シテ大權ト行政トノ區別ハ大權ハ統治權直接ノ行動ニシテ凡テノ行政ハ官府ナル機關ヲ通シテ行フ統治ノ作用ナリトス而シテ行政ハ亦法規ニ準則ヲ取ラサルヘカラス然レトモ法律ノ執行ノミカ行政ノ目的ニアラサルナリ畢竟法律ハ行政權ニ對シテ行動ノ範圍ヲ示スニ過キス從テ行政ト司法ハ其實質目的ヲ同フセサルコトヲ知ラサルヘカラス尙行政ヲ論スルハ別ニ行政法ニ讓リ國法上ノ解釋トシテハ以上ノ説明ヲ以テ其梗概ヲ知り得ヘキナリ讀者須ラク研究スル所アリテ可ナリ

憲法終

行政法

第一編 總論

第一章 行政法學

行政法學トハ國家カ臣民ニ對シテ國權ヲ行フ關係ニ就テ法理ノ存在スル所ヲ研究スルヲ云フ、而シテ行政ノ範圍ハ憲法ニ依リ設ケラレタル各種ノ機關カ其職權ヲ行フニ當リ國家ト一個人トノ間ニ生スル所ノ法律關係ヲ以テ限界トス、故ニ行政法トハ國家ノ統治權カ各個人ニ對シテ惹起ス所ノ關係即チ權力者、服從者間ノ關係ヲ規定スル國家ノ法規ヲ云フ、此關係ヲ稱シテ主觀的權力關係又ハ客觀的服從關係ト云フ、去レハ何レノ場合ニ於テモ國家ノ法規トシテ公布セラレタル諸般ノ行政法規ノ範圍内ニ於テハ臣民ハ絶對無限ニ服從ノ義務ヲ有シ之ニ反シテ行政官ハ常ニ服從者ヲシテ之ニ從ハシムルノ強制權力ヲ有ス

行政法ノ性質ハ公法ノ一部ナリト云フコトハ諸學者ノ間ニ異論ナキカ如シ然レトモ單ニ公法トシ云ヘハ刑法、刑事訴訟法等ト同一性質ナルヲ以テ實際上刑法ニ屬スルト訴訟法ニ屬スルトヲ問ハス凡テ國家ノ行政事務ニ關係スル規則ヲ總稱シテ行政法ナリトノ見解ヲ取ルモノアリト雖モ此學者ノ說ニ從フ

トキハ行政法ナル名稱ハ法ノ性質ヲ他ノ學問上ヨリ區別シタル語ニアラスシテ法律ノ集合ヲ總稱シタル語トナリ從テ行政法ハ獨立ノ法理ヲ構成セサルコトナリ特別ニ行政法學トシテ法理ヲ研究スルノ必要ナキニ至リ遂ニ行政法ト云フ法理ノ觀念ナキニ至ラントス是レ行政法ノ性質ヲ宣明シタルモノニアラスシテ論理ニ合セサルノ虞レアリ、而シテ之ニ反對スル學派ハ行政法ハ純粹ナル公法ノ一部ニシテ唯行政ニ關スル各種ノ法規ヲ總稱シタルニ止マラス特ニ行政法理ト云フモノ存在スト云フニアリ即チ國家ト一個人トノ關係ニ於テ民法、民事訴訟法等ノ規定ニ依リ論スヘカラサルモノアリ例ヘハ行政訴訟ニ就テハ行政裁判所ナル者ノ設ケアル等現ニ其間ニ殊別アルヲ見ルヘキナリ、以上二說中甲說ヨリ乙說ヲ可ナリトス、今試ミニ前二說ノ差異アル點ヲ例證センニ茲ニ戰爭ニ際シ土地又ハ物件ヲ徵發シタリトセンニ甲說ニ從ヘハ動産不動産ノ強制賣買トナリ即チ民法ノ賣買ト云フ觀念ヲ以テ行政上ノ處分ヲ解釋スルコトトナリ民事上ノ賣買ノ變體ナリト説明セサルヘカラサルニ至リ國家ト一個人トノ關係ニ對シ民事訴訟法ノ法理ヲ適用スルニ過キスト看做スニ基クコトトナル、反之乙說ニ依レハ土地ノ收用、物件ノ徵發ト云フカ如キハ民法法理ノ賣買ニアラサルハ勿論、全ク私法ノ觀念ヲ離レテ特種ノ公法的法律關係ニ基因シ行政法ト云フ特別ノ法理ヲ構成スルモノ即チ前ニ所謂權力關係ノ性質ニ依リ國家ハ單ニ特別法ノ規定ニ依リ賠償ノ意味ヲ以テ相當ノ金員ヲ賠償シ或ハ全ク之ヲ賠償セサルコトヲ

行政法

得ルモノトス以上ノ兩說中甲說ハ行政法理ノ發達セサル時代ニ於テ行ハレタル說ニシテ今日行政法理ノ發達ニ依リ乙說ヲ以テ肯綮ヲ得タルモノトシ學者ノ共ニ公認スル所トナレリ

第二章 行政ノ意義

行政トハ法律及君主ノ憲法上ノ大權ノ下ニ於テ法律命令ノ範圍内ニ國家ノ目的ヲ達スルカ爲メニ働ク所ノ國家機關ノ作用ヲ云フ故ニ行政ハ(一)國家主權ノ直接ノ行動ニアラスシテ間接ノ働ナリ主權直接ノ働ハ統治ト云フヘクシテ行政ト云フヘカラサルナリ、統治ト行政トハ全ク其間ニ區別アルモノナルコトヲ知ラサルヘカラス、之ヲ換言スレハ行政トハ主權者自ラ統治スルコトヲ云フニアラスシテ統治ノ爲メニ設ケタル機關カ國家ノ事務ヲ委任セラレテ之ヲ行フコトヲ意味ス、然レトモ委任ト云フハ語弊アルヲ免カレス委任トハ只其權限ノ出ル源泉ヲ示ス爲メニ形容シテ姑ラク委任ノ文字ヲ用ヒタルノミ是須ラク讀者ノ強記スヘキ點ナリトス、何トナレハ行政ハ即チ統治ノ作用ニ依リ機關ヲ通シテ行フ國家ノ行爲ニシテ國權直接ノ行動ニアラスト云フ意味ニ過キサレハナリ、機關ヲ通シテトハ普通ノ代表委任トハ大ニ其意義ヲ異ニシ主權者カ機關ヲシテ行政セシムルハ主權ノ作用タル機關ノ名ノ下ニ事務ヲ取扱フモノニシテ其監督及責任ハ主權者親ラ行フト敢テ異ナルコトナキヲ云フ憲法上ノ大權ハ之ヲ委任スルヲ得ルヤ否ヤトノ問題ハ即チ之ニ依テ以テ氷解スヘキナリ(二)行政トハ國家ノ權力ノ働キ

行政法

ナリト云フハ前章ニ説明シタルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス(三)行政ハ機關ニ依リテ行ハル、命令權ノ働ナルヲ以テ憲法上ノ大權トハ之ヲ區別セサルヘカラス君主ノ大權トハ君主カ親裁シテ直接行ハセ給フ統治權ノ作用ナリト去レハ二者共ニ國權ノ行使ナリト雖モ其運動ノ方法ハ直接ト間接トノ差異アルヲ以テ君主ノ大權ト行政トノ區別ノ標準トナルナリ(四)行政ハ機關ニ依ル命令權ノ働ナルコトハ既ニ説明シタリ然レトモ司法權トハ之ヲ混同ズヘカラサルナリ司法權モ等シシ裁判所カ國家ノ命令ニ依テ以テ個人ニ對シテ行使スル關係ニ相違ナシト雖モ司法裁判ノ手續ハ必ス法律ニ依テ規定シ法律ノ解釋適用ノ外命令權ヲ以テ之ヲ動スコトヲ得スト雖モ行政ハ法律ニ背反セサル限リニ於テ國家ノ目的ヲ達スル爲メニ命令權ヲ以テ自由ナル運動ノ範圍ヲ定ムルモノヲ云フナリ

第二章 行政法規並其形式

行政ノ範圍ハ法律及大權命令是レナリ故ニ行政トハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ國家ノ幸福ヲ増進スル爲メ一般ノ法規ヲ設ケ特定ノ事件ニ付處分ヲナスト二個ノ形式ニ分ツコトヲ得ヘシ即チ法律勅令ハ行政機關ノ組織ト行政其モノノ準則ヲ示スモノナルヲ以テ法律命令ハ行政全般ノ法則ト看做サ、ルヘカラス、一般ノ法規ヲ設クルトハ國務大臣カ行政長官トシテ各其主管ノ事務ニ付省令訓令ヲ發スル等一般行爲ノ標準トシテ發スル命令是レナリ以下府縣知事カ其管内ニ府縣令ヲ發シ郡長カ其郡内ニ郡令ヲ

行政 政 法

スルノ類皆此法規ニ屬ス

行政官ノ發スル命令ヲ細分シテ行政法規ト處務規程トニ區別スルコトヲ要ス法規ト云フハ一般ノ人民ニ向テ行政ノ目的ヲ達スル爲メ命令スルモノニシテ人ノ自由權利ニ關係ヲ及ホスモノナリト雖モ處務規程ハ行政監督權ヲ行フ爲メ行政内部ニ向テ事務執行ノ方法順序ヲ示スモノトス、而シテ甲ハ省令、乙ハ訓令又ハ内訓ト云フ形式ヲ以テ區別シ得ヘシ之ヲ要スルニ行政法規ハ左ノ三種類ニ分ツヲ得ヘシ(一)法律及勅令ノ規定ニ依リ行政ノ範圍及方針ヲ示シ(二)行政官カ職權ニ依リ發スル一般ノ命令ニシテ外部ニ對シテハ法律勅令ト同一ノ効力ヲ有シ(省令)、(三)行政上ノ訓令ニシテ事務執行ノ規程ヲ定ムルノ類(訓令又ハ内訓)是レナリ

行政 政 法

憲法第九條ハ行政命令ノ範圍ヲ規定シテ曰ク「天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス」ト依是觀之ハ廣義ノ行政命令トハ法律ノ範圍内ニ於テ大權ニ依リ直接ニ發スル命令ヲ勅令ト云ヒ其他行政機關ヲ通シテ發セシムル命令ヲ茲ニ所謂行政法規ト云フ

行政ノ形式ヲ分テ行政法規ノ設定、行政處分ノ二トナス、法規ト云フハ一般的ニ事物ノ關係ヲ規定スルコトヲ意味ス即チ豫メ總テノ事實ヲ豫想シ他ヲシテ一定ノ法規ニ據シムルコトヲ云フナリ、處分ト

ハ特定ノ關係ヲ惹起ス所ノ行爲ニシテ法規ヲ實行スルニハ常ニ處分ヲ要ス即チ監獄則施行細則ノ如キハ純然タル狹義ノ行政法規ニシテ監獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシムル行爲ハ即チ處分タルナリ、然リ而シテ行政官府ノ職權ハ法律若クハ大權ノ命令ニ依テ委任シタル範圍内ニ於テノミ權限ヲ有ス換言スレハ官府當然ノ權限ニアラス官制若クハ特別ノ命令ヲ以テ規定シタル場合ニ於テノミ法規設定ノ權限アリ例ヘハ監獄則第五十一條ニ於テ此規則ヲ施行スル方法細則ハ内務大臣之ヲ定ムトアルハ即チ大權命令ヲ以テ法規設定權ヲ内務大臣ニ委任シタルモノニシテ此規定ニ依リ内務大臣カ省令ヲ以テ施行細則ヲ定メタルカ如キハ即チ茲ニ所謂行政法規ノ形式ニ適フモノト云フヘシ

又行政處分ヲ分テ依法處分、便宜處分ノ二トナスコトヲ得、依法處分ト云フハ法規ヲ解釋シテ特定ノ事件ニ適用スルナリ、例ヘハ租稅ヲ徵收シ、公益ノ爲メ財産ヲ收用スル處分ノ如キハ豫メ地租條例、土地收用法ヲ以テ一般ニ對シ處分ノ範圍ト程度トヲ示ス、故ニ各個人カ法律ノ結果トシテ一定ノ服從義務ヲ定メラレ行政官ノ處分ハ單ニ法律ヲ解釋シテ其事件ニ適用スルノ權限ノミヲ有スルニ過キサリナリ、便宜處分ハ法律命令ニ依リ行政官府ノ權限トシテ一定ノ處分權ヲ認メアリト雖モ各個人ヨリ觀察スレハ服從ノ程度分量ヲ豫定セサル場合ニ於テ行政官カ公益ノ爲メ必要ナリトスル分量程度ニ於テ個人ノ自由ヲ制限シ又ハ處分ヲ爲ステ得ルヲ云フ例ヘハ火災ニ際シ延焼ヲ防シカ爲メ必要ノ程度ニ於

行政法

テ警察官ノ見込ヲ以テ個人ノ家屋ヲ破壊スルカ如キ即チ便宜處分ノ適例ナリトス、然リ而シテ行政處分ヲ依法處分、便宜處分ノ二ニ區別スルノ効用ハ何レノ點ニアルヤト云フニ個人ヨリ之ヲ觀レハ甲ハ行政裁判法ニ依リ其權義ヲ爭フコトヲ得ヘキモ乙ハ行政監督權ニ依リ上級行政權ニ訴願スルノ外、個人カ直接ニ其不當處分ヲ爭フコトヲ得サル性質ノモノニ屬ス、要スルニ一ハ官民共ニ遵守ノ義務アル法律ノ適用ニ關シ他ハ專ラ行政官ノ職權問題ニ關ス

第四章 大權ト行政トノ關係

大權トハ帝國憲法第一章ノ規定ニ依リ天皇カ親裁スル政務ノ範圍ニシテ機關ニ對シテ職權トシテ統治權ノ行使ヲ委任セス天皇カ親ラ裁可權ヲ行フモノヲ云フ、行政トハ法律及大權命令ノ範圍ニ於テ行政官府ノ職權トシテ行フ政務ヲ云フコトハ前既ニ之ヲ説明シタリ是レ專ラ大權ト行政トノ形式上ノ區別ニ過キサリヲ以テ更ニ左ニ大權ト行政トノ關係ニ就テ説明セントス

一、憲法上ノ大權ハ之ヲ行政官府ニ委任シテ行ハシムルコトヲ得ルヤ否ヤトノ疑問ハ未定ノ問題ニシテ未タ確平タル定論ナキカ如シ、而シテ大權ハ行政官ニ委任スルト云フ積極論者ノ說ク所ハ憲法第一章ハ明ニ天皇ノ大權事項ヲ規定シタルヲ以テ君主ノ親裁ノ範圍ニ屬スルハ素ヨリ論ヲ待タスト雖モ君主カ親ラ之ヲ行フト機關ニ委任シテ之ヲ行ハシムルトハ君主ノ自由ニシテ行政各部ノ官制ナルモノハ

行政法

即チ大權ヲ行政機關ニ委任シタルモノナリト解釋スルニアリ、現ニ彼實際ニ於テ各省官制ヲ制定シ又ハ下級行政官吏ノ任免ヲ行政官ノ權限ニ屬セシメ又ハ軍隊ノ司令官ニ作戰ノ指揮權ヲ行ハシメ或ハ全權公使ニ委任狀ヲ交付シ諸般ノ條約ヲ締結セシムルカ如キハ明ニ憲法上ノ大權ヲ行政官ニ委任シタル實證ニシテ此委任代表ノ實例多キニ依テ之ヲ見ルモ明カナリト云フニアリ、反之大權ハ之ヲ行政官ニ委任スヘカラストノ消極說ノ論旨トスル所ハ憲法カ特ニ大權ト指定シタル事項ハ即チ君主カ親ヲ裁可權ヲ行フコトヲ宣明シタルモノニシテ官制ハ即チ大權若クハ立法事項以外ノ範圍ニ於テ之ヲ行政機關ニ權限トシテ行ハシムルコトヲ規定シタルニ過キス、然ルヲ若シ強テ大權事項ハ君主必ス親ヲ之ヲ執行セサルヘカラストセハ行政官府ニ權限トシテ行ハシムルコト能ハサルニ至リ君主親ヲ執行官府トナリ下級文武官ノ任免モ、外國ニ於テ締結スル條約モ又ハ軍隊指揮權モ直接ニ之ヲ行使セサルヘカラストルニ至リ結局事實ニ於テ之ヲ執行スル能ハサルニ終ルナキヲ得ス之ヲ約言スレハ諸般ノ官制ニ就テモ自己ノ權限トシテナス所ト只大權ノ執行機關トシテ行フ所ト之ヲ區別シテ觀察セサルヘカラスト、例ハ下級官吏ノ任免ハ明カナ大權ヲ侵スカ如キ形式アリト雖モ之ヲ解釋スルニハ行政官ノ權限トシテ行フニアラス行政官カ大權ノ執行機關トシテ行使スルニ過キスシテ軍隊指揮權ノ如キ、條約締結權ノ如キ均シク是レ行政官カ自己ノ權限トシテ行フニアラス大權カ各其機關ヲ通シテ行使スルモノナルナ

行政法

リ、大權カ機關ヲ通シテ行使スルトハ彼委任ノ場合ニ於ケル監督權ノミ君主ニアリト云フ意味ニアラスシテ各種ノ機關カ大權ノ手足トナリ之ヲ代行スルニ過キサルヲ以テ其責任ノ歸スル所ハ飽迄モ君主ノ一身ニアリト云フニ歸ス、或ハ君主ハ無責任ナリト云フニ抵觸スルカ如シト雖モ并ハ大權補弼ノ問題ニ屬シ聊カ關係ナキナリ、要スルニ消極論ノ說ク所ハ形式上委任代表ノ關係アルカ如キ感アリト雖モ實質ニ於テ普通ノ委任ト同シカラスト、行政各部ノ機關ヲシテ行使セシムルト云フニ歸ス、以上ノ兩說果シテ何レヲ正ナリトスルヤハ茲ニ之ヲ斷言スヘカラサルカ如シト雖モ憲法ノ精神ヨリ之ヲ解釋スレハ寧ロ後說ノ正當ナルヲ信セスハアラサルナリ讀者宜シク研究セラレテ可ナリ

第二編 行政機關

第一章 行政ノ組織

行政機關ヲ組織スル方法ハ其觀察ノ方面ヲ異ニスルニ依リ種々ニ之ヲ區別スルコトヲ得(一)事務ノ性質ニ就テ之ヲ分ツテ中央制トシ地方ニ依テ分ツテ地方制トス中央制トハ例ヘハ陸、海軍、司法、稅務等ニシテ地方制トハ全國ヲ數多ノ行政區畫トシ府縣郡ト云フノ類ナリ、現行ノ行政制度ハ即チ中央制ニシテ各省大臣ハ各其主管事務ニ付全國ノ機關ニ對シテ行政監督權ヲ行ヒ直接ニ其事務ヲ取扱ハサ

行政法

ルナリ反之彼封建制度ノ如キハ即チ地方制ニシテ其地方ノ行政ハ凡テ之ヲ其地方ニ於テ統括スルヲ云フ現行市制町村制ノ如キハ世人ハ概シテ之ヲ地方制度ナリト云フト雖モ其内、内務大臣以下府縣知事監督ノ下ニアル事項等ニ就テハ茲ニ所謂純然タル地方制ト云フ能ハサルカ如シ故ニ市制町村制ハ中央制、地方制ノ相混同シタルモノナリト信ス、(一)行政組織ハ又其機關ノ構成ニ依テ官府組織、地方自治制度ノ二下ス官府組織トハ國家カ特ニ國家直接ノ機關トシテ行政事務ヲ執行セシムル官衙ヲ設ケ全國ヲ行政セシムル制度ニシテ各省及府縣事務ノ如キヲ官府制トシ市町村ノ自治行政ノ如キハ地方自治制度ナリトス、然レトモ市制町村制中又官府制度ヲ併ビ行ハシムル場合多キヲ以テ現行ノ市制町村制ハ官府制自治制ノ混同シタルモノト云フヘキナリ、(三)行政制度ヲ其事務ヲ負擔スル方法ニ依テ之ヲ官吏制度、公益制度ノ二ニ區別セラル官吏制度ハ政府カ特別ノ資格ヲ有スル者ヲ官吏ニ任用スルト同時ニ其人ハ自己ノ自由ナル承諾ニ依テ初メテ官吏タル資格ヲ得、國ノ行政事務ヲ執行スルモノヲ云フ公益制度トハ法律ニ依リ一般若クハ特定ノ人民ノ義務トシテ公益ノ爲メ行政事務ニ働クコトヲ強制的ニ賦課スルモノヲ云フ例ハ兵役ノ義務、市町村制ノ名譽職ノ如キ此類ナリ

以上ノ區別ニ依リ我國現行ノ行政制度ニ就テ之ヲ云ヘハ

一、中央制ヲ原則トシ地方制ノ主義ヲ便宜採用シ

行政法

行

政

法

二、官府制度ヲ通則トシテ自治制ヲ之ニ附屬セシメ

三、官吏制度ヲ一般ノ規定トシ公益制度ハ行政ノ性質ニ就テ例外トセリ

從來ノ行政ヲ論スルモノハ行政ヲ分テ中央集權、地方分權ノ二ニ區別シ來リシト雖モ是ハ政權ノ存在ニ依テ區別シタルニ過キスシテ前項ニ所謂中央制、地方制ノ區別ト全一ノモノト解スヘカラサルナリ

第二章 官府

行政ノ機關ト云フハ國家カ一個人ニ對シ統治ノ權力ヲ行フニ際シ經由スル所ノ機關ナリ、茲ニ經由ト云フハ即チ機關ヲ通シテ行政ヲ執行スルト云フノ意味ニシテ官府ハ即チ行政機關タリ機關ト云フトキハ内部ニ對シテ國家ノ政務ヲ執行スル器具タル關係アレトモ外部ニ對シテハ獨立シタル權力ノ主体ニアラズシテ單ニ國家政務ノ事務所タルナリ

官府ハ官制ニ依リテ成立ス官制トハ行政事務ノ分配ニシテ官府トハ其分配セラレタル事務ヲ取扱フ一團體タルナリ、而シテ官府ヲ外形ヨリ見レハ官吏及物件ヨリ成立スル所ノ一ノ營造物タルヨリ普通ノ意味ニテハ此營造物ヲ指シテ官府ナリト云フト雖モ此章ニ所謂官府ハ相當ノ職權ヲ有スル官府即チ官吏カ職權ニ依リ行政スル國家ノ事務ノ分配其モノヲ云フ而シテ官府ハ官制ニ依テ成リ官制々定權ハ天

行政法

皇ノ大權ニ屬スルコトハ憲法第十條ノ明示スル所ナルヲ以テ見ルモ官制ハ勅令ヲ以テ之ヲ廢設スル性質ノモノナルコトハ明カナリ、然ルニ茲ニ尤モ必要ナル問題アリ、其問題ト云フハ憲法上ノ大權ニ基ケル官制權ハ前述ノ如ク獨立ナリト雖モ帝國議會ノ豫算議定權ニ依テ制限ヲ受クルヤ否ヤト云フニアリ、凡ソ國家ノ歲出入豫算ハ議會ノ協賛ヲ要シ、官府ヲ設立スルニハ一定ノ費用ヲ要スルヲ以テ天皇ノ官制權ハ間接ノ制限ヲ受クルモノナリトノ解釋ヲ取ルモノアリ、然レトモ是レ其結果ニ依テ大權ト議定權ノ關係ヲ論斷セントスルモノニシテ正鵠ヲ得タルモノニアラス、何トナレハ豫算ハ法律命令ニ準據シテ議定スヘキモノニシテ換言スレハ法令ヲ執行スルニ必要ナル豫算ハ帝國議會之ヲ議定スヘキ義務アルナリ、故ニ豫算ヲ以テ法令ヲ變更スルヲ得ザルハ勿論假リニ官制權ト議定權ト各獨立ノモノトシ法律ニ關セス自由ニ議定權ヲ有スルモノトスルモ兩者ノ間ニ決シテ衝突ヲ見ルカ如キコトナシ、故ニ假令議會カ官制權ノ行使ニ支出スル費用ヲ議決セスト雖モ法令ノ實行ニ差支ヲ生スト云フニ過キス况ンヤ憲法ハ豫算外ニ生スル臨時ノ支出ヲナスノ道ヲ開クルヲ以テ實際ニ於テハ差支ナキヲ期スルヲ得ヘキナリ尙詳細ナルコトハ憲法ニ就テ見ルヘシ

第三章 官職

官制ハ行政事務ノ分配タルコトハ前章ニ之ヲ説明シタリ官職トハ又官制ニ依リ分配セラレタル事務ノ

行政法

一團ヲ云フモノニシテ即チ官吏ガ行政機關トシテ働クコトヲ意味スルナリ故ニ官吏カ自己自由ノ目的ノ爲メ自己ノ權利ヲ行フコトハ官職ニアラスシテ行政ノ目的ノ機關トシテ職權内ノ事務ヲ行フ場合ニノミ官職ト云フナリ

官職ノ權限ニ二種ノ要素アリ(一)一定ノ事務ノ範圍ヲ定ムルモノ(二)職務ヲ行フヘキ一定ノ區域ヲ定ムルモノ是レナリ例ハ行政事務ニ付テ職務權限ト管轄區域トノ二者ヲ定メタルモノ即チ權限ノ區別ナリ以上ノ權限ハ官制ニ依リテ定メラレ其之ヲ完フスルニハ所謂行政監督權ナルモノ存在スルナリ行政監督權ト云フハ上級官府カ下級官府ノ權限ヲ監督スルハ官制ニ依リテ定マル方法ト特別ノ權限裁判所ヲ設ケテ權限爭議ヲ裁判スル方法トノ二種アリ甲ハ單獨制ニシテ乙ハ合議制ヲ以テ本則トス我行政法ハ第一ノ監督法ニ依ルヲ普通トシ特別ノ法律ヲ以テ行政裁判所ノ權限ニ屬セシメタルモノハ特別ノ明文法ヲ要スルコトトセリ

第四章 行政官吏

現行ノ行政組織ハ官吏制度タルコトハ既ニ之ヲ説明シタリト信ス官吏トハ自己ノ自由意思ニ依リテ特別ノ人事負擔ヲ爲スコトヲ云フ人事負擔トハ財產負擔ニ對スル語ニシテ吾人ノ身體ヲ以テ公益ニ供スル爲メ公役(兵役ノ類)及官吏制度アルナリ

行政法

官吏カ公益ノ爲メ負擔スル人事負擔ハ一般ノ勞役ト異ナリテ適當ノ能力ヲ必要トシ又豫メ分量ヲ定メ義務範圍ヲ示スコト難ク特定ノ人ヲ必要トスルモノナリ官吏ヲ任用スル精神ヲ國家ヨリ見ルトキハ公ノ人事負擔タルコトハ前項ニ依テ既ニ明カナリト雖モ此特別ノ負擔ニ酬ユルニ國家カ賠償ノ意味ヲ以テ本人ノ生計ヲ維持スル丈ノ補助ヲ與フルモノ之ヲ官吏ノ俸給トス故ニ官吏カ俸給ヲ受クルハ決シテ權利ニ出ツルニアラサルナリ而シテ一面ニ任官スルト同時ニ官吏ト云フ一ノ資格ヲ享有シ臣民タル普通ノ服從關係ノ外ニ一層強キ特別ナル服從關係ノ下ニ立ツモノナリ臣民ノ服從關係ハ法律命令ヲ以テ其服從ノ種類ト範圍ヲ豫メ定メタリト雖モ官吏ノ服從ハ豫メ種類分量ヲ定メサル不確定ノ服從ナリ一般人民ハ法令ニ依ルノ外義務ノ程度ヲ爭フコトヲ得レトモ(行政裁判)官吏タル身分ハ絶對的ニ政府ノ命スル所ニ服從スルト云フ分限ニシテ其分量ノ如キハ豫メ規定スヘキニアラス故ニ官吏ハ政府ノ命令ニ服從ヲ拒ムコトヲ得サルノミナラス又國民タル權利義務ヲ主張シテ其命令ニ反抗スルコトヲ得サルナリ

又タ官吏ノ任命ヲ政府側ヨリ見ルトキハ國家カ個人ニ對スル特別公役ノ徵收ノ性質アリト雖モ個人ノ目ヨリ見ルトキハ自己自由ノ意志ニ依リテ特別ニ官吏タル身分ヲ得ルモノナルヲ以テ之ヲ辭シ又ハ自己ノ意思ヲ以テ此特別ノ服從關係ノ解除ヲ請フコトヲ得、從テ國家ハ強テ國民ヲシテ官吏タラシムル

行政

コトヲ強制スルコト能ハサルナリ然レトモ之レト反對ニ既ニ官吏タル身分ハ絶對的服從關係ヲ引起スルモノナレハ政府ハ官吏ニ命令スル權アルコトハ勿論ナルヲ以テ政府ハ何時ニテモ官吏タル身分ヲ剝奪スルヲ得ルハ又素ヨリ當然ノ權利ナリトス

第五章 行政官吏ノ職務

官吏ノ職務上ノ行爲ハ政府ノ行爲即チ國權ノ發動ニシテ第三者ニ對シテハ國家ト人民トノ關係ヲ連結スルモノナリ、故ニ官吏ハ其監督權ニ對シ普通人民ノ負擔外ニ特別ノ服從義務ヲ有シ其服從ノ程度ハ普通人民カ法律命令ノ範圍内ニ於ケル服從ノ義務ノミニ止マラス官吏ノ任官ハ絶對的ニ監督權ニ服從スルコトヲ約シタルモノナルヲ以テ職務上ノ責任ハ又無限ニ監督權ニ對シ責任ヲ負フ、而シテ監督權ノ官吏ニ對スル制裁ハ官吏懲戒令ニ依テ懲戒ノ處分ヲ受ク其外尙其不法行爲ニ依テ生スル刑事及民事上ノ責任ヲ負フコトアルモ开ハ行政法上ノ問題ニアラサルヲ以テ姑ラク茲ニ之ヲ論セサルナリ

現行ノ中央行政ノ官吏制度ハ前項ノ監督權ニ依リテ之ヲ統一スルノ主義ニシテ官府ニ上下ノ階級ヲ設ケ上官ハ下官ニ對シテ監督權ヲ行フ階級制度ヲ通則トス故ニ下級官府ハ上級官府ノ訓令又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ命令ニ服從スヘキ義務ヲ有ス例ハ地方行政事務ニ付テハ內務大臣ハ即チ監督權ノ所在ニシテ內務大臣ノ命令ハ府縣知事ヲ羈束シ又府縣知事ハ所屬ノ各行政官ヲ束縛スルカ如キ即チ是レ

法

政

行

ナリ

茲ニ一ノ問題アリ上級官府ノ下級官府ニ對シテ發スル訓令指令ハ絕對的ニ服從ノ義務アルヤ否ヤトノ問題はレナリ而シテ之ニ反對スル學說ニ依レハ法律命令ニ牴觸セサル訓令ニハ服從スル義務アレトモ若シモ法令ニ違背シタル訓令ハ服從ヲ拒ムヲ得ルト論セリ尙之ヲ換言セハ官吏ハ其受クル所ノ訓令ノ當否ヲ審査スル權利アリト云フ解釋ナリ然レモ此見解ハ正鵠ヲ得サルカ如シ何トホレハ任官ト事實ハ既ニ其監督權ノ下ニ立ツルコトヲ自由ノ意思ニ依テ承諾シタルモノナルヲ以テ其監督權ノ掌握者タル上官ノ發シタル訓令指令ハ即チ法律命令ノ解釋並行政ノ方針ヲ下官ニ向テ指示スルモノナリト云フニ依テ見ルモ其訓令ニハ絕對的ニ服從ノ義務アルヤ當然ニシテ殆ント疑ヲ容レサルナリ若シ一步ヲ讓リ訓令カ法令ニ牴觸スルヲ名トシテ之レカ執行ヲ拒ムヲ得ルトセンカ監督權ノアル上級官府ハ何ニ依テ以テ行政ノ統一ヲ期スルヲ得ンヤ況ンヤ訓令ノ當否ヲ審査スル權アリト云フニ於テチヤ依是觀之モ監督官府カ其職權内ノ事務ニ付發シタル訓令指令ニ對シテ下級官府タルモノ無限ニ之ニ服從スヘキ義務アリト解釋スルヲ以テ至當ナリトス乍併其職權内ニ屬セサル事項又ハ其職權内ナリト雖モ被訓令者ノ權限外ニ屬スル事務ニ對シテ爲シタル訓令ハ明カニ官制ニ背反シタル命令ナルヲ以テ之ニモ尙無限ニ服從スルノ義務アリト云フハ穩當ナラサルカ如シ要之ニ形式上ノ審査權ニ付テハ當否ヲ論スルコト

ヲ得ルモ實質上ノ正不正ニ就テハ下級官府ハ上級官府ノ訓令ヲ審査スル權ナシト云フニ歸着ス

第六章 行政官吏ノ懲戒

行政官ノ義務ハ中央行政監督權ノ作用ニ依テ之ヲ統一スルモノナルコトハ官吏ノ職務ノ章ニ於テ之ヲ説明シタリ而テ行政監督ノ方法ハ官制ニ依テ以テ之カ範圍ヲ定ム然レモ官吏ヲシテ忠誠廉直以テ職務ヲ勵行セシムル爲メニ官吏服務規律ノ制定アリ服務規律ハ即チ政府カ監督權ニ依リテ制定セラレタル一種ノ訓令ニシテ任官ノ瞬間ニ於テ同時ニ服務規律ノ制裁ヲ受クヘキモノナルコト素ヨリ何人モ疑ハサル所ナリ、官吏懲戒例ハ即チ服務規律ノ最後ノ制裁法ナリ、然レモ刑罰法又ハ警察罰トハ其性質ヲ異ニスルコトハ讀者ノ記憶スヘキ點ナリトス故ニ行政官吏ハ法令ニ明文ナキヲ口實トシテ懲戒例ノ制裁ヲ免カルルヲ得サルナリ

懲戒權ノ性質ニ付テハ從來學者ノ間ニ種々ノ論争アリ(一)或ハ特別ノ刑罰法トシ(二)或ハ刑法ト性質ヲ異ニスト爲シ(三)或ハ義務履行ノ制裁ナリトシ(四)或ハ損害賠償ノ性質ヲ含ムト爲ス等數種ノ議論アリテ何レカ果シテ正鵠ヲ得タルヤ否ヤハ容易ニ之ヲ斷言シ能ハスト雖モ第一說第二說ハ姑ラク置キ第三說ノ主旨トスル所ハ官吏服務規律并官吏懲戒例ノ精神ヲ推究スルニ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシト(服務規律第一條)アリテ官吏ハ職

行政法

務上勤勉忠順ヲ主トスヘキハ勿論任官ニ依リテ此義務ヲ發生シ退官ニ依テ其ノ義務ヲ免除セラルヘキハ亦素ヨリ論ヲ俟タサレトモ身官吏タル資格ニ在ル間ハ官吏タル職務ヲ忠實ニ執行セサルヘカラサル性質ノモノナルヲ以テ其職務ノ執行上罅缺アラシカ義務履行ノ制裁ヲ受クルニ至ルモノ之ヲ懲戒トスト云フノ意味ニ出テタルモノ、如シ第四説ハ職務ノ過失ヲ償ハシムルノ精神ヨリ罷免職等ノ制裁ヲ設ケタルノ主意ナルヘシト雖モ私法上譴責ノ名義ヲ援引シテ損害賠償、或ハ義務履行ノ制裁ヲ云フニ至テハ慚焉タラサルヲ得サルカ如シ故ニ學者ハ官吏ノ懲戒權ヲ性質ヨリ論シテ一種ノ懲戒ト云フ公法上ノ名義ニシテ其目的ハ監督權ノ強行ニアリト云ヘリ而シテ其理由ヲ敷衍シテ懲戒ハ一定ノ非行ニ對シ一定ノ刑罰アリト云フ主義ニアラスシテ犯則者ヲ強制シテ法令ニ依ラシムルコトヲ以テ目的トナスナリ換言スレハ監督權ニ依リテ行ハル、モノニシテ親族法ニ於テモ又ハ其他公法ノ範圍内ニ於テモ權力關係ニ伴フ一種ノ現象ナリト認ムヘシ乍併前説ノ第三説第四説ノ精神、或ハ適當ナリト雖モ一言ニテ之ヲ掩ヘハ職務違反ニ向テ制裁ヲ施コスモノヲ懲戒ト云フナリ

第七章 中央行政及地方自治行政

從來學者ノ行政ヲ論スルモノハ皆中央集權地方分權ト云フ語ヲ以テ區別ヲ立テタリト雖モ抑モ此區別ノ標準ハ唯其權力ノ中央ニアルト地方ニ分ツトノ意味ニシテ今日ヨリ之ヲ見レハ兩者ハ等シク皆中央

行政法

行政ヲリシナリ詳言スレハ只或官府ハ全國ニ通スル職權ヲ有スルト一地方ニ限ルノ職權ヲ有シタルトノ區別ニ過キスシテ總テ中央地方ノ官府ハ悉ク今日ノ所謂中央行政ナルヲ以テ見ルモ集權分權ノ區別ハ今日既ニ陳腐ニ屬セリ反之今日ノ行政制度ハ形式上ヨリ之ヲ中央行政、地方自治行政ニ分ツ現ニ地方自治行政ハ實施以來茲ニ數年種々ノ經檢ヲ積ムニ及ソテ兩者ノ基礎、漸ク鞏固トナリ一般人民ニ參政自治ノ權利ヲ與ヘ國民民福ヲ増進スルニ至リタルハ近時行政上ノ一大進歩ニシテ吾人カ此聖代ノ福祉ヲ享有スルニ至リタルハ讀者ト共ニ大ニ賀セサルヘカラサルナリ以下中央行政ト地方自治行政ノ區別ヲ述ヘン

中央政府若クハ普通行政ト云フハ行政其物ノ實質カ一省一府縣ノ權限内ニ屬スル性質ノモノナルト否トヲ問ハス凡テ國家カ官府ヲ設ケテ此機關ニ依リ行政スルコトヲ云フ、例ヘハ各省各府縣所管ノ事務ハ勿論市町村ノ自治團體ニ於テ國家ノ機關トシテ行フ所ノ徵稅事務ノ如キモ等シク皆中央行政事務ノ一部分ナリトス故ニ讀者ハ其名稱ノ中央或ハ普通タルニ拘泥セス其性質ノ國家ノ行政タルコトヲ強記セハ足レリ尙ホ之ヲ詳説スレハ中央(普通)行政ノ性質ハ即チ所謂國家直接ノ行政官府ニシテ全國ノ利害ニ關スルト一地方ノ利害ニ屬スルトハ問フ所ニアラス只行政ノ形式方法ニ依リテ之ヲ中央ト地方トニ區別スルニ過キササルナリ尙一ノ注意スヘキハ行政官府ハ法人格ヲ有セス國家自ラノ直接機關タルコ

トテ反之シテ地方自治行政トハ中央行政ト相異シ地方自治團體カ法律上國家ノ委任ニ依リテ自治ノ權限トシテ自ラ行政スルモノヲ云フ故ニ自治行政ハ法人格ヲ有シ團體ノ福利ハ即チ同時ニ國家ノ福利ナリト認メ國家カ團體ノ存在及自治スルコトヲ認許スルモノナリ去レハ自治行政ハ決シテ國家ノ目的ニ反スル行爲アルヲ許サズ從テ又同時ニ國家(中央)ノ行政ニ就テモ又之レカ機關トナリテ執行ノ義務ヲ免カレサルナリ現行ノ市町村制ハ即チ此制度ヲ採用シタルモノニ外ナラサルナリ

尙ホ中央行政ト地方自治行政ノ區別ヲ明カニセントセハ專ラ行政監督及ヒ範圍ヲ明カニスルヲ以テ足レリト信ス

凡テ中央行政ノ事ハ細大ニ論ナシ中央政府ヨリ直接ニ監督權ヲ行フモノニシテ地方自治行政ハ自治團體相互ノ内ニ階級アリテ順次相監督シ階級ヲ經テ中央官府タル内務大臣ノ下ニ監督セラル例ハ町村長カ行フ行政ノ中ニ就テモ自治體ノ權限ニ屬スル事務ニ付テハ上級團體タル郡參事會及府縣參事會ノ監督ヲ受ケ又法令ノ命スル兵役又ハ徵稅事務等ニ付テハ中央官府ノ資格ヲ以テ直接ニ郡長府縣知事ノ監督ヲ受ケルノ類即チ是ナリ監督ヲ受ケルト云フハ其ノ裁決又ハ訓令ノ下ニ行働スルヲ云フ意味ナリ如斯中央行政ト地方自治行政トハ全ク其實質ヲ異ニスルト雖モ直接人民ニ向テ行政スル場合ニ於テハ兩者相連結シテ同一ノ機關ニ依テ以テ執行セラル此調和カ即チ現行行政制度ノ進歩セル要點ナリト

行

ス要約スレハ市町村長若クハ之ニ付屬スル吏員ヲ以テ中央行政ノ執行ニ當ラシムルハ外面ヨリ之ヲ見レハ殆ソト自治行政ト中央行政トノ間ニ實際上區別ナキカ如キ觀アリト雖モ法令ヲ以テ行政事務ノ性質ニ就テ確然タル區別ヲ立テタルヨリ如此錯綜セル兩者ノ機關ヲ相連結シ以テ何等ノ抵觸ヲ見ス各獨立シテ實際ニ行ハレテ聊カノ不都合ヲ生セサルナリ

約言セハ地方自治行政ノ範圍ハ社會的ノ公益行政ニ止マリ純然タル命令權ノ作用例ハ警察行政監獄行政ノ如キ自治行政ニ委スルニ適セス即チ地方的公益事業又ハ商賈教育宗教其他文化經濟ニ關スルモノハ各地方ノ實力及其習慣風俗等ニ依リ地方的ノ自治行政ヲ爲サシムルヲ云フ

第八章 公ノ組合体

國家ノ行政機關ハ中央行政ト地方自治行政トノ二ナリト云フコトハ現今行政法ノ通則ナリト雖モ近世行政ノ發達スルニ從ヒ自治ノ精神ハ又種々ノ方面ニ向テ擴メラレ地方自治團體即チ市町村制ノ外ニ法律上公ノ組合体ナルモノヲ認メ行政ノ機關タル職務ヲ行フ有様トナレリ公ノ組合体トハ利害ノ關係者カ各自己ノ利益目的ノ爲メ團體ヲ組織スルモノニシテ其自己ノ利益目的カ行政ノ目的ニ適合スルモノヲ云フ例ハ水利組合及各種ノ營業組合ノ如キ是レナリ而シテ之レカ反對ニ私ノ組合体トハ民法及商法ノ規定ニ依リ組織シタルモノニシテ彼各種會社又ハ社團財團ノ如キ類ヲ云フ要スルニ公ノ組合体ト

法 政 行

私ノ組合体トテ區別スルノ標準ハ(一)組合員タル資格カ法律ノ結果ニ依テ定マルト其存立及解散カ組合員ノ自由意志ニ一任シタルト(二)公益上ノ必要ノ爲メ行政官力之ヲ監督スルト否トニアリ尙詳細ナルコトハ水利組合條例及商業會議所條例ノ規定ニ就テ研究セラルヘキナリ

第九章 中央官制

第一節 內閣

內閣ハ國務大臣ヲ以テ組織ス國務大臣ハ憲法上ノ機關ニシテ君主カ大權ヲ行フニ當リ之ヲ輔弼スルヲ職務トス乍併便宜上行政各部ノ長官タルコトハ一ニ官制ニ依テ定マル問題ナリ故ニ內閣ニ於テ其掌ル所ノ事務ニ付テハ大權行使ノ輔弼ノ責ニ任シ一方ニ於テ又行政長官ノ官府トシテ行政權限ヲ有ス現行ノ慣例ニ依レハ別ニ國務大臣トシテ任命セラル、コトナシ各省大臣トシテ之ヲ任命シ各省大臣ハ當然ニ內閣ニ於テ國務大臣タルナリ例ヘハ內閣ハ國務大臣ノ合議体ノ官府ニシテ國務大臣カ法律命令ニ副署スルコトハ大權輔弼ノ任ニ屬シ各省大臣カ行政最高ノ官府トシテ行政事務ヲ司ルコトハ各省大臣ノ章ニ於テ之ヲ説明セン

內閣總理大臣ハ內閣ノ首席トシテ事務ヲ主宰ス乍併內閣ノ權限ハ素ヨリ總理大臣ノ權限ニアラス總理大臣ハ內閣ト云フ合議体ノ議長ト云フニ過キササルナリ、然レトモ此他ニ內閣、所屬ノ官府ハ內閣總

行

政

法

行

政

法

理大臣ニ專屬シテ總理大臣カ獨立ノ事務ヲ取扱フ事務所タルナリ例ヘハ法制局、賞勳局ノ如キ是レナ

リ
要之ニ內閣總理大臣ハ二個ノ資格ヲ有ス一ハ內閣ト云フ合議体ノ議長トシテノ權限、一ハ單獨官府トシテノ權限トテ併有ス二個ノ權限ヲ別記スレハ左ノ如シ

內閣ヲ合議体トシテ掌ル所ノ權限ハ內閣官制第五條ニ明文アリ其文左ノ如シ

- 一、法律案及豫算決算案
 - 二、外國條約及重要ナル國際條件
 - 三、官制又ハ規則及法律施行ニ係ル勅令
 - 四、諸省ノ間主管權限ノ爭議
 - 五、天皇ヨリ下付セラレ又ハ帝國議會ヨリ送致スル人民ノ請願
 - 六、豫算外ノ支出
 - 七、勅任官及地方長官ノ任命及進退
 - 八、其他各省主任ノ事務ニ就キ高等行政ニ關係シ事体稍重キモノ
- 內閣總理大臣カ單獨官府トシテ有スル權限ハ行政各部ノ統一ヲ保ツカ爲メニ最高ノ監督權ヲ行ヒ又必

要ト認ムルトキハ行政各部ノ處分又ハ命令ヲ中止シ勅裁ヲ待ツコトヲ得(内閣官制第二、三條)依是觀之ハ總理大臣ハ頗ル重大ナル權限ヲ有スル最高行政監督ノ官府ニシテ各省大臣ノ命令處分モ又總理大臣ノ監督ノ下ニアリ、然レトモ憲法ニ國務大臣トシテ天皇ニ對スル輔弼ノ責任ハ平等ニシテ各國務大臣ハ自由ニ上奏シ旨ヲ承ク又ハ法令ニ副署スルコトヲ得ルコト是レナリ要スルニ内閣ハ國家百般ノ政務ヲ統ヘ大權ノ行動ハ内閣ヲ經由シテ發表シ凡テ中央行政機關ノ統一ヲ歸スルニアリ

第二節 各省大臣

各省ハ行政事務ヲ各其性質ニ依リ分類シタル中央行政事務ノ分配ナリ而シテ之ヲ擔任シテ其實ニ任スルモノハ即チ各省大臣ニシテ各省行政ノ範圍(管轄)ヲ定ムルハ君主ノ大權ニ屬シ所謂官制制定權是レナリ現行ノ制度ニ於テハ全國ヲ九省ニ分チ即チ外務、内務、大藏、文部、農商務、司法、遞信、陸軍、海軍是レナリ
省ハ行政事務ノ分類ニシテ職權トシテ之ヲ行フモノハ各省大臣ナリ、然レモ各省ノ事務其モノヲ以テ直ニ大臣職權ノ全體ナリト即斷スヘカラサルナリ、例ヘハ内務省ト云フハ公ケノ用ニ供セラル、造營物其モノヲ指スト雖モ行政官府トシテノ内務省ハ即チ内務大臣カ次官以下ノ僚屬ヲ率ヒテ行政事務ヲ取扱フ職權ノ在ル所ヲ云フ

行政

各省大臣ノ權限ハ官制ニ依テ定マル官制ハ君主ノ大權ノ作用ナルヲ以テ勅令ヲ以テ規定スヘキコト帝國憲法ノ明定スル所ナルヲ以テ別ニ異論ヲ挾ムヘキ餘地ヲ存セス然レモ獨佛等ニ在テハ未タ議論ノ一定セサル所ニシテ法律ヲ以テ規定セサルヘカラストセリ而シテ其理由ハ官制ハ人ノ自由權利ヲ制限スル規則ナルヲ以テ法律ヲ以テ規定スルヲ要ストシ又或論者ハ大臣ハ國會ニ對シテ責任ヲ負フカ故ニ其之ヲ監督シ其責任ヲ負フヘキ國會ノ議決ヲ經タル法律ニヨルヘシト云フト雖モ我國ニ於テハ之ヲ取ラサルナリ

各省大臣ハ法律勅令ニ依リ其主管ノ行政ヲ施行ス而シテ職權ノ委任ハ官制ニ依テ定マル然レモ行政ノ範圍ハ制限的ノモノニアラス法令ノ範圍内ニ於テ國家ノ目的ヲ達スルコトヲ勉ムルニアリ之ヲ詳言セハ大權ノ監督ヲ受ク及委任ニヨリ法律命令ヲ執行シ社會ノ安寧ヲ保護スルヲ以テ目的トス各省官制ハ即チ各省カ專ラ管轄スル事務ノ性質及權限ヲ概括的ニ示スニ過キサザルナリ

各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別委任ニ依リ行政命令ヲ發スル權ヲ有ス之ヲ省令ト稱ス、凡ソ法規ヲ定ムル權限ハ元來行政固有ノ職權ニアラスシテ法律命令ニテ定ムルコトヲ其ノ本體トス故ニ各省大臣カ省令ヲ發スルノ權ハ法律勅令ノ委任ニ依テ生スルヲ法理トス故ニ省令ハ元ト法律命令ヲ執行スル爲メノ補充タルニ過キスト解釋セハ可ナリ而シテ省令ノ形式的ノ効力ハ法律命令ニ抵觸セ

ナル範圍内ニ於テ一般ニ遵由ノ効力ヲ生ス是レ即チ大臣ノ命令權ハ行政大權ノ監督ノ下ニ於テ之ヲ發スルコトヲ委任セルモノニシテ立法者ニ代リテ命令ヲ發スルコトヲ委任シタルモノニアラサルコトハ讀者須ラク之ヲ記憶スヘキナリ

法令ヲ執行スル爲メト云フトキハ法令ヲ補充シ又ハ執行シ其目的ノ範圍内ニ於テ行政ヲ行フカ爲メニ必要ナル命令權ヲ行フコトヲ云フナリ又安寧秩序ノ維持ト云フコトハ各其主管ノ行政事務ニ付キ危害ヲ防キ法ノ秩序ヲ維持スルコトヲ目的トスルナリ即チ廣キ意味ノ警察命令權ナリ但警察其物ハ内務行政ノ一部ニ屬スレトモ又行政各部ノ警察權ハ大臣ノ警察命令權ニテ行ハル例ヘハ船舶航海ノ取締ハ遞信大臣ノ警察命令權ニテ規則ヲ設クルカ如シ要スルニ各省大臣ノ命令權ハ公益ノ爲メ各種ノ官府ニ關スル命令規則及其主管ノ行政事務ニ付キ警察命令ヲ發ス此二種類ノ命令規則カ即チ省令ノ本領タルナリ

省令ノ形式的ノ効力ハ法律勅令ニ抵觸セサルヲ以テ限度トス然レトモ假令其形式カ違法ニアラスト雖トモ公益ヲ害シ又ハ大政ノ方針ニ反スルト認ムルトキハ内閣總理大臣ハ之ヲ停止スルコトヲ得ヘシ省令ノ實質的ノ効力ハ法律勅令ト異ナルコトナク之レニ對スル一般人民ノ服從義務ハ當然ニ強行スル性質ヲ有ス、乍併省令權ハ當然ニ罰則ヲ設クル權ヲ包含セス、特別ニ勅令ノ委任ニ依リテ罰則ヲ付ス

行

政

法

行

政

法

ルコトヲ得ルノミ帝國憲法第二十三條ハ法律ニ依ルニアラサレハ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシト規定シ法律カ勅令ニ罰則ヲ設クル權ヲ委任シ又勅令カ再ヒ之ヲ各省大臣ニ委任ス是レ間接ニ法律ノ委任ニ依リ省令ニ罰則ヲ付スルコトヲ得ル所以ナリ（明治二十三年九月法律第八十四號及全年九月勅令第二百八號參照）

右ノ外罰則ノ規定ナキ省令ハ全ク制裁ナシト誤解スヘカラス刑法ノ委任ニ依ル地方ノ便宜ニ從ヒ定メタル違警罪ニ依リ之ヲ罰スルコトヲ妨ケス

各省大臣ハ其主任ノ事務ニ就キ下級行政官府即チ地方長官ニ對シ指令又ハ訓令ヲ發シ及監督ノ權ヲ有ス指令ハ一ノ事實ニ對スル訓令ニシテ訓令ハ法令ノ解釋ヲ一定シ又施政ノ方針ヲ指示スルナリ、此訓令指令ノ作用ニ依テ以テ全國ノ地方官カ法令ヲ執行スルニ付テ分裂他岐ニ出ツルヲ防キ又ハ政界ノ歸一ヲ貫徹シ得ル所以ナリ而シテ又監督權ノ作用ハ下級行政官府即チ府縣知事ノ命令處分カ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ侵スモノアリト認ムルトキハ其命令處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得中央行政ハ各省大臣ヲ以テ其集點トス故ニ地方行政廳其職權ヲ以テ命令ヲ發シ所分ヲ行フト雖モ其實ハ各省行政執行ノ機關トシテノ行動タルニ過キサルナリ

第三節 府縣知事

府縣ハ最上級ノ地方團體ニシテ又同時ニ中央行政ノ區劃タリ現今ノ制度ニ依レハ知事ハ即チ府縣ノ長官ニシテ各府縣ニ一人ヲ置ク但東京府ハ警視廳ト相合シテ知事ノ職權ヲ行ヒ北海道廳ニ限り知事ト云ハスシテ長官ト云フモ知事ノ職權ニ準シテ茲ニ解釋スヘキナリ

行政法

知事ハ二様ノ職權ヲ有ス一ハ地方團體ノ行政機關ノ一部トシテ府縣ヲ代表シ法律ニ依リテ之ヲ定ム即チ府縣郡制ノ規定ノ如キ是レナリ而シテ他ノ一ハ中央官府トシテ中央行政ヲ代表スル資格ハ知事本來ノ職分ニシテ地方官々制ノ定ムル所是レナリ知事ハ各省大臣ノ命令及監督ヲ受ク法律命令ヲ執行シ其管轄内行政事務ヲ司掌ス而シテ内務大臣ハ特ニ知事ノ職權ヲ全体ニ於テ監督ス(地方官々制第一條)然レトモ各省大臣ハ其主任事務ニ就キ知事ニ對シ訓令ヲ發シ又之ヲ監督スルノ職權ヲ有ス然レトモ府縣知事ハ内務又ハ各省大臣ニ付屬シタル補助官吏ニアラスシテ各省大臣ノ直接下級ニアル中央行政ノ官府タルナリ尙之ヲ詳言スルハ府縣知事ノ職權ハ内務大臣及各省大臣ノ監督ヲ受クト雖モ其管轄區域内ニ法律命令ヲ執行スル事務ニ付テハ自己ノ職權トシテ獨立行政ノ實ニ任スルト云フニアリ

知事ハ地方官官制ニ依リテ命令ヲ發ス之ヲ府縣令ト稱ス其部内ノ行政事務ニ付法律勅令省令ノ範圍内ニ於テ之ヲ發スルコトヲ得此命令權ノ性質及委任方法又ハ罰則ヲ附スルノ制限ニ付テハ各省大臣ノ所ニ述ヘタル主意ト法理相同キヲ以テ重テ茲ニ贅セサルナリ右ノ外知事ノ權内ニ於テ發シタル命令處

行政

分ニシテ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ及ヒ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ内務大臣又ハ主務大臣ニ於テ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得是レ監督權ノ作用ナルヲ以テ人民又ハ下級行政官府ハ各省大臣ハ訴願シテ命令及處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ許サ、ルハ勿論ナリトス

行政法

地方官官制中一般ノ行政組織ノ主旨ト性質ヲ異ニシタル特例ヲ設ケタルコトアリ、即チ非常急變ノ場合ニ於テ地方ノ安寧秩序ヲ維持スル爲メ知事ニ出兵ヲ請求スルヲ許スノ點是レナリ、(地方官官制第九條)然レトモ我國ノ制度ニ於テ兵力使用ノ權限ヲ直接知事ニ委任シタルハ行政制度ノ精神ニ違背シタル一ノ變例ト認メサルヲ得ス何トナレハ現今ノ中央行政ハ各省ヲ以テ行政ノ中心トシ各省大臣ハ知事ヲ監督シ訓令ヲ與フルト云フハ寧ロ第二ノ職務ニシテ大臣カ職權ヲ以テ行政ヲ施行スルコトヲ大体ノ精神トス之ヲ換言セハ知事ハ大臣ノ行政執行ノ機關タリ依是觀之モ知事カ各省大臣ノ機關トシテ行政ノ目的ヲ達スル爲メ兵力ヲ請求スル權アルハ寧ロ内務大臣ノ權限ナルヲ本體トス尤モ實際ニ於テ臨機ノ必要上ヨリ知事ニ此職權ヲ委任シタルモノナルヘシト雖モ嚴格ニ云ヘハ知事ハ出兵請求事件ニ付内務大臣ノ指揮ヲ待ツノ必要モナク又報告スルノ義務モナシト云ハサルヘカラス是レ交通機關ノ發達セル今日尙此制度ヲ蹈襲スルハ行政ノ精神ニ適ハスト信セリ但官制上ニ於テハ廣ク見テ知事ノ絕對的職權トモリ治安警察ノ爲メニ兵力ヲ用ユルハ元來行政法ノ忌ム所ナリト雖モ行政警察ノ權ヲ能ク安寧

秩序ヲ保維スル能ハサルトキハ君主ノ大權ヲ以テ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ國法ノ精神トス戒嚴ノ性質ハ行政警察權ヲ軍事警察ニ移ス行爲ニシテ憲法ハ之ヲ重大ノコトトセリ、然ルニ官制ニ於テ知事ニ出兵ノ權ヲ與ヘタルハ恰モ大權ニ屬スル戒嚴ノ一部ヲ施行スルニ同シキ結果トナレハ知事ノ此權限ハ萬止ムヲ得サル場合ニノミ此權アリト狹隘ニ解釋スルヲ至當トナス
知事ハ其下級行政官府即郡長又ハ島司ニ對シ訓令ヲ發シ監督權ヲ有ス又自己ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ分任スルコトヲ得

右ノ外、知事ニ屬スル實質上ノ職權ハ軍事、教育、農商工財政、警察監獄ノ事ニ關スル行政百般ノ事務ヲ管理スルヲ以テ寧ロ各省事務ノ分派セルニ比シ實質上ノ職權重大ナリトス

第四節 郡長

郡ニ郡長一人ヲ置ク郡長ハ二個ノ資格ヲ有ス一ハ中級ノ地方自治團體ノ機關ニ參與シテ郡制ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ二ハ中央行政ノ區劃トシ中央行政ノ機關トナリ其地方ニ行政ヲ行フ然レトモ此所ニハ單ニ中央行政ノ機關トシテノ郡長ノ職權ヲ説明セントス

郡長ハ知事ノ次班ニアル中央行政官府ニシテ知事ノ指揮監督ヲ受ク法律命令ヲ其管内ニ執行シ郡内ノ中央行政事務ヲ統督ス而シテ郡長ハ知事ノ補助官ニアラスシテ地方官制ニ依リ獨立ノ權限ヲ有ス即チ

行政

政

法

郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリノ委任條件ニ基キ郡令ヲ發スルコトヲ得

然レトモ茲ニ讀者ノ記憶スヘキハ郡長ハ直接ニ各省大臣ニ交渉シ直接ノ訓令ノ下ニ行政スルニアラス中央官府即チ各省大臣ノ訓令ハ必ス常ニ知事ヲ經由シ知事ノ訓令トシテ郡長ニ及ブヲ以テ形式トナスコト是レナリ

郡長ハ中央行政事務ニ付テ其部内ノ町村長ヲ指揮監督シ又町村ノ自治行政ニ就テハ自治制度即チ町村制郡制ニ依リ自治體ノ事務ヲ監督ス即チ二個ノ職權アリト云フ所以ナリ

郡長ハ單獨行政官府ニシテ官制上事務官即郡書記ヲ置キ郡長ノ職務ヲ補助セシムト雖モ其實任ハ單獨ニ郡長ニアルナリ

(參考) 勅令ヲ以テ特ニ指定シタル島地ニ島廳ヲ置キ島司ヲ置クト雖モ其權限地位及上級官府ニ對スル關係ハ郡長ニ異ナルナキヲ以テ郡長ト同一ノ法理ヲ以テ之ヲ論スヘシ

第十章 行政裁判ノ性質

行政裁判ト云フハ司法裁判ニ對スル名稱ニシテ近來ノ發達ニ係ル制度ナリ行政裁判ノ性質ニ就テハ歐洲諸學者ノ間ニ於テモ種々ノ議論アリテ甚タ區々ナリ今其重ナルモノヲ舉クニ元來行政裁判ト云フコトハ官吏ヲ相手取ルト云フ意味ナルヤ即チ訴訟當事者ノ身分ニ由テ分ル、モノナルヤ又ハ事件ノ實

行政 政 法

質カ私法ノ争ニアラスシテ公法ノ争ナルカ佛學者ノ説ニ由レハ行政官府ニ對スルト云フ形式ヲ見テ行政裁判タルト否トヲ論スルカ如シ若シ此見解カ正當ナリトセハ至極簡單ナリト雖モ獨法學者ノ説ニ由レハ國家ト一個人ノ間ニ民事訴訟アリ得ヘシ例ヘハ官府一個人トノ間ニ物件ノ供給賣買ヲ契約スルカ如キ類即チ民事裁判ニ屬ス故ニ訴訟ノ對手カ國家ナリト云フ説明ノミヲ以テ行政事件ト民事トヲ區別スル能ハサルニ至ル從來我國ニ於テモ行政裁判法ノ設置以前ハ矢張佛學說ノ見解ヲ取り行政事件ニ付テハ控訴院ニテ審判シ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ宣告スルコトトシ行政事件タルト否ノ區別ハ單純ニ相手方ノ官府タルト否トニ依テ決セラレタリ然ルニ近來行政裁判法ノ發布、自治制ノ施行ニヨリ立法ノ精神ヲ見ルトキハ事件ノ性質カ公法ノ解釋ニ係ルトキハ之ヲ行政事件トシテ司法裁判ノ管轄外ニ於テ行政訴訟ノ道ヲ開クニ似タリ故ニ單純ナル佛學者ノ説明ニテ之ヲ解釋スルヲ得サルナリ然レトモ近時種々ノ解釋上ヨリ見ルトキハ行政裁判ハ行政監督ノ一方法ナリト云フ見解ナリ而シテ其理由トスル所ハ國家ノ行政ハ一般ノ監督權ニ依リテ統一セラル監督トハ上級官府カ下級官府ニ對シテ行フヲ通則トス然レトモ其變則トシテ不當若クハ不法ノ處分ニ依リ權利ノ自由ヲ侵サレタル者ニ出訴ノ道ヲ開キ之ヲ行政裁判所ノ審判ニ付スルモノ即チ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ行政監督ノ統一ヲ期スル爲メ特ニ訴訟裁判ノ形式ヲ用非當事者ノ參加ヲ許シタルモノ即チ行政監督ノ一方法ナリトシ一般ノ監督權ノ性質ニ依

リテ之ヲ説明スルヲ可ナリトセリ而シテ之ヲ司法裁判ニ對スル名稱ナリト云ヘルハ其形式カ相似タリト云フニ過キスシテ其性質ノ相異ナルモノナルコトヲ知レハ可ナリ

第十一章 行政裁判所

行政裁判所ハ行政訴訟ヲ審判スル唯一ノ裁判所ニシテ東京ニ置キ全國ヲ管轄ス而シテ其判決ハ終審ニシテ上訴審ナク亦タ始審ナシ通常ノ行政訴訟ハ先ツ訴訟トシテ行政廳ノ判決ヲ經タル後行政裁判所ニ訴ヘ出ツルヲ順序トスト雖モ是レ民事訴訟ト性質ヲ異ニスルカ故ニ始審ト云フヘカラサルハ勿論ナリトス

行政 政 法

行政裁判所ハ合議體ニシテ單獨制ニアラス裁判ハ裁判長及評定官ヲ合セ五人以上ノ列席合議ヲ要シ議決ハ過半数ヲ以テ決ス行政裁判所ノ長官及評定官タル資格ハ年齢三十歳以上ニシテ五ヶ年以上高等行政官若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ之ヲ任命ス而シテ其進退懲戒等ニ關シテハ概シテ司法裁判官ト同シク刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ラサレハ其意ニ反シテ其職ヲ奪ハル、コトナシ

行政裁判所ノ權限ハ法律勅令ニ依リ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス(行政裁判法十五條)元來行政裁判ノ權限ヲ定ムルニハ原則法、列記法ノ二様アリ原則法トハ司法裁判ノ權限ニ於ケル如ク行政訴訟ノ性質アルモノハ事件ヲ制限セスシテ一般ニ出訴ノ自由ヲ認ムルモノニシテ之ヲ換言スレハ行政官廳ノ違法

處分ニ依リ權利自由ヲ毀損セラレタリト云フ者ニハ凡テ行政訴訟ヲ提起スルノ自由ヲ與ヘタル場合ヲ云ヒ、列記法ト云フハ概括的ニ原則法ニ依ラス實質的ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ事柄ヲ列記シ法律勅令ニ明文ナキ事件ニ就テハ總テ出訴ヲ許サザル制度ヲ云フ我現行ノ行政裁判法ハ原則法列記法何レニ屬スルヤト云フニ茲ニ之ヲ斷言スル能ハスト雖モ寧ロ列記法ノ主義ニ依リタルハ我國ノ行政裁判例ニ於テ予輩ノ屢々實見スル所ナリ

又一ノ注意ヲ要スル點アリ普通裁判所ノ權限ハ單ニ法律ノ規定ニノミ因ルヘキモ行政裁判ノ權限ハ法律又ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ル是レナリ即チ行政裁判ノ性質ハ行政監督ノ一方法ナリト云フ理論ノ依テ生スル原因ナリトス、故ニ其裁決ハ監督官廳ノ判決處分ノ如ク其事件ニ付キ關係行政廳ヲ羈束スル効力アル所以ナリ之ヲ行政訴訟ノ一般ノ手續ヨリ云ヘハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外先ツ行政訴訟ノ形式ニ依リ裁決ヲ經タル後ニアラサレハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ス但各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄又ハ地方上級行政廳(自治團體ニ對スル知事)ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ許セリ(行政裁判法第十七條第一項第二項)

是レ即チ最上監督官廳ノ處分ニ對スル行政訴訟ナレハナリ尙一言スヘキハ各省又ハ内閣ニ訴願シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルヲ許サ、ルコト、セリ例ヘハ訴願ヲ起スモノカ知事ノ裁決ニ不服アルトキ

行政法

ハ進ンテ各省大臣ニ訴願スルカ又ハ行政裁判所ニ出訴スルカニ中擇一ノ自由ヲ認メ一方ニ訴願スレハ一方ニ出訴スルヲ許サ、ルハ取リモ直サス行政監督ノ作用即チ行政ノ統一ヲ缺クノ虞レアルヲ以テノ故ナルヘシ至茲益行政裁判ハ其性質行政監督ノ方法ナリトノ解釋ノ確乎動カスヘカラサルヲ證明スルニ足レリト信ス

第十二章 行政訴訟

行政裁判ノ主義ニ原則法ト列記法トニ主義アルコトハ前節ニ之ヲ説明シタリ即チ其結果トシテ行政訴訟ノ範圍ハ二様ノ點ニ於テ制限セラル一ハ原則ニ依ル制限ナリ一ハ法令ニ依ル制限ナリ

原則ニ依ル制限トハ行政訴訟ハ行政官廳ノ違法ノ處分ニ依リ一私人ノ權利ヲ毀損サレタリトスル場合ニ限り提起スルコトヲ得其要素ヲ左ノ三條件トス

第一、行政訴訟ハ行政官廳ニ對スルモノタルコトヲ要ス

此所ニ所謂行政官廳トハ當然政府ニ對スル訴ナリト誤解スヘカラス大權ノ直接ノ行動ニ屬スルコトハ行政訴訟トシテ成立セス故ニ假令行政機關ヲ通シテ行ハル、軍隊統帥權、若クハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ムル權ノ如キ其結果個人ノ權利財產ヲ侵ス場合アリトモ之ニ對シテ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ス要スルニ官制ニ依リ行政官廳ノ職權ニ屬スル不當行為ニノミ行政訴訟ヲ認ムルナリ

第二、行政訴訟ハ行政處分ニ對スルヲ要ス

行政ノ行爲ハ法規ヲ設立シ及處分ヲナスニアルコトハ既ニ之ヲ説明シタリ而シテ法規ニ對シテハ行政訴訟成立セス訴訟ハ處分ニ對スルナリ、行政處分ハ又分テ便宜處分、依法處分ノ二トス便宜處分ハ全然法律命令ノ委任ニ依レル自由ノ處分ヲナスコトヲ云ヒ依法處分ハ法令ノ範圍内ニ於テ特定ノ事實ニ對シテ法令ヲ解釋シテ適用スト云フニアリ故ニ行政訴訟ハ只處分中ノ依法處分ニノミ對スト云フ義ナリ便宜處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ許サス

第三、行政訴訟ハ行政處分カ違法ニシテ個人ノ權利ヲ毀損シタル場合ニ成立ス茲ニ注意スヘキハ權利ト利益トノ間ニ區別アルコト是レナリ單純ナル利益ノ侵害ニ對シテハ訴訟ノ道アレトモ行政訴訟ハ許サ、ルナリ

現今、行政裁判法ノ精神ハ列記法ニ由リタルコト既ニ之ヲ述ヘタリ即チ特種ノ法律例ヘハ府縣、郡、市、町村制ニ依リ明文ヲ以テ許シタル場合ヲ除クノ外明治二十三年法律第百六號ヲ以テ一般ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ事件ヲ列舉シタリ即チ左ノ如シ

- 一、海關稅ヲ除ク外租稅及手數料ノ賦課ニ關スル事件
- 二、租稅滯納處分ニ關スル事件

三、營業免許ノ許否及取消ニ關スル事件

四、水利及土木ニ關スル事件

五、土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

右ノ内營業免許ノ許否ニ關スル事項ハ我行政法ニテハ未タ營業ノ自由ヲ認メス從テ營業免許ノ許否ハ行政警察官ノ職權内ニテ定メ得ルノミ

第十三章 訴願法

訴願ハ行政處分ニ對シテ上級監督官廳ニ訴ヘテ其處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルモノニシテ其實質ノ働キハ行政訴訟ト相似タリ故ニ廣キ意味ニテ行政訴訟ト云フトキハ訴願及行政訴訟ノ二者共ニ含ムト云フモ不可ナシ然レトモ狹キ意味ニテ訴訟ト訴願ヲ區別スレハ左ノ如シ

第一、訴願ハ純然タル行政内部ニ於テ監督行政廳ニ訴ヘテ處分ノ取消又ハ變更ヲ請フモノニシテ訴訟ハ行政處分ヲナス官廳ヨリ獨立シタル裁判所ニ訴フルナリ

第二、訴願ハ純正ニ行政監督ノ權限ヲ行ハレノコトヲ人民ヨリ請求スルニ止マリ官制上上級官府ハ下級官府ノ處分ヲ取消シ變更シ及停止スルコトノ職權ヲ有スルヲ通則トス

第三、訴願ハ治者被治者タルノ關係上ノ秩序ヲ保タサルヘカラスト雖モ訴訟ハ双方對等ノ資格ニ於

テ裁判ヲ請フモノナリ

第四、訴願ハ書面審理ヲ以テ通例トスト雖モ行政裁判ハ之ニ對シ口頭審理ヲ以テ通則トセリ

第三編 各論

第二章 外交行政

第一節 外交行政ノ機關

外交行政トハ國家カ其機關ノ作用ニ依リ外部ニ對シテ行フ所ノ行爲ナリ乍併帝國憲法ニ依レハ國ト國トノ交際ハ君主カ大權ニ依リ直接ニ之ヲ行フコト、ナレルヨリ國家カ外部ニ對シテ凡テノ關係ヲ惹起スルハ國家法即憲法ノ範圍ニ屬スルカ如ク認メラル、ト雖モ現今ノ國際法ノ慣習ニ依ルニ國ト國トノ交際ハ君主直接ニ之ヲ行フコトナクシテ專ラ國家ノ機關ヲ通シテ之ヲ行ハシムルニ依リ外交行政ハ矢張行政法ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得可シ何トナレハ法理論ハ行政ノ形式ノミヲ論スルモノニシテ行政ハ即チ法理論ノ外ニ於テ獨立ノ目的ヲ有シ獨立ノ行爲ヲ爲スモノナレハナリ故ニ一般行政中法理論ニ尤モ關係アル部分ハ皆ニ國內行政ニ止マリ外國ニ對スル行政ハ法理論ニ緣遠キモノナルコトヲ記憶セハ足レリ以下外交行政ノ機關ヲ論セン

行

法

憲法第十三條ニ天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ストアリテ外交行政ハ君主カ親ラ直接ニ國家ヲ代表シ他ノ國家ノ主權者トノ關係ヲ引起スカ如ク見ユルト雖モ君主カ機關ヲ通シテ之ヲ行ハシムルト云フニ過キスシテ即チ國家ノ機關トナリ外交行政ヲ行フニハ左ノ二個ノ機關ニ依ラサルヘカラス

第一 公使

第二 領事

右ノ外、外務大臣ハ外交行政ノ機關タルカ如キ觀アリト雖モ外務大臣ノ外交行政ニ於ケル關係ハ政治上ヨリ外交行政ノ機關ト稱スルコトヲ得ルト雖モ行政法上ヨリ之ヲ見レハ外交ノ機關ト稱スヘキモノニアラス換言スレハ外務大臣ノ職權ハ尙他ノ各省大臣ト同シク國內ニ於ケル政務ノ一部分ヲ司掌スルニ過キス故ニ外務大臣ハ之ヲ外交行政ノ機關ト看做スヘカラサルナリ

第一、公使

公使ハ外國ニ於テ君主ヲ代表シ交際ノ機關トナルノ性質ヲ有ス故ニ公使ヲ經由スル他國トノ交際ハ國際ノ習慣ニ於テ正式ノモノト認メラル而シテ之レカ反對ニ君主カ若シ公使以外ノ官吏ヲシテ直接ニ他國ト談判ヲ開カシメタルトキハ之ヲ不正式ノモノト認ムルコト、セリ

公使ノ種類職務權限及ヒ待遇等ノコトニ付テハ國際法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ説明スルヲ要セスト雖モ公使ノ種類ヲ別チ全權公使辦理公使代理公使ノ三種トシ其職務權限及待遇等ノコトニ至テハ其資格ノ如何ニ依リ多少ノ差異アリト雖モ現今國際上ノ習慣ニ依レハ國ト國トノ間ニ双方ヨリ派遣ノ公使ハ互換ノ目的ヲ以テ同一ノ資格ヲ有スル公使ヲシテ相互ニ交換駐在セシムルコト、ナレリ例ヘハ甲國ヨリ全權公使ヲ派遣スルトキハ乙國ヨリモ全權公使ヲ派遣シ乙國ヨリ辦理公使ヲ發スルトキハ丙國ヨリモ又辦理公使ト同一資格者ヲ駐在セシムルカ如キ是レナリ

第二、領事

領事ノ職務ハ公使ノ如ク國權ヲ代表スルモノニアラスシテ單ニ國內ノ利益ヲ保護スル爲メ外國ニ在留スル臣民ニ對シ國內行政ノ官吏タル資格ニ異ナルコトナシ故ニ其性質ヨリ論スルトキハ普通ノ行政官ト異ナルコトナシ只外國ニ在留シテ國內ニ在ラス且外國ニ在ルハ國際ノ法規ニ於テ其職務ヲ認メラレタルトノ間ニ於テ普通ノ行政官ト異ナルノミ

領事ノ職務ヲ其事項ニ付テハ云フトキハ專ラ外國ニ在留スル帝國人民ノ保護及交通商賈等ノ保護ヲ司掌スルニ在リテ純然タル外交官ト云フ能ハサルナリ而シテ或場合ニ於テハ裁判ノ權限ヲ享有スルコトアリ然レトモ條約ノ結果ニ過キサルヲ以テ領事ハ總テ裁判ノ權限アリト云フヲ得サルナリ領事ハ現行

行

政

法

行

政

法

ノ官制ニ依レハ一等領事、二等領事ノ區別アリト雖モ是レ官等ノ上下ト駐在國ノ實況如何ニ依ル區別ニ過キスシテ其職務ノ權限ニ至テハ甲乙ノ間ニ差異アルヲ認メサルナリ
以上二者ノ外交機關ニ對スル外務大臣ノ關係ハ全ク監督者タルノ地位ニアルニ過キス外務大臣ハ即チ自ラ外交ノ機關トナルニアラスシテ畢竟外交機關ヲ管督スルノ職權アルニ過キサルナリ故ニ例ヘハ領事カ其職權内ニ於テ行フ事柄ニシテ國內ノ他ノ機關ト交渉スルニ當テハ必ス機關ノ監督者タル外務大臣ヲ經由セサルヘカラサルカ如シ

第二節 外交條約

一國內ノ行政ハ總テ法規ノ命令形式ヲ以テスルヲ普通ノ原則トスト雖モ外國ニ對スル行政ノ形式ハ命令ヲ以テ之ヲ行フコト能ハスシテ專ラ條約ニ依ルヘキモノト是レ實ニ明カナル道理ニシテ甲ハ治者カ被治者ニ對スル關係ナリト雖モ乙ハ平等者間ノ關係ヲ規定スルモノナルヲ以テ契約ノ形式ニ依リ双方ノ合意ニ出テサルヘカラス之ヲ稱シテ外交條約ト云フ然レトモ全然私法上ノ契約ト區別スルノ必要アリ私法上ノ契約ハ契約者双方ノ合意ニ依リ成立シ局外者タル國權ノ保護ニ依リ其効力ヲ全フスルコトヲ得ルト雖モ外交條約ハ國際ノ通義ニ依ルノ外他ヲ強制シテ之ニ據ラシムヘキ制裁者ナキヲ以テ双方ノ間ニ條約ヲ履行スルトキハ其効力ヲ全フスルト雖モ一朝條約ニ違反スルコトアルトキハ之ヲ戰爭

ニ訴フルノ外其効力ヲ保全スルコト能ハサルナリ然レトモ是レ其最終ノ効力如何ノ問題ニ關シ公法上ノ契約タル性質ニ至テハ兩者ノ間ニ些少ノ差異ナシト云フモ敢テ不當ニアラサルカ如シ右ノ如ク外交上ノ條約ハ國ト國トノ契約ノ性質ニ出ツルモノナルヲ以テ其目的ノ如何ハ素ヨリ豫メ茲ニ規スルヲ得サルナリ即チ帝國憲法第十三條ニ於テ天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ媾シ及諸般ノ條約ヲ締結ストアル所以ニシテ就中通商及交通ノ目的ニ出ツルモノハ尤モ屢々目撃スル所ナリ加之ナラス憲法ハ只條約ノ方法(天皇ノ大權)及ヒ形式(締結)ヲ制限スルニ止マリ條約其モノノ目的ヲ制限スルコトナシ故ニ外交條約ノ法理ヲ説明スルニ當リテハ條約締結ノ手續及効力ヲ論スルニ止マリ其目的ノ如何ハ措テ論セス只總テ同一種ノ條約ナリト見ハ可ナリ何トナレハ條約ノ目的ハ實リ天皇ノ大權ニ屬スヘケレハナリ

條約ヲ締結スルノ手續ハ國際法上ニ於テ一般ニ認メラレタル規定ナキカ如シ故ニ只各國各々自國憲法ノ範圍内ニ於テ之ヲ締結セサルヘカラサルノミ即チ帝國憲法ニ於テハ條約締結權ハ天皇ノ大權ニ屬セラレタルヲ以テ條約締結ノ手續ハ別ニ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要セス獨リ天皇ノ大權ヲ以テ外交機關ヲ通シテ之ヲ締結シ得ルト云フニ歸ス外國ノ憲法ニ於テハ或ハ國會ノ協贊ヲ經テ締結スヘシト規定セル國アリト雖モ并ハ憲法上ノ規定ノ異ナルヨリ生スル結果ニ過キスシテ之ヲ以テ我國ニ於テモ外交條

行政法

約ハ議會ノ協贊ヲ要スルトノ議論ハ到底我國ニ之ヲ適用スルヲ得サルナリ

條約ノ効力ヲ論スル歐洲ノ公法家ニ二種ノ學說アリ獨逸ノグナイスト氏ハ外交條約ニ二種ノ効力アリト云ヘリ(第一)締盟對手國ニ對スル効力(第二)國內ニ於ケル効力はレナリ第一締盟國ニ對シテハ君主ノ批准ヲ以テ完全ナル効力ヲ生シ第二國內ニ對シテハ若シ條約ノ事項カ立法ノ範圍ニ屬スルトキハ議會ノ協贊ヲ待テ始メテ有効ナリト云フニアリ即チ條約ノ効力ハ内外ノ二様ニ分レ一方ヲ以テ一方ヲ打消スコトヲ得スト云フニ歸ス而シテ之ニ反對スル學者ハ凡テ法律若クハ條約ニ二様ノ効力アリ得ルコトナシ若シ有効ナル條約ナルトキハ國ノ内外ニ通シテ有効ナラサルヘカラス、有効ナラサレハ即チ無効ノ條約ナリト即チ此說ヲ贊成スル學者ノ說ニ依レハ條約ヲ締結スルコト、議會ノ協贊ヲ經テ國內ニ有効ナラシムルコト、ハ之ヲ同一ノ行爲ナリト云フノ結果ヲ生スルニ至ル要スルニ右ノ如ク說ノ分ル、所ハ條約ヲ以テ直ニ國內ニ効力ヲ生セシメントスルニ外ナラスシテ兩者共ニ肯綮ヲ得タルモノト云フ能ハサルカ如シ何トナレハ外交條約ノ効力ハ其對手國タル外國ニ對シテノミ効力ヲ生スルニ過キサズルニ條約ヲ以テ直ニ國內ニ有効ナラシメントスルノ誤解ニシテ之ヲ詳言スレハ條約ハ即チ私法上ノ契約ト同一形式ヲ有スルヲ以テ對手國間ニ在テハ完全ナル條約ノ効力ヲ生スレトモ之ヲ以テ本國臣民ノ自由權利ヲ制限セント欲セハ必ス法律若クハ命令ノ形式ニ因ラサルヘカラサレハナリ然ラサレハ即チ

明ニ帝國憲法ニ違背スルコト、ナル而シテ條約ハ即チ法律ニアラス又命令ニモアラサルコト學者間ニ異論ナキヲ以テ條約ヲシテ國內ニ有効ナラシメントスルニハ必ス法律若クハ命令ノ形式ヲ以テ國法ニ公布セサルヘカラサルナリ

現今我國ノ慣例ニ依ルニ實際上ノ便宜ノ爲メ外交條約ハ君主ノ批准後其文詞ヲ直チニ勅令ヲ以テ公布スルコト、ナレリ從テ條約ノ全文ハ此命令ノ形式ヲ以テ公布セラレタルニ依テ臣民ニ對シテ有効トナリ條約其モノカ直ニ臣民ニ對シテ効力ヲ有スルモノニアラサルナリ

條約ヲ締結スル外部ノ手續ハ君主カ直接ニ談判ニ從事スルモノニアラス全權委員ヲシテ談判ノ任ニ當ラシメ兩全權ノ議定シタル交換書ハ即チ未タ條約ノ草按ニシテ他日双方國君主ノ批准ニ依テ完全ナル効力ヲ生スルモノトス之ヲ詳言セハ條約ノ批准ハ恰モ法律ノ裁可ニ該當シ全權委員ノ交換書ハ恰モ法律ノ議案ニ相當スルモノト云フヘシ依是觀之ハ條約カ有効トナルノ時期ハ即チ全權委員ノ議定當日ニアラスシテ君主カ批准ノ日ニアリト知ルヘシ

條約廢棄ノ手續ハ之ヲ締結スルノ手續ニ同シ若シ條約ヲシテ直接ニ臣民ノ自由ヲ制限スルモノトセハ廢止ノ議定ニ依テ其効力ヲ失却スルカ如キコト、ナルモ法律トシテ一旦公布シタル法律ハ後日之ヲ廢止スル法律ノ公布ナキトキハ到底其効力ヲ沒スヘカラサルカ如ク條約ノ廢止ハ公布ノ手續ト同一ノ形

行政法

式即勅令ヲ以テ之レカ効力ノ停廢ヲ公布セサルヘカラサルナリ

第二章 內務行政

第一節 總說

普通ニ內務行政ト云フ文詞ハ內務大臣ノ管轄ニ屬スル行政事務ノ總稱ナルカ如ク見做サレ而シテ此區別ハ我國現行ノ制度上ノ區別ニ適合セルカ如シト雖モ法理上ノ解釋トシテハ理論ニ適應セサルナリ例ヘハ租稅ノコト農業ノコト教育ノコト若クハ通信ノコトノ如キモ皆其性質上ニ於テハ內務行政ト稱スヘキヲ穩當ナリトス而シテ現今ノ制度ニ於テハ各其種類ニ依リ之ヲ區別シタリト雖モ并ハ各省主管事務ノ性質ニ依リ之ヲ區別シタルニ過キスシテ學理上ノ行政ト云フ理論ニハ適合セサルナリ以下理論上ヨリ內務行政ノ意義ヲ論究セントス

抑モ內務行政トハ國家カ行政官府ト云フ機關ニ因テ臣民ニ對シ法規ヲ發シ及處分ヲ行フコトヲ總稱シテ之ヲ云フ故ニ內務行政ノ他ノ行政ト異ナル所ハ(第一)一個人ノ自由權利ニ關係スルヤ否ヤヲ以テ標準トスヘシ(第二)全國一般ノ利益ニ對シテ行フ行政ハ內務行政ニアラス之レヲ要スルニ內務行政ハ公益ヲ謀ルト私益ヲ圖ルトヲ論セス行政官カ一個人ニ對スルテウ外形上ノ標準ヲ以テ他ノ行政ト區別スルノ標的トナスヘシ故ニ內務行政ニ屬スル行爲ハ大別シテ凡ソ左ノ四種トナスコトヲ得ヘシ

行政法

第一、行政ノ目的ヲ達スル爲メ命令ノ形式ヲ以テ直接ニ一個人ノ行爲ヲ制限スルコト例ハハ警察命令ノ大部分ハ之ニ屬ス

第二、一個人ニ對シテ或ル權利ヲ與ヘ若クハ奪フ等ノ行爲例ハハ營業ノ免許ヲ與ヘ若クハ奪フト云フカ如キ種類ノ行爲是レナリ

第三、行政官カ事實ヲ証明スルノ判決的行爲ヲナスコト例ハ人ノ族籍身分ニ對シテ町村役場カ證明ノ與印ヲナスカ如キ或ハ旅行免狀ヲ下付スルカ如キ是レ又行政ノ一職分トス

第四、一個人ノ自由權利ニ對スル事項ニシテ行政官カ裁決ヲ與フル事柄例ハハ訴訟ニ對シテ裁決ヲ與ヘ或ハ願同等ニ對シテ指令スルカ如キ種類ノ行政ヲ總稱ス

以上四種類ノ行政行爲ハ之ヲ行政處分ト名ツク處分トハ特別ノ事件若クハ特別ノ場合ニ於テ特定ノ人ニ對スル行政官府ヨリ一個人ニ關係スル行爲ヲ總稱ス而シテ此處分ノ外行政官府ハ亦タ人民ノ行爲ニ關スル法規ヲ發布スル權ヲ有ス法規トハ處分ト異ナリ或ル事柄ヲ豫想シ一般ニ向テ行爲ノ標準ヲ定ムルコトヲ云フ例ハハ府縣知事カ警察命令ヲ發布スルカ如キ又ハ郡長市町村長ニ於テ各種ノ命令規則ヲ公布シテ一般ニ遵守セシムルカ如キ皆此種類ニ屬ス茲ニ一ノ注意スヘキハ廣ク一般ニ行政法規ト云フトキハ百般ノ行政官ノ發シタル命令規則ヲ包括スト雖モ行政法理ニ於テ特ニ行政法規ト稱スルモノハ

行

政

法

法律ヲ執行スル爲メニ若クハ法律ノ與ヘタル權力ニ因テ一個人ノ自由ニ關係スル所ノ規則ノミヲ稱ス故ニ内務行政ノ形式ヲ大別スルトキハ行政法規ト行政處分トノ二種トナスコトヲ得ヘシ

内務行政發達ノ沿革ニ付テハ種々ノ變遷ヲ經タルモノニシテ近代ニ至リ大ニ其發達セルコトヲ見ルヲ得ヘキナリ元來古代ノ内務行政ナルモノハ極メテ粗雑ナルモノニシテ今日ノ所謂警察行政ニ限ラレタリト雖モ近時國權ノ隆盛ニ伴ヒ社會ノ組織漸ク複雑ナルニ及ンテ漸次内務行政ノ區域ヲ擴張シ終ニ社會上一般之事柄ニ波及スルコト、ナレリ例ハハ農商務文部遞信ノ事務ノ如キ是レ又學理上ニ於テ内務行政ノ一部ト認メラル、ニ至レリ去レハ内務行政ノ範圍ヲ其事項ニ付テ豫メ區劃スルコトヲ得ス何トナレハ將來ニ於テハ如何ナル事項カ内務行政ノ範圍ニ屬スルヤハ今日ニ於テ豫メ之ヲ知ルコトヲ得サレハナリ

内務行政ノ最モ重モナル部分ハ命令及禁止ノ形式ニ依テ其目的ヲ達スルニアリ之レヲ概括シテ警察法ト云フ茲ニ所謂警察法トハ廣キ意味ニ對スル名稱ニシテ一言ヲ以テ之ヲ掩ヘハ商工業、教育、交通取締法ノ如キ皆之ヲ總稱シテ警察法ト云フ

第二節 警察

警察ハ内務行政ノ全般ニ通スル行爲ノ形式ナリ故ニ官制ニ於テ警察ト稱スルモノト茲ニ所謂警察ト稱

スルモノトハ必スシモ相一致セサルナリ何トナレハ現行官制ニ於テハ行政官ノ種類ヲ分チ其一部ノモ
ノヲ警察官ト云ヒ警察官ノ行フ行爲ヲ警察ト名クト雖モ茲ニ警察ト稱スルハ總テノ行政ノ内ニ就テ其
行爲ノ種類ニ因テ區別シタルモノニシテ行政官府ノ種類ハ單ニ其事項ヲ各省ニ分配シタルニ過キス故
ニ官制上其名稱ノ何タルヤヲ問ハス警察事項ヲ行フ行政官府ハ上國務大臣ヨリ下郡長市町村長ニ至ル
迄茲ニ所謂警察官府タルナリ

之ヲ要スルニ現行官制上内務省所管ノ大部分ハ勿論農商務遞信等各省ノ事務ノ如キモ又此警察ノ内ニ
包含セルコトヲ記憶スヘキナリ

警察トハ人民ノ自由ヲ制限スル命令ナリ凡テノ國家ノ行爲ハ皆命令ノ性質ヲ帶フル以上ハ悉ク警察ノ
範圍タラサルハナシ故ニ警察ノ定義ヲ正解スレハ警察トハ直接ニ各個人ノ自由ヲ制限シテ法律命令ノ
欲スル情況事實ヲ惹キ起ス所ノ行爲ヲ云フト知ルヘシ以下其要素ヲ概説セン

第一、法律勅令ハ共ニ命令ノ一種ニシテ人ノ自由ヲ制限スルモノナリト雖モ命令ト警察トハ終始同一
物ニアラス命令ノ中處分命令即チ一個人ニ對スル特別ノ命令ニアラサレハ之ヲ警察ト云フヘカラス
而シテ又警察命令ト警察處分トハ之ヲ區別セサルヘカラサルナリ

第二、直接ニ人ノ自由ヲ制限スルモノナリトノ要件ハ一般ノ行政處分ト警察トノ異ナル所ナリ行政處

行 政 法

分トハ概シテ人ノ自由ヲ制限セサルモノ殆ソト罕ナリト雖モ間接ノ處分ハ警察ト云フヘカラス例ハ
ハ天然痘流行ノ際種痘ヲ強制スルハ警察處分ナリト雖モ租稅滯納者ニ督促狀ヲ發スルカ如キハ警察
處分ニアラサルナリ

第三、法ノ秩序ヲ維持スルコトハ警察ノ目的ナリ若シ法ノ秩序ヲ維持スルニアラサルトキハ人ノ自由
ヲ制限スルコトアルモ警察處分ト云フヘカラス
以上ノ三要件ヲ具備スル行政處分ヲ警察處分ト云フ

警察ヲ行フノ權力ハ多クノ行政官府ノ有スル所ナリ從テ警察ヲ行フ官吏ハ何等ノ名稱ヲ有スルニ拘ハ
ラズ凡テ警察官ナリ故ニ普通ニ警察官(官制上)タル名稱ヲ有スル者ノミヲ警察官ナリト云フハ法理上
他ノ行政處分トノ區別ヲ説明スル能ハサルニ至ルノ恐アリ

警察トハ獨リ處分ノミヲ爲スニアラス警察法規ヲ設クルコトヲ得ヘシ處分トノ區別ハ既ニ屢々
説明スル所ニシテ法規ハ或ル事柄ヲ豫想シテ發シタル一般ニ對スル命令ニシテ處分トハ特定人ニ對シ
自由ヲ制限スルヲ云フ警察法規ト行政規則トノ區別ハ法ノ秩序ヲ維持スル爲メ直接ニ人ノ自由ヲ制限
スル爲メ發シタルヤ否ヤヲ審査スルニアリトス

警察規則ヲ設クルノ權力ハ法律若クハ勅令ニ依リ其範圍ヲ制限セラル、モノトス憲法第二章ハ臣民ノ

權利義務ト題シ或ル事柄ニ付テハ警察規則ヲ設クルノ範圍ヲ制限セリ假令審問處罰ヲ受クルコトナキ自由ハ法律ニ依テノミ制限スルコトヲ得ルニ過キスシテ行政官府ハ之ニ關スル警察規則ヲ設クルコトヲ得サルナリ現行ノ警察法規及處分ヲ精密ニ調査スルトキハ隨分法律ノ範圍ヲ脱シタルモノアルヘシト信ス

警察法規ニ二種アリ即チ警察規則及警察罰則是レナリ罰則ヲ設クルノ權ハ法規ヲ設クルノ權ヨリモ一層制限セラル即チ明治二十三年勅令第二百八號ヲ以テ各省大臣ハ二十五圓以内ノ罰金若クハ二十五日以下ノ禁錮、地方長官ハ十圓以内ノ罰金若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得ルニ過キス又茲ニ注意スヘキ一事アリ警察罰ト刑法トノ關係如何ト云フコトナリ兩者等シク其大体ニ於テ差異ナシト雖モ只其趣意及適用ノ鋭敏ナルト否トニアリ警察罰ハ刑罰ト異ナリ法ノ秩序ヲ維持スル爲メ賠償ノ性質ヲ帶フルト他人ヲシテ代テ其制裁ヲ受ケシムルコトヲ得ヘキコト是レ其差異ナリ例ハ將ニ道路ニ向テ傾倒セシトスル家屋ノ修繕ヲ命シタルモ所有主ハ之ヲ等閑ニ付スルヨリ職工ニ之カ修復ヲ命シタリトセンニ職工ハ直接ニ制裁ヲ受ケタリト雖モ所有主ニ對シ手間賃ヲ仕拂ハシムルカ如キ是レ一ノ警察罰ニシテ賠償ノ性質ヲ帶フルモノトス

第二節 治安警察

行

治安警察ヲ行フニ方リテハ或ハ警察規則ヲ發シ或ハ警察處分ヲ行ヒ以テ其目的ヲ達スルモノトス警察ナルモノハ治安警察ノ範圍ニ於テ行ハル、モノニシテ警察命令ヲ發スルノ權力ハ殆ント總テノ行政官ノ享有スル所ニシテ或ハ勅令ヲ以テシ或ハ閣令省令ヲ以テ發セラル加之府縣以下ノ自治團體モ又之ヲ發スルノ權アリトス

政

警察命令ヲ發スルノ權力ハ法律若クハ勅令ヲ以テ之ヲ許スノ二場合アリ法律ノ與權ニ出ル場合ハ又二種ノ區別アリ(一)法律カ特ニ許ストキ(二)法律カ禁セサルトキ是レナリ而シテ規則ヲ設クルコトハ法律ノ禁セサル範圍ニ及フト雖モ罰則ヲ設クルコトハ法律ノ許シタル場合ニ限ルモノトス而シテ又警察規則ト警察罰トノ區別ヲ明カニスルヲ要ス規則ハ單ニ或ル事ヲ命シ又ハ禁スルニ止マルト雖モ罰則ハ反則者ヲ處罰スルヲ云フ

法

警察罰トハ何ソヤトノ問題ハ刑法學者ノ間ニ議論多キ所ニシテ所謂刑罰ト警察罰トハ果シテ如何ナル點ニ於テ差異アリヤトノ疑問ニ對シテハ一、刑法ノ明文以外ニ於テ警察命令ニ依テ罰スルモノ即チ警察罰ナリトシ二、此差異ヲ論スルニハ其本源ニ遡ホリ研究スルノ必要アリトシ我國及近世諸國ノ刑罰法ハ專ラ人ノ罪惡ヲ問フノ主旨ニ依リ成立シ社會ノ秩序ヲ維持スルハ寧ロ之レカ從ナリトノ精神ヲ以テ制定シアルハ爭フヘカラサルノ事實ナリト雖モ警察罰ノ趣旨トスル所ハ犯者ヲ懲戒スルヨリモ法ノ

秩序ヲ維持スルノ精神ニ出テ恰モ社會カ治安ヲ害セラレタル損害ヲ賠償セシムルノ外觀アリ此點カ即チ兩者ノ區別ナリトス

治安警察ノ主要ナル事項ハ人ノ自由ヲ制限スルニアリ住居旅行ノ自由、集會結社ノ自由、言論ノ自由ヲ制限スル等一々枚擧スヘカラスト雖モ要スルニ人ノ自由ヲ直接ニ制限スル事柄ニ依テ之ヲ區別スルコトヲ得ヘキナリ

歐洲ニ於テハ治安警察ヲ分テ高等警察及尋常警察ノ二トス我國現行ノ官制ニ於テモ行政警察、高等警察ナル名稱ヲ用ヒタルニ依テ見ルモ亦此區別ヲ認了セルコト疑フヘキニアラス故ニ此區別ニ依據シ一定ノ説明ヲ下サ、ルヲ得サルナリ

治安警察ナルモノハ人ノ自由ヲ制限シ以テ法ノ秩序ヲ維持スル行政行爲ノ謂ナルコトハ前既ニ之ヲ説明シタリ然レトモ其之ヲ行フ所ノ目的ニ至テハ二様ノ區別ヲナスコトヲ得ヘシ即チ高等治安警察、普通治安警察是レナリ高等治安警察トハ國家ノ安寧秩序ヲ維持センカ爲メ行フ行爲ニシテ普通治安警察トハ一個人ノ安寧ヲ保持スルヲ以テ目的トス例ヘハ保安條例ノ如キ、集會政社法ノ如キ爆發物取締罰則ノ如キハ是レ皆高等治安警察ニ屬スル顯著ナル法規ニシテ新聞紙條例ノ如キモ一方ニ於テハ尋常營業警察ニ關スルモノナリト雖モ其法規中亦高等治安警察ノ範圍ニ屬スヘキモノアルヲ見ル

行

尋常治安警察ハ専ラ一個人ノ安寧ニ關スルモノナリト雖モ敢テ各個人ノ孤立シタル生活ヨリ觀察ヲ下シタルモノニアラスシテ専ラ社會ノ共同生活ヲ目的トスルモノナリ例ヘハ衛生取締ノ如キ往來交通ニ關スル警察ノ如キ又營業警察ノ如キ皆是レ或意義ニ於テハ公ノ治安ノ爲メニ實行セラル、モノナリト雖モ而カモ之ヲ前述セル警察ト區別シ普通治安警察ニ關スルモノトシテ論スルハ實際上甚タ肝要ナリトス

第四節 非常警察

政 法

非常警察トハ普通ノ治安警察以外ニ於テ一般ニ法律ノ効用ヲ停止スルノ効力アル非常處分ヲ云フ而シテ其顯著ナルモノハ憲法上ノ戒嚴是レナリ戒嚴トハ戰時ニ於テ防禦又ハ攻撃ノ爲メニ或地方ニ限り特ニ普通ノ行政警察權ヲ停止シ軍事警察處分ニ委任スルヲ云フ戒嚴ノコトハ姑ラク憲法ノ編ニ讓リ平時ニ於ケル非常警察ヲ説明センニ平時ノ非常警察處分ヲ又之ヲ小戒嚴ト云フ而シテ非常警察權ヲ用ユルハ國家ノ治安ヲ維持スル爲メ之ヲ紊亂スル分子ヲ普通法律以外ノ非常處分ニ付スルヲ云フ例ヘハ保安條例ヲ施行スルカ如キ又ハ近時發布セラレタル議員ノ撰舉ニ運動スル者ニ關スル緊急勅令ノ如キ即チ是レナリ而シテ小戒嚴トシテ非常警察處分ニ付スヘキ場合ハ概テ左ノ如シ

第一、集會政社ノ自由ヲ法規以外ニ特別ニ制限スルコト

第二、出版物ノ領布ヲ制限スルコト

第三、治安ニ妨害アリト認メラル、人民ヲ一定ノ地方ヨリ退去セシメ居住ノ自由ヲ制限スルコト

第四、武器若クハ危險ナル器物ヲ貯藏シ又ハ販賣携帶ヲ制限スルコト

戒嚴ノ形式ハ大戒嚴即チ憲法上ノ大權ニ基ケル戒嚴ハ單ニ平時ニ於テ實行ヲ停止セラレタル法律(戒嚴令)ノ施行ヲ命スルニアルヲ以テ戒嚴ノ効力及要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ラサルヘカラスト雖モ小戒嚴即チ非常警察權ノ發生ハ多クハ緊急ノ必要ニ依リ命令ヲ以テ發布セラル、ヲ例トセリ

第五節 土地所有權ニ對スル行政

我國現行ノ制度ニ於ケル土地所有權ニ對スル行政ノ主モナルモノハ土地收用法是レナリ故ニ土地收用法ノ大意ヲ解説シテ本章ノ說明ニ代ヘントス

帝國憲法(第二十七條)ニ於テ臣民ノ所有權ハ決シテ侵犯スヘカラスアルヲ以テ原則トシ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ專ラ法律ニ依ルモノトス故ニ臣民ノ所有ニ係ル土地ヲ收用セシムルハ必ス法律ノ規定ヲ要シ單ニ政府ノ命令ニ依テ之ヲ實行スルコトヲ得ヘカラス、故ニ行政官ハ管ニ其法律ヲ解釋シテ之ヲ適用スルニ止マルモノナリ要スルニ此行政處分タルヤ法律ノ禁セサル場合ニ於テ之ヲ實行スルノ權アルニアラスシテ只法律カ明文ヲ以テ許容シタル場合ニ於テノミ之ヲ適用スルコトヲ得ルニ過キサルナリ

行

政

法

土地收用ノ處分タルヤ敢テ所有權自体ヲ沒收スルヲ以テ其目的トスルモノニアラス行政上ニ於テ公共ノ利益ノ爲メ工事ニ供スルヲ以テ主眼トナス而シテ土地所有者ニ對シ法律ノ規定ニ從ヒ其收用スヘキ土地ニ對スル賠償金ヲ付與スルノ性質ヲ有ス故ニ後日公共ノ目的ヲ達シテ其土地不用ニ屬スルトキハ再ヒ之ヲ原所有主ニ原價ヲ以テ買戻スコトヲ得セシム或ハ土地ノ收用ヲ強制賣買ナリト説明スル學者アリ此說現今盛ニ行ハル、所ナリト雖モ是レ亦誤認ノ見解タルヲ免レサルナリ元來賣買ト云ヘハ双方平等ナル資格者ノ間ニ合意ニ依リテ成立スル一ノ權利行爲ニシテ不平等ナル權力關係者ノ間ニ賣買ナル思想ノアルヘキ害ナシ況ンヤ土地所有權ノ如キ國家ト人民トノ間ニ強制的性質ヲ有スルモノニ對シ民法上ノ強制賣買ト云フカ如キ曖昧ナル名稱ヲ付スルハ全然其性質ニ於テ誤解タルヲ免レサルナリ故ニ吾人ハ土地收用ヲ論スルニ當テ讀者ノ注意ヲ請フヘキハ彼一般ニ所有權ナル思想ハ專ラ民法上ノ觀念ニシテ民法上ニ於テハ所有者ハ國家ニ對シ何等ノ權利ヲ有セサルヲ以テ原則トス然レモ法律若クハ命令ノ認許ニ依テ以テ之ヲ主張シ得ルニ過キサルコトヲ、故ニ所有權ハ關係的ノモノニシテ絶對的ノモノニアラス依是觀之ハ國家ハ何時ニテモ人民ノ所有權ヲ奪却スルノ權力アルヲ本則トス然レトモ無限ニ此權力ヲ使用スルハ公安ニ害アルヲ以テ賠償ナル特別ノ處分ヲ行フモノトス故ニ一個人ニ於テ其賠償金ニ不服アルモ決シテ故障スルコトヲ得ス現行法ノ土地收用ハ單ニ國家自ラノ起業ニ係ルモノノミ

ト云ハス假令一個人ノ事業ト雖モ公共ノ利益ノ爲メニ供セラル、起業ニハ凡テ本法律ヲ適用セラル、モノトス然レトモ此場合ニ於テハ國家カ一個人ノ事業ヲ公益事業ト認メタル結果、本法律ヲ適用スルモノニシテ土地所有者ト起業者タル一個人トハ直接何等ノ關係アラサルナリ其詳細ナル細目ニ至テハ土地收用法ニ就テ研究スルコトヲ要ス

第六節 人事負擔

茲ニ所謂人事負擔トハ國家カ人民ノ動産及勞力ニ對シテ一定ノ負擔ヲ命スルコトヲ云フ

行政上ノ人事負擔ハ不動産ニ對スルヨリ一層嚴格ナル制限ヲ受ク換言スレハ人事負擔ハ憲法上ニ於ケル租税ニ關スル條項及行政法中ニ徵收ノ場合ヲ規定セル各種ノ法令並自治制ノ規定ニ依リ各自治體ニ於テ住民ニ夫役現品ヲ負擔セシムルコトヲ得ル等ノ明文アル場合ニノミ限ラル、モノナリ故ニ國家カ是等ノ法令ノ執行ニ基カスシテ人ノ勞力若クハ動産ヲ必要トスルトキハ民法上ノ契約ニ依テ之ヲ收得スルノ外命令權ヲ以テ之ヲ強行スルコトヲ得サルナリ以下勞力徵收ト動産徵收ノ場合ヲ各別ニ説明セシム

第一、勞力徵收トハ臣民ノ法律上ノ義務ニシテ其尤モ顯著ナルモノヲ兵役ノ義務トス兵役トハ一定ノ資格ヲ有スル者、一定ノ期限間全體ノ勞力ヲ國家ノ用ニ供スル所ノ負擔ヲ云フ然レトモ又全體ノ勞力

行

政

法

ヲ要セサルモ或ル場合ニ當リ或事柄ヲ行フヘキ義務アルコトアリ例ヘハ彼ノ市町村制ノ夫役或ハ選舉其他自治體ノ職務ヲ負擔スヘキ義務及證人トシテ裁判所ニ出廷スヘキ義務ノ如キ即チ法律上ノ人事負擔ナリトス(證人トナル義務ハ之ヲ刑法ニ於テ一ノ權利ト認メラレアリト雖モ并ハ觀察點ヲ異ニシタルニ過キスシテ個人ヨリ見レハ權利ナルカ如シト雖モ客觀的義務ニ屬ス)即チ法律カ一般均一ノ目的ヲ以テ一定ノ標準ニ依リ或程度ニ於テ其勞力ヲ強要スルカ故ニ之ヲ法律上ノ義務ト稱スルナリ然レトモ臣民ノ服從義務ト混同セサルヲ要ス即チ人事負擔ハ一定ノ程度標準ニ依ルト雖モ臣民ハ絕對無限ニ服從スル義務ヲ有ス彼ノ水火震災ノ際警察官カ人民ニ勞力ヲ供スヘキコトヲ命令シ得ル權利ノ如キハ平等均一ノ負擔ト云フヘカラスト雖モ茲ニ所謂法律上ノ人事負擔ノ一種ト看做スコトヲ得ヘキナリ凡テ人事負擔ハ賠償セサルヲ以テ原則トス然シ法律ニ於テ多少ノ賠償ヲ認メタル場合ハ例外ナリトス

第二、動産徵收ノ尤モ著シキ例ハ即チ租税ナリトス其他軍事又ハ行政ノ目的ノ爲メニ物件ヲ徵發スルカ如キ類ニシテ之ヲ定解スレハ國家ノ用ニ供スル爲メ人民ノ資産ノ一部分ヲ徵收スルヲ云フ乍併公共ノ利益トナルヘキ物件ノ自由處分ヲ制限スルカ如キ是レ又一種ノ人事負擔ニ屬ス例ハ戰時ニ際シ徵發令ニ依リ軍用ノ物件ヲ徵收スルカ如キ或ハ水源涵養ノ爲メ森林ノ濫伐ヲ禁スルカ如キ即チ是レナリ徵

發物件ニ就テハ法律之ニ賠償ヲ付與スト雖モ是レハ人事負擔ノ例外ニシテ賠償ハ敢テ徵發ノ結果ニアラスシテ純然タル獨立ノ行爲ナルコト土地收用ノ場合ニ於ケルト同一理由ニシテ徵發ナル行爲ハ或ル物件ヲ取上クルヲ以テ完了ヲ告クルモノトス要スルニ人事負擔ハ只國家ノ單獨意志ヲ以テ其行爲ヲ完了シ若シ之ニ應セサルトキハ強制執行ノ手續方法ニ依ルコトヲ得ヘキナリ

第七節 營業法

營業ニ關スル行政ハ內務行政ノ範圍内ニ於テ最も重要ノ部分ヲ占ムル所ナリト雖モ我國現行法ハ未ダ充分ニ備ハラシテ單行ノ法律若クハ勅令ノ形式ヲ以テ一定ノ標準ヲ規定シタルニ過キス故ニ茲ニ大体ニ付テ營業法ノ原則ヲ説明スルニ止メントス

營業トハ營利ノ目的ヲ以テ貨物ヲ生産分配シ若クハ智識勞力ヲ供給スルヲ以テ生計ノ業トスルヲ云フ故ニ營業ニハ左ノ二個ノ條件ヲ具備スルヲ要ス(一)利益ヲ收得スルヲ目的トスルコト(二)生計ノ爲メニスルト云フ一定ノ觀念アルコトヲ要ス、此定義ハ廣キ意味ニ於ケル營業ノ解釋ナリト雖モ我國及ヒ歐洲ニ於テハ特別ノ智識ヲ要スル醫師、辨護士、教師其他一般美術ニ關スル高尙ナル營業ニ就テハ特別法ニテ規定シアルヲ以テ之ヲ區別シテ論スルヲ便利ナリトス

我國ハ歐洲諸國ト同シク營業ノ自由ヲ認ム茲ニ所謂營業ノ自由トハ人民ハ總テ營業ヲ爲スノ能力ヲ同

行

政

法

等ニ享有ストノ原則ヲ云フ乍併公益ノ爲メ之ヲ制限スルハ實ニ其變例タリ而シテ行政法上營業ヲ制限スル形式ハ概テ左ノ如シ

第一、營業者ノ資格ニ關スル制限

第二、營業ノ場所ニ關スル制限

第三、營業ノ種類ニ就テノ制限

第一、營業者ノ資格ニ關スル制限ハ或ル種ノ營業ヲ行フニ就テノ一定ノ資格ヲ具備スルコトヲ要スト規定スルヲ云フ例ヘハ火藥商ヲ爲サンニハ丁年以上ノ男子タラサルヘカサルコト及藥舖ヲ開カントスルニハ一定ノ資格ヲ有スル證明書ヲ要スト云フカ如キ一個人ノ權能ヲ奪フニアラスシテ公益ノ爲メ單ニ資格ニ就テノ制限ヲ設クルヲ云フ

第二、營業ノ場所ニ關スル制限ハ交通ノ爲メ又ハ風俗取締ノ爲メ其營業ヲ制限スルニアリ例ヘハ公道ニ露店ヲ開キ又ハ遊廓地ヲ一定ノ場所ニ限定スルカ如キ其他製造所ノ建築及火災ノ危険ヲ豫防センカ爲メ或ハ營業ニ就キ家屋ノ構造ヲ制限スルカ如キハ皆場所ニ關スル制限ト看做サルヘカラス

第三、營業ノ種類ニ就テノ制限ハ營業其モノニ對スル制限ニシテ例ヘハ料理屋、待合茶屋ヲ開カントスルニハ警察ノ認可ヲ要スルカ如キ又ハ古物商ニハ古物商取締條例ニ依リ特別ノ免許ヲ要スルカ如キ

行

政

法

其他營業時間及方法ノ制限ノ如キ又此種ニ屬スルモノトス

又營業ハ警察ノ目的上ヨリ(1)一定ノ場所ニ於ケル營業ト(2)行商ト(3)公開ノ場所ニ於テスル營業ノ三個ニ區別スルコトヲ要ス、第一ノ營業ニ就テハ最も多ク營業自由ノ範圍ヲ與ヘ第二、第三ノ場合ニ於テハ特別ノ認可ヲ經ルヲ要ス換言スレハ第一ノ場合ニ於テハ營業ノ自由ヲ認メ第二、第三ニ屬スル營業ハ公益ノ爲メ寧ロ禁止ヲ原則トシ特別ノ人ニ免許ヲ與フル形式ナリ故ニ第一ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起シ得ルモ第二、第三ノ場合ニ於ケル制限ニ對シテハ警察ノ目的ノ爲メ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ

第八節 營業組合ノ種類及ヒ同業組合

營業組合トハ營業上ノ取締及營業保護ノ爲メニ多人數共同シ組合体トシテ營業スルモノニ對シ監督若クハ獎勵ヲ行フ團體ノ形式アルナリ、而シテ營業組合ハ一個人カ單獨ニ營業スル場合トハ大ニ其ノ狀況ヲ異ニスルカ故ニ一個人ニ對スル營業自由制限ノ外特ニ法律カ組合体ノ營業ニ付テ干涉ヲ爲スコト多シ

營業組合ハ之ヲ大別シテ公法上ノ組合ト私法上ノ組合トノ二種類トナスコトヲ得ヘシ公法上ノ組合ニハ數人相互ニ團結シテ其利益ヲ計畫スル點ニ於テハ私法上ノ組合ト異ナルコトナシト雖モ其目的ヲ

行政法

達スルコトハ一ニ組合カ國家ニ對スル法律上ノ義務アルモノヲ云フ假令ハ水利土功組合及各種ノ營業組合ノ如キ是レナリ

私法上ノ組合トハ法律ノ範圍内ニ於テ組合員ノ利益ノ爲メ公共スル組合体ヲ云フ例ヘハ民事及商事會社ノ如キ皆此種ニ屬ス私法上ノ組合ハ民法商法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ之ヲ省キ茲ニハ單ニ行政法上ニ於ケル公ノ組合ヲ左ノ二種トナスコトヲ得

第一 同業組合 同一營業者カ共同組合ヲ組織スルヲ云フ各種ノ營業組合等之ニ屬ス

第二 營利組合 營業ノ異同ヲ問ハス各人互ニ共同ノ利益ヲ享有スル點ヨリ相輔翼シ其目的ヲ全フセシカ爲メニ共同組合ヲ組織スルヲ云フ勞動者保護組合、火災保險ノ目的ノ爲ニ各種ノ公ノ營利組合体ヲ云フ

第一ノ同業組合ニ付テハ公益上ヨリ政府自ラ其規則ノ標準ヲ示シ監督ヲ行ヒ組合モ亦自ラ政府監督ノ下ニ定款ヲ設クルコトヲ得レモ第二ノ營利組合ニ付テハ我國未タ發達ノ機運ニ至ラス故ニ茲ニ其説明ヲ省クヘシ

第三章 財務行政

第一節 總說

行

財務行政トハ國家カ自己ノ歲入ヲ得、歲出ヲ行フ所ノ行政ノ事務ヲ總稱シタルモノナリ然レトモ國家ノ歲入歲出上ノ事ハ憲法ニ於テ論スヘキコト多キヲ以テ本法ニ於テハ財政ニ關スル行政事務ニ止マリ全体ノ事ニ論及スル能ハサルハ勿論現行ノ官制ニ於ケル大藏大臣ノ職權ハ單ニ便宜上ニ出テタルモノナルヲ以テ必スシモ官制ニ拘泥セス讀者須ラク注意スヘキコトナリトス

國家カ歲入ヲ得ルノ方法ハ凡テ法律ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得即チ一個人カ爲シ能フ手段ニ於テ及ヒ一個人カ爲シ能ハサル行爲ニ於テ法律ノ結果ニ依リ其歲入ヲ收ムルコトヲ得即チ其方法左ノ如シ

第一、國家ハ一個人ノ如ク財產ヲ有シ又其財產ヨリシテ民法上ノ規定ニ依リ當然生スヘキ收入ヲ得ルコト、但シ官有林ヲ所有シ及之ヨリ生スル果實ヲ收取スルコト等是レナリ

第二、國家ハ一個人ノ如ク營業的ノ行爲ヲナスコト例ヘハ鐵道鑛山ヲ所有シ又外國貿易ヲナスカ如キ營利的ノ事ニ從事スルヲ云フ

第三、國家ハ公法上ノ規定ヲ以テ手数料ヲ徵收シ又ハ特許權版權ヲ付與スルニ當テ一定ノ金額ヲ收メ歲入ニ供スルコトヲ得ト即チ葉烟草專賣法郵便條例ニ依リ收入スル等公法上ノ手数料トシ國家ノ歲入トス

法

政

行

政

法

第四、國家ハ法律命令ノ結果ニ依リ國庫ニ雜收入トシテ收納スル罰金沒收及無主物ヲ其有ニ歸スルカ如キ或ハ官有物賣却代價ヲ收得ス

第五、國家ハ租稅ヲ賦課シテ一個人ノ資産ノ幾分ヲ徵收スルコトヲ得即チ地租其大部分ヲ占ム

國家ノ歲出トハ國家カ總テノ政務ヲ行フニ當リ不可避必要ノ費用ヲ云フ而シテ歲出ヲ分テ經常臨時ノ二部トナシ又ハ法律ノ既定歲出ト便宜歲出トニ分類スルコトヲ得ルト雖モ开ハ財政學ノ範圍ナルヲ以テ之ヲ評論セサルヘシ

國庫カ歲出ヲ支出スルニハ民法上ノ名義ニ於テスルコト其大部分ヲ占ムト雖モ其債務ニ對シ民法上ノ責任ヲ有スルモノニアラス公法上ノ責任アルニ過キス故ニ一個人カ裁判ニ訴ヘテ請求スル權ナキ場合ニ於テモ國庫ハ絶對的ノ義務ヲ有スルカ如シ

第二節 租稅

租稅ノ定義ニ就テハ從來種々ノ學說アリ或ハ租稅ヲ以テ政府カ盡ス所ノ職務ニ對シ人民ヨリ支拂フ所ノ代價ナリ(ルワイヤ氏ノ說)ト云ヒ或ハ甚タシキハ公安維持ノ請負料又ハ保險料ヲ以テ目スルモノ(モンテスキュー氏ノ如キ)等之レナリト雖モ皆正鵠ヲ得タルモノニアラサルナリ、然レトモ昨今ニ至リ租稅ノ定義ヲ一定セルカ如シ曰ク租稅トハ國家カ政務ノ費用ニ充テソカ爲メ強行シテ一個人ノ資産

ノ一部分ヲ徵收スルヲ云フト依是觀之ハ租稅ハ民法上ノ承諾ニ出ツルニアラス全然民法上ノ名義ニ因ルモノニアラス臣民ノ自由意思ニ拘ハラス權力ヲ以テ強制的ニ取立ルコトヲ云フ又人ノ財産ノ一部分ヲラサルヘカラス即チ無主物ノ徵收又ハ公用徵收ノ如キハ租稅ト云フヘカラサルナリ戰時ニ於ケル徵發ハ外觀租稅ニ酷似スレトモ決シテ同一ノモノニアラス何トナレハ租稅ハ一定ノ負擔ヲ均一ニ徵收スルト雖モ徵發ハ特定ノ人ニ對シ特定ノ物件ノ強制徵發ヲ爲スナリ又租稅ニハ絕對ニ賠償ヲナスコトナシ

帝國憲法ハ日本臣民ハ法律ノ所定ニ從ヒ納稅ノ義務アリト云ヒ租稅ハ法律ニ依テ之ヲ徵收スヘキコトヲ定メタリ故ニ租稅ハ必ス法律ノ規定ヲ待テ始メテ納稅ノ義務ヲ生スルナリ從テ行政官ハ法律ニ依ルニアラサレハ租稅ヲ徵收スルノ權ナキコトヲ宣明シタルナリ現ニ正數外ノ租稅徵收ハ刑法上ノ刑罰トセルカ如シ

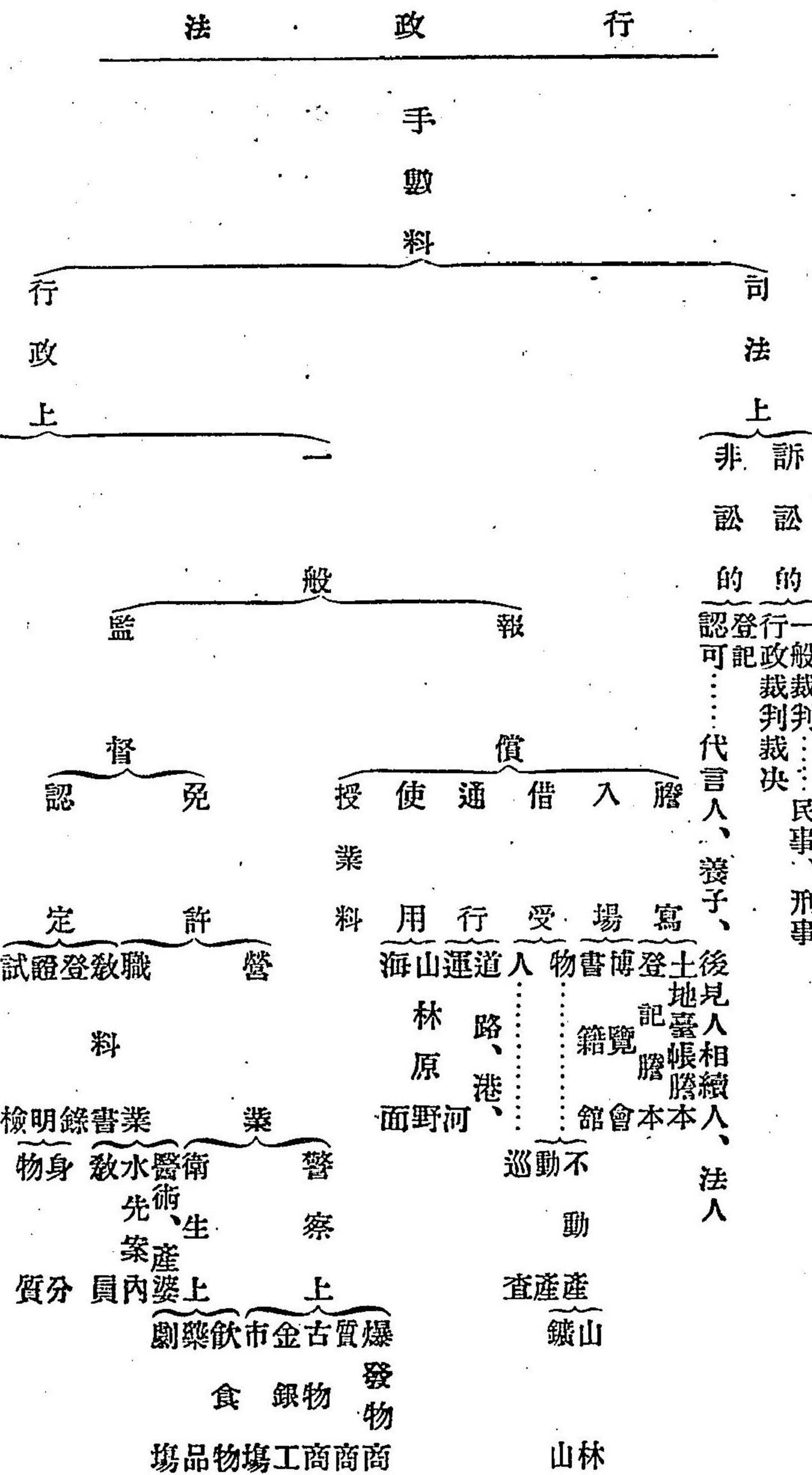
租稅ノ種類ヲ分テ直接租稅間接租稅トシ又國稅地方稅トニ區別シ直接稅トハ地租所得稅ヲ云フト勅令ヲ以テ指定セリト雖モ是レ嚴格ナル法理ノ解釋ニアラスシテ便宜上ノ規定ニ過キス國稅地方稅ノ區別ハ之ヲ賦課スル方法及收納場所ノ相異ナルニ依ル而シテ又人民カ租稅賦課ニ關シ不服ヲ訴フルニハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘシ

第二節 手數料(特許料)

手數料トハ租稅ニ次ク國庫ノ收入ニシテ一般ニ或ル營業ヲ禁止シテ特定ノ人ニ對シテ之ヲ許シ而シテ之カ報償トシテ特許金ヲ國庫ニ徵收スルヲ云フ

手數料トハ租稅ニ次ク所ノ國庫ノ收入ニシテ法令ノ結果ニ依リ人民ノ自由意思ヲ以テ使用ニ對シ又ハ營業ノ特許又ハ專賣ノ報償トシテ國庫ニ徵收スルヲ云フ例ヘハ諸般ノ登記料、專賣特許料等ノ類是レナリ

添田文學士カ手數料ヲ圖ヲ以テ解釋シタルモノ左ノ如シ



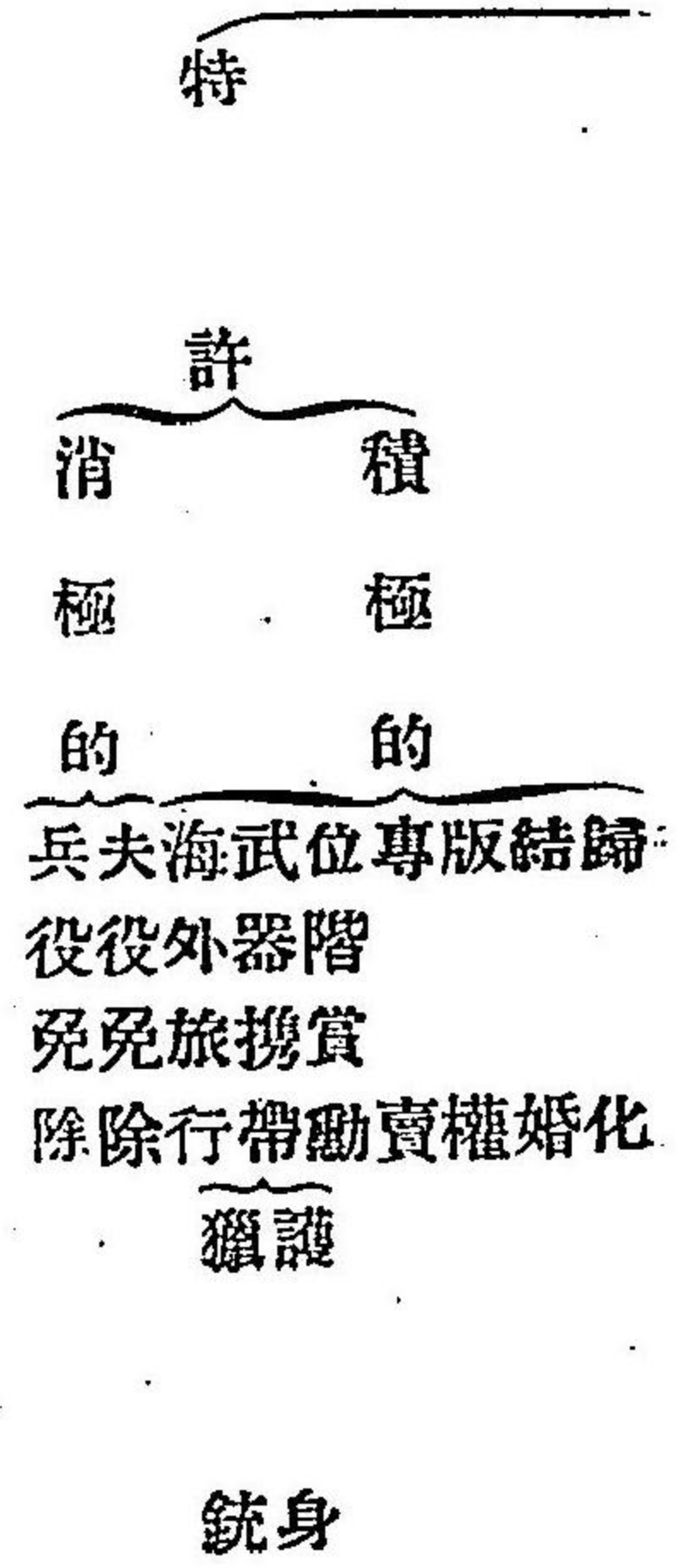
法 政 行

手数料ハ法令ノ結果ニ依ルモノナレハ租稅ト同シク強制徵收ヲ爲スコトヲ得ルモノトス又手数料ニ對シテモ亦訴願及ヒ行政訴訟ノ道アリト知ルベシ

第四節 國庫ノ會計

抑モ國家財政ノ要タルヤ歲入歲出ノ平均ヲ測定スルニアリ故ニ會計法ノ設ケアリテ先ツ豫算ヲ以テ之ヲ始メ收入支出ニ依テ之ヲ執行シ決算ヲ以テ之ヲ終ルモノトス而シテ此三個ノ順序タル會計法ノ規定スル所ナルヲ以テ法理上ヨリ茲ニ豫算、決算、檢査ノコトヲ説明スヘシ

豫算ノ性質如何ニ付テハ公法家ノ間ニ種々ノ議論アリト雖モ從來本邦ニ於テハ豫算ヲ以テ財務監督ノ一方便ニ過キストセルハ既ニ動スヘカラサル原則ナリトス故ニ我國ノ豫算ハ之ヲ以テ納稅ノ義務ヲ規定シタルモノニアラサルナリ(憲法第二十一條、第六十四條參看)即チ之ヲ約言スレハ豫算ハ法律ナリ



ヤ否トノ議論ニ付法律ニアラストノ決定ヲ與ヘタルモノナリトス

歐洲ノ立憲政体ノ國々ニ於テ豫算ノ性質ヲ論スル説ニ三種アリ即チ左ノ如シ

第一 豫算ハ獨立ノ法律ナリト此説ハ佛蘭西、白耳義ノ憲法學者ノ多ク主張スル所ニシテ獨逸ノ大家中ニモ此論ヲ爲スモノ多シ而シテ其論據ニ二個ノ區別アリ即チ一ハ歴史的ノ理由ニ依リ之ヲ法律トシ一ハ憲法ノ明文ニ依リ之ヲ法律ナリト解釋スルモノナリ例ヘハ歐州大陸ノ憲法ハ豫算ハ法律ヲ以テ定ムヘシトアルヲ解釋シテ豫算ヲ法律ナリト云フニ至ル帝國憲法ハ單ニ國家ノ歲入歲出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシトノミアリテ其法律タリト明言セサルノミナラス又別ニ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スル規定アリ兩者等シク同一ノ形式ヲ要ストモ實質ニ至テハ其間ニ大ナル差異アルヲ見ル即チ法律ハ公布ニ依テ人民一般ニ遵由ノ効力ヲ生スト雖モ豫算ハ獨リ行政府トノ間ニ服從ノ義務アルニ過キサレナリ

第二 豫算ハ臣民ニ對シテ權利義務ノ標準トナルモノニアラスト雖モ政府ト國會ノ間ニ於テハ法律タルノ効力アリト然レトモ此説タル國會ノ豫算議定權ヲ以テ國會カ政府ニ向テ全權ヲ附與スルモノナリトノ形式ノ如ク見做スト雖モ抑モ政府國會ハ共ニ國家統治ノ機關タルコト勿論ナルヲ以テ豫算ヲ以テ行政府官ノ最高法規ナリトスルハ誤認ノ見解タルヲ免レサルナリ

行 政 法

第三 豫算ハ單ニ會計監督ノ一便法ナリト此説タルヤ豫算ハ決算ト相對シテ國家カ自己ノ會計ヲ爲ス内部ノ規定ヲ構成シ臣民ニ對シテハ勿論行政府官ニ對シテモ亦法律ニ均シキ効力ナシト云フニアリ以上ノ三說中第三說尤モ現行法ノ精神ニ適ヒ且法理ニ合スルヲ信ス以下此主意ヲ以テ豫算ノ收支ヲ説明スヘシ

國庫ニ對シテハ豫算ハ即チ未來ノ事ヲ豫想スルモノニシテ是ニ依テ歲入ヲ得ルノ原因ニアラサルコト明カナリ例ヘハ地租ハ地租條例ニ依リ手數料ハ各其法令ニ依リ臣民ニ義務ヲ生スルモノニシテ歲入豫算ハ歲入額ノ標準トナスニ過キサレハナリ

歲出豫算ハ行政府官ニ對スル歲出ノ標準ト云フ即チ會計決算ノ豫計ナリトス換言セハ歲出豫算ハ會計檢査ノ準備ナリト云フヘシ而シテ法律ヲ執行シ其他行政事務ヲ行フ爲メ爲ス所ノ金錢出納ハ一般ノ民法法理ニ依ルモノニシテ外部ニ對シテハ豫算ノ有無ヲ以テ直ニ金錢出納ノ適否ヲ論スルコトヲ得サルハ勿論ナリ然ラハ豫算中款項ノ科目ニ付キ國會ノ議決ヲ必要トスルヤト云フニ各行政官ノ職權ノ範圍及金額ノ標準ヲ示シ會計監督ノ精密嚴格ヲ期スルノ主意ニ外ナラス

豫算ノ効力ハ國庫金ヲ取扱フ官吏ノ責任ヲ解除スルノ一便法タルナリ蓋シ官吏カ國庫金取扱ニ際シ過失又ハ不正アルトキハ必ス其責ニ任セサルヘカラサルハ勿論金錢支拂ノ正否ニ付ラハ現行ノ會計法規

ニ依リ會計検査院ノ判定ヲ要ス

又豫算ハ絶對的ニ歳出ノ制限ヲ爲スモノトノ解釋ハ誤謬ノ見解タリ國家ハ決シテ豫算ノ有無ヲ以テ其債務ヲ拒ムコトヲ得サルノミナラス臨時必須ノ需給ニ應セシムル爲メ帝國憲法ニ於テ豫備費ノ目ヲ設ケ及ヒ豫算外ノ支出ヲ認ムルノ條文アリ而シテ豫算外ノ支出ニ付テハ後日帝國議會ノ承諾ヲ要スト云フト雖モ此承諾ノ有無ハ既往ノ支出ヲ取消スヘキ効力ナキヲ以テ承諾セサレハ逆支出ノ有効無効ニ何等ノ關係ナシ唯會計検査法ニ對スル内部ノ問題タルニ過キササルナリ右ノ外國會ノ豫算議定權、先議權ニ付問題アレトモ憲法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ之ヲ論セス

第五節 豫算ノ不成立

豫算ハ法理上歳入歳出ノ基礎トナルヘキモノニアラサルハ前節ニ於テ之ヲ説明シタリ然レトモ豫算ハ國家ノ行政上ノ要件ニシテ金錢ノ收支ニ付行政官ニ示シタル標準タルコトハ亦之ヲ説明シタリト信ス故ニ茲ニ豫算ノ成立セサル場合ニ於ケル法規ヲ論究シ以テ國家ノ會計ハ如何ナル結果ヲ生スルカタ述ヘン豫算ノ不成立ニ付テハ左ノ三種ノ學說アリ

第一、豫算ハ法律ナリトノ解釋ノ結果トシテ豫算成立セサレハ凡テ租稅ヲ徵收スルコト能ハス又必要ナル歳出ヲモ爲スコト能ハスト主張スルニアリ

行

政

法

第二、豫算ノ不成立ハ即チ法律ノ缺點ナルヲ以テ政務問題トシテハ格別法律ノ缺點ハ法律ヲ以テ補充スルコト能ハサルモノトシテ之カ解釋ヲ爲サザル者アリ

第三、豫算ハ法律ニアラス専ラ行政上ノ便宜ノ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ政府カ豫算ノ有無ニ關セズ歳出入ヲ執行セサルヘカラス唯行政官ノ責任及會計検査ノ手續ニ於テ多小其効力ヲ異ニスルニ過キスト云フニアリ

以上第一說ノ歳出ヲモ爲ス能ハスト云フノ議論ハ既ニ其前提ニ誤謬アルノミナラス到底法理上ノ理由ヲ發見スル能ハサルナリ

第二說ハ單ニ成文法律ニノミ拘泥スルノ誤謬ニシテ法律ニ明文ナキヲ以テ解釋ヲ避クルカ如キハ法律ノ不備缺點ヲ名トシテ法理外ノ問題ナリト云フニ均シ第三種ノ議論ハ我國法ノ解釋ニ至極妥當ヲ得タルモノアルヲ以テ専ラ此說ニ依リ解釋セントス帝國憲法ハ歐洲諸國ノ憲法ニ豫算不成立ノ場合ニ處スル明文ナキヨリ種々ノ立法辨ヲ爲シタルコトアルヨリ我國ニ於テハ此轍ニ鑑ミ憲法ニ於テ豫算ノ成立セサルトキハ前年度豫算ニ依ルヘキコトヲ規定セルヲ以テ憲法上ノ問題トシテハ殆ント疑問ヲ挾ムヘキ餘地ナキカ如シ然レトモ精密ニ之ヲ觀察スルニ茲ニ前年度ノ豫算ニ依ルトハ科目マテ悉ク前年ノ豫算ヲ踏襲セサルヘカラサルカ如シト雖モ毎年新ニ調製スル豫算ニ於テスラ往々豫算外ノ支出アルヲ認

メアルニ依テ見ルモ此場合ニ迄モ全然前年度ノ豫算ニ依ルト云フ簡單ノ解釋ノ外法理上ヨリ之カ解釋ヲ補ハサルヘカラス并ハ他ニアラス豫算ハ既ニ法律ニアラス而シテ國家ノ歲入歲出ハ特別ノ法律命令ニ依テ行フモノナルカ故ニ結局豫算ノ有無ニ拘ハラス自由ニ之カ支拂ヲ爲シ得ヘキコト素ヨリ論ヲ待ス故ニ只豫算不成立ノ年度ノ豫算外ノ支出ニ付テハ行政官ハ會計監督ノ機關即チ會計検査院及議會ニ對シ之ヲ證明スルヲ以テ足レリトス要之ニ豫算ノ不成立ハ敢テ國家ト外部トノ關係ニアラスシテ國家ノ機關相互ノ間ニ於テ監督權ノ執行方法ヲ異ニスルニ過キサルナリ

第六節 會計ノ監督

凡ソ國家ノ會計ハ豫算ヲ以テ開始シ決算ノ確定ヲ以テ終了スルモノトス是レ即チ豫算及決算ハ會計監督ノ一方法タリト云フ所以ナリ

國會ノ會計ニ對スル監督權ハ二様ノ形式ヲ以テ實行セラル、モノトス豫算ヲ議定シ及決算ヲ承認スルコト是レナリ即チ豫算ニ依テ行政官ニ會計上ノ自由範圍ヲ示シ豫算外ノ支出ニ就テハ議會ニ對シテ事情ノ承諾ヲ求ムルヲ必要トス我憲法ノ明文ニ依レハ豫算外ノ支出ニ供用スル爲メ豫備費ノ目ヲ設ク豫備費ヲ支出シタルトキ會計検査院ノ検査判定ヲ受クルノミナラス一而議會ニ對シテ事情ノ承諾ヲ求メサルヘカラス而シテ議會ノ承諾ヲ拒ムコトアルモ既往ニ遡リ支出ヲ取消スノ効アルニアラスシテ只

行政法

將來ニ向テ其効力ヲ失フニ過キサルコトハ法律ニ代ルヘキ緊急勅令ノ場合ト其實質ヲ同フスルモノトス會計検査院カ會計監督ノ方法ハ別テ之ヲ二種トス豫算ノ收支ハ總テ法律命令ニ依據シタル正當ノ經費ナルヤ否(一)計算上ニ過誤ナキヤ否(二)トス然レモ金錢支出ノ目的ニ付之カ利害ヲ調査シ又ハ其當不當ヲ論スルカ如キハ行政ノ監督ニ屬シ會計検査院ノ職權ノ範圍内ニアラサルモノトス而シテ又議會ノ決算報告ヲ議決スルニ當リテモ行政ノ目的及事項ニ付之ヲ可否スルヲ得ヘキニアラス議會ハ只其計算正確ナルコト及支出カ總テ法律上ノ要件ヲ具備セルヤ否ヲ認ムルニ過キサルモノトス要之ニ會計ノ監督ハ國家カ行政ヲ料理スル爲ニ要スル經費ノ出納ニ付行政官ノ行爲ヲ検査スルモノニシテ會計検査院並議會ハ會計ノ監督機關タリ既ニ三者等シク國家ノ機關タル以上ハ只國家ハ一方ニ其財産ノ管理ヲ委テ(政府ニ)他方ニ於テ之レカ監督ヲ命スルニ過キサルナリ

第七節 國債

國債トハ國家カ他ノ權利ノ主体ニ對シテ負擔スル所ノ債務ヲ云フ國債ニ二種アリ公法上ノ債務(國債)ト民法上ノ債務(私債)トス公債ト私債トノ區別ハ只其債務ヲ負擔スル手續ヲ異ニスルニ過キスシテ國家ノ債務ナル性質ニ至テハ兩者ノ間ニ區別アラサルナリ公債トハ特定メタル法律命令ニ依リ國家カ負擔スル債務ニシテ例ヘハ紙幣ヲ發行シ又ハ或ル起業ノ爲メ公債證書ヲ發行スルカ如キ類ヲ云フ私債

トハ國家カ豫算ニ依ル歳入出ノ不平均ヲ補ハシカ爲メニ負債ノ所ノ債務ニシテ例ヘハ外債ヲ募リ又ハ一
個人ニ私債ヲ負擔スルカ如キ此類ニ屬ス

以下觀察點ヲ異ニシ更ニ公債ノ種類ニ付キ説明スヘシ

公債ハ又之ヲ分テ行政的ノモノト財政的ノモノトノ二種トス行政的ノ公債ハ豫算ノ範圍内ニ於テ負債
所ノ債務ニシテ例ヘハ物品購入等ノ場合ニ於テ物品ノ供給ト代金支拂トノ間ニ若干時日間之ヲ負擔ス
ルカ如キ類ニシテ吾人ノ日常實際ニ目撃スル所ナリ財政的ノ公債トハ國家財政上ノ收支ヲシテ均衡ヲ
保タン爲メ各種ノ條例ニ依リ公債ヲ募集スルカ如キ普通ニ公債ト稱スルモノ多ク此類ニ屬ス
財政的ノ公債ヲ別テ左ノ三種ト爲スコトヲ得ヘシ

第一、固定公債 固定公債トハ一定ノ債券ヲ發行シ其利息ヲ拂フト雖モ元金償還期限ヲ定メス政府ノ
隨意ニ依リ償還スルノ外債權者ノ進ンテ返還ヲ請求スルヲ得サルモノヲ云フ

第二、移動公債 移動公債トハ一時ノ要用ニ充テシカ爲メ募集スルモノニシテ尙モ其要ヲ滿タシタル
以上ハ其元金ヲ償還スルモノヲ云フ

第三、紙幣 紙幣モ亦公債ノ一種ナリト雖モ利息ヲ拂ハス一私人ヨリ之レカ返還ヲ請求スルヲ得ス
テ其効用貨幣ト異ナルコトナシ例ヘハ不換紙幣ノ如キ是レナリ

行政法

現行法ノ規定ニ依レハ國債ヲ起サンニハ必ス議會ノ協賛ヲ要ス然レトモ此ニ國債ト云フハ專ラ豫算外
ニ於ケル財政的ノ公債ヲ指示スルコトヲ記憶スヘキナリ

第四章 司法行政

第一節 司法權

從來ノ公法家ハ國家ノ機關ヲ大別シテ立法司法行政ノ三種トシ司法ノコトハ之ヲ行政ノ範圍外トナシ
タリト雖モ近來公法學者ノ多數ハ此三權分立說ヲ批難シ司法ヲ以テ行政ノ一部分ナリト主張スルニ至
レリ故ニ吾人ハ茲ニ之ヲ行政法ノ一部トナシ司法行政ノ一斑ヲ説明セントス
司法ヲ別テ左ノ二様ニ解釋スルヲ要ス

一、裁判々決ヲ爲ス事柄ヲ總稱ス (裁判事務)

二、裁判所ノ職權ニ屬スル事柄ノ總稱トス(司法行政)

學者或ハ司法ヲ解釋シテ法律ヲ適用スル所爲ナリト云フト雖モ凡ソ法律ノ適用ハ獨リ裁判所ノ職權ニ
止マラスシテ普通ノ行政官トシテ法律ヲ適用セサルモノナシ故ニ此見解ハ正鵠ヲ得タルモノト云フヘ
カラス又爭訟事件ヲ決定スルヲ以テ司法ナラント云フモノアリト雖モ是レ亦妥當ナラス何トナレハ行
政訴訟ト云ヒ訴願ト云ヒ其他行政官カ人民ノ權利ノ訴ヲ決定スルコトヲモ司法ト謂ハサルヘカラサル

ニ至ルノ虞レアレハナリ、故ニ吾人ハ司法ヲ解釋シテ左ノ通り云ハント欲ス
司法トハ普通裁判所ノ權限ニ屬スル事柄ナリト

普通裁判所ノ權限ニ屬スル事務ヲ司法行政ト裁判事務ノ二者ニ分ツコトハ前ニ説明シタリ司法行政ト
ハ他ノ行政官府ト全シク裁判所ト名付ケラレタル國法ノ官府ノ組織及運轉ニ就テ行ハル行政行為ヲ
總稱スルモノニシテ司法大臣ノ管掌スル所ナリ憲法ノ所謂司法權ナルモノハ單ニ裁判事務ノ總稱ニシ
テ司法行政ヲ包含セシメタルモノニアラサルコトハ須ラク讀者ノ記憶スヘキコトナリトス

裁判事務ハ更ニ之ヲ分テ争訟事件、非訟事件ノ二トナスコトヲ得ヘシ争訟事件トハ私權ノ争ヲ裁判ス
ルヲ云ヒ非訟事件トハ私權ノ争ニアラサル行政的職務例ヘハ登記事務裁判執行手續ノ如キ元來行政官
ノ爲スヘキ事務ナレトモ法律ハ之ヲ裁判所ノ職務トセリ故ニ之ヲ争訟事件ニ對シ非訟事件ト云フ

世人動モスレハ裁判官ノ地位ノ獨立ナルヲ稱シテ司法權ノ獨立テウコトヲ主張スルモノアリト雖モ裁
判官ノ任免進退ハ他ノ行政官トハ同一ナラサル點ノミヲ以テ之ヲ云フニアラス法律ヲ以テ裁判官ノ地
位ヲ保證シタルヨリ然ラシムル所ニシテ即チ帝國憲法第五十七條ハ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ裁判所之
ヲ行フトアルカ如ク裁判事務ハ一ニ君主ノ名ニ於テ其權限ヲ行フモノナルヲ以テ各省大臣ノ監督ノ下
ニ於テ職權ヲ行フ他ノ行政官府ニ比シテ裁判官ノ獨立ナル所以ナリ之ヲ換言セハ裁判官ハ上官ノ指揮

行政法

行

政

法

監督ヲ俟タス法律ヲ以テ裁判々決ノ唯一ノ標準トナシ毫モ意志ノ拘束ヲ受ケサルヲ云フ

右ノ外各裁判所ノ構成、權限并ニ民刑訴訟手續ニ關スル事項ハ各其本法ニ就テ研究セラレシコトヲ望
ム

終リニ臨ンテ一言附加スヘキハ司法權發達ノ事蹟是レナリ元來一個人相互ノ關係ハ常ニ平等均一ニシ
テ他人ノ自由權利ヲ侵害スルコトヲ禁遏スルハ人生天賦ノ然ラシムル所ニシテ權利ノ争ハ必ス裁判所
ノ仲立ヲ要スルコトハ各國法律沿革ノ其期ヲ一ニスル所以ナリ而シテ國家ガ臣民ニ對シ絕對無限ノ權
力ヲ有ス故ニ國家ハ裁判所ナル機關ニ依テ個人間ノ争訟ヲ裁斷スルモノ即チ國家的ノ裁判制ナリトス

第五章 軍事行政

第一節 軍事行政法ノ要領

軍事行政トハ兵馬ノ權ヲ管掌スル行政官府ノ行為ニシテ他ノ一般行政ト其大体ニ於テ趣旨ヲ同フスト
雖モ監督權ノ分配ニ至テハ大ニ異ナル所アリ即チ廣義ニ於ケル軍事行政ハ兵馬ノ統帥權ト軍事行政ト
ノ二者ヲ包含スト雖モ之ヲ二者ニ分説セントス

兵馬統帥權ハ軍隊ノ編制及ヒ之ヲ統率スルノ權力ニシテ我帝國ニ在テハ天皇親ラ大元帥トシテ之ヲ掌
握セラレ其權力ヲ以テ上官下官ヲ通シテ此命令權ヲ行ハセラル又普通ノ軍事行政トハ軍備ヲ整ヘンカ

爲メ兵員ノ召集、召集事務及ヒ軍營ノ整備或ハ軍人一身上ノ關係ヲ管掌セシカ爲メ行ハル、所ノ行政事務ヲ總稱スルモノトス

行

帝國ノ軍隊ハ陸軍海軍ノ二者ヨリ編成セラレ亦其各軍ニ付種々ノ機關ニ分配セラレアリト雖モ法理上ニ於テハ毫モ區別アラサルヲ以テ茲ニ之ヲ細説セサルヘシ

政

軍隊組織カ他ノ行政組織ト同一ナラサル主要ノ點ハ監督權ノ分配ニアリ軍事ハ統帥權ヲ行フニ當リテハ絕對的訓令ニ依リ命令權ヲ付スルヲ得ルモ普通ノ行政官ハ臣民ニ對シテ命令權ヲ行フニ就テハ單ニ法律若クハ官制ノ範圍内ニ於テスル命令及處分ヲ行フニ過キス更ニ之ヲ詳述スレハ兵馬ノ統帥權ヲ行フニ方リ一個人ニ直接スルモノハ軍隊其モノニシテ敢テ軍人各別ノ行爲ニアラス故ニ軍人ニ命令權ヲ發スルコトハ直接ニ臣民ノ權利義務ニ向テ毫モ影響スル所アラサルナリ是ヲ以テ軍事ニ付テハ上官ノ訓令ヲ以テ命令權ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノトス故ニ軍事行政ニ在テハ絕對的ニ上官ノ命令ニ服従スヘキコトヲ以テ監督權ノ原則トス而シテ此統帥監督權ノ反對トシテ軍事行政ニ於テ責任ノ歸スル所ハ各級ノ士官ニアラスシテ最高ノ命令官ニアリ即チ行政訓令ハ絕對的ニ服従スヘキモノナルカ故ニ其結果行政訓令ニ依リ實行シタル事柄ニ付テハ之レカ責任ヲ免カル、コトヲ得ルナリ

法

軍事行政ノ範圍内ニ於テ行政官ト一個人トノ間ニ生スル法理上ノ關係ハ之ヲ二個ニ大別スルコトヲ得

政

ヘシ人事負擔及財産上ノ負擔是レナリ人事負擔ハ兵役ヲ以テ其顯著ナルモノトス然レトモ軍隊ノ爲メ勞役ヲ供給スヘキ軍役夫ノ如キ又ハ軍隊ニ必要ナル届出報知ヲ爲サシムルカ如キ皆此種ニ屬ス而シテ平時ニ於テ規則上臣民ノ負擔スヘキモノハ憲法ニ所謂兵役ニシテ兵役ハ之ヲ二様ニ區別スルコトヲ得ヘシ、(第一)隨意ニ兵役ニ就クヲ許スモノ即チ志願兵、(第二)強制的ニ兵役ノ義務ヲ負ハシムルモノ是レナリ現行徵兵令ハ專ラ此第二ノ強行ノ主義ヲ採用シ第一ハ其例外トセリ兵役ハ之ヲ分テ現役ト現役ニアラサルモノトノ二種トス

政

兵役ニ服スル者ト武官トハ行政上大ナル區別アリ武官ハ君主ノ任命權ニ依テ軍事ニ關係スル者ニシテ兵役ニ服スル者トハ臣民ノ義務トシテ軍務ニ服スルモノヲ云フ併軍人トシテハ此兩者ヲ包含スル知ルヘシ財産ニ對スル軍事負擔ハ民法法律ノ義務ノ如ク軍隊ノ需用ニ應スル爲メ廣ク物件ヲ徵收スル外戰時ニ當リ家屋又物件ヲ徵發スルカ如キ皆其主ナルモノトス而シテ之ニ對シテ賠償金ヲ付與シ及賠償金ノ性質如何ニ付テハ既ニ前ニ解説セシコトアルヲ以テ之ヲ略ス

法

行政法 終

會計法規

第一編 會計法

第一章 總說

茲ニ會計ト云フハ國庫金ノ出納ヲ云フナリ、國家カ財產ヲ有シ及之ヲ管理シ又ハ人民ノ財產ヲ徵收スルコトハ憲法又ハ特別法規ノ規定スル所ニシテ從テ國庫ノ會計ニ屬セサルヲ以テ之ヲ他ニ讓リ茲ニハ單ニ國家カ徵收シタル金額ハ如何ナル手續ヲ以テ整理シ及ヒ出納スルカヲ論スルコトトセリ即チ其總則ヲ舉シレハ左ノ如シ

- 一、政府ノ會計ハ大藏大臣ノ管理スル所ナリ
 - 二、帝國議會ハ憲法ノ規定ニ依リ國庫ノ會計ニ參與スルコトアリ
 - 三、會計検査院カ獨立ノ職權ヲ以テ之ヲ監督スルコトアリ
- 而シテ右第二ノ場合ハ憲法ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニハ第一、第三ノ場合ニ就テ政府ノ會計ヲ掌トル場合ノミヲ論スルニ止マルナリ

政府ノ會計ハ十二月ヲ以テ一會計年度トス即チ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終結

ス而シテ歐米諸國ニ於テハ每會計年度ノ開始終結ヲ異ニスルアリト雖モ十二月ヲ以テ一會計年度トナスコトハ世界萬國ノ間ニ殆ソト差異アラサルカ如シ、凡ソ國庫金ノ出納ヲナスハ各其會計年度ニ屬スル一切ノ收入ヲ歲入トシ、一切ノ經費ヲ歲出トシ毎年度毎ニ之レカ收支ヲ計算スルヲ以テ會計ノ原則トス

總テ一會計年度ノ歲入歲出ハ其年度毎ニ豫メ歲計總豫算ヲ定メ凡テ國庫ノ歲入歲出ヲ豫測シ之レカ整理ヲナスニアリ、而シテ歲計總豫算ヲ分テ歲入ノ部、歲出ノ部トシ亦之ヲ分テ經常及臨時ノ二トシ其各部中ニ就キ亦之ヲ款項目ニ區別スルナリ而シテ此區別ハ會計法ノ規定ニ依リテ各其効力ヲ異ニス

豫算ハ大藏大臣先ツ其歲入ノ景況ヲ調査シテ歲入豫算ヲ調製シ各省大臣ハ其省所管ノ豫定經費見積書ヲ要求書トシテ大藏大臣ニ提出ス大藏大臣ハ又之ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製シ之ヲ内閣ニ提出ス内閣ハ其官制ニ依リ更ニ之ヲ審議シ決定ノ上之ヲ帝國議會ニ提出ス、而シテ議會之ヲ議決シタルトキハ裁可ヲ經テ政府之ヲ公布ス茲ニ始メテ豫算確定スルモノトス以上ハ豫算調製手續ノ大要ナリ而シテ若シモ豫算成立セサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ執行スルコトヲ得ルハ憲法ノ規定スル所ナリ

總テ國庫ノ收入ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ之ヲ徵收シ支出ハ法律命令ニ依リ豫算科目ニ定メタル目的及

會計法

會計法

定額ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フノ外豫算ニ定メタル各項ノ金額ヲ彼是流用スルヲ許サルハ會計法ノ規定スル所ナリ之ヲ要スルニ歲入歲出ハ共ニ行政官府カ法令ノ規定ニ依リ行フモノニシテ殊ニ支出ニ對シテハ豫算ヲ以テ一ノ準則ヲ示シタルナリ

經費支出ノ手續ハ其所管ノ行政ニ付キ法令ニ依リ又ハ豫算ニ定メタル定額ノ範圍内ニ於テ國庫ニ向テ仕拂命令ヲ發シ又ハ特別ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得但國庫ハ主務大臣又ハ相當ノ責任アル官吏ノ仕拂命令アルニアラサレハ現金ヲ支拂フコトヲ得サルノミナラス法律ニ反キタル仕拂命令ニ對シテハ仕拂ヲ拒ムヲ得ルハ勿論ナリトス

各年度ニ於ケル收入支出ノ現計ヲ決算ト稱ス歲入歲出ノ總決算ハ豫算ト同一ノ手續ヲ以テ即チ其經費ニ付テハ各省大臣ノ仕拂命令ニ依リ大藏大臣之ヲ調製シ内閣ノ審議ヲ經テ會計検査院検査確定ニ付ス政府ハ検査院ノ確定検査ヲ經タル後之ヲ帝國議會ニ提出ス

以上ハ國庫ノ會計手續ニ付其大体ヲ示シタルニ過キササルナリ而シテ此手續ヲ規定スル法律ハ會計法是レナリ、會計法ハ國庫金ノ取扱ニ關スル法律ニシテ之ヲ以テ直接ニ歲入ヲ徵收シ又ハ歲出ヲナスヘキ外部ニ關スル關係ヲ規定シタルモノニアラス、故ニ國家ト一個人トノ間ニ於ケル眞接權力關係ノ標準トナラサルナリ、語ヲ替ヘテ之ヲ云ヘハ會計法ハ即行政官カ國庫ノ財政ヲ行フ爲メノ準則ニシテ行政

機關ニ對スル國家財政ノ根本トナルヘキ規定タルニ過キササルナリ然ルニ通俗ニハ行政官カ豫算ニ依リ國庫金ヲ取扱フ場合ヲ稱シテ豫算其モノカ獨立シテ法律上ノ効力アルカ如ク説明スルモノアリト雖モ我國法ニ於テハ此主義ニ依ラス即會計法ト云フ永久ノ法律ヲ以テ國家ノ財政行爲ヲ羈束スルニ過キスシテ豫算ハ會計法ニ依テ行政スヘキコトヲ命スルカ故ニ其結果法律ト同一ノ効力ヲ有スルカ如キ形式アリト雖モ豫算其者ハ獨立ノ効力ヲ有スルモノニアラス唯豫算ヲ行政ノ標準トナスモノハ會計法ノ効力ニ依ルニ過キササルナリ、而シテ歐洲ニ於テハ豫算ヲ以テ直ニ會計法ノ効力ヲ生セシムルモノナリト云フ學說アリト雖モ我國ノ會計法トハ全ク正反對ナルコトヲ記憶セハ足レリ

第二章 豫算

歲計豫算ト云フハ一會計年度ノ歲入歲出ノ見積書ニシテ財政監督ノ唯一方法ナリトス豫算ノ制度ハ各國其法理ヲ異ニスル故ニ之ヲ一様ニ論スルコトヲ得ス併シ我國ノ豫算制度ハ外國ノ法理論カ我憲法ノ上ニ影響ヲ及シタルコト尠カラサルカ故ニ歐洲ノ豫算制度ノ主義ヲ解説シテ然ル後我制度ニ及ハントス、即チ歐洲ノ豫算制度ヲ大別シテ二主義トス(一)豫算ヲ以テ歲入ノ基礎トナスニアリ(二)豫算ヲ以テ歲出ノ基礎トナスニアリ之ヲ要スルニ或國ノ制度ニ於テハ歲入ヲ主トスルヤ將タ歲出ヲ主トスルヤト云フニアリ第一英國ノ豫算制度ノ發達ノ歴史ニ依レハ國王ノ財産ヲ以テ政費ヲ支辨スルヲ原則トシ

會計法ノ規

會計法ノ規

若シモ政費ニ不足ヲ生シタルトキハ人民ノ貢物ヲ徵收シタリ而シテ貢物ヲ徵收スルハ純然タル今日ノ租税ニアラスシテ自由ノ貢獻タルノ性質ヲ有シタルナリ然ルニ政府ハ人民ノ財産ヲ擅マ、ニ取立ツルノ弊アリタルヨリ其壓制ノ負擔ヲ免カレンコトヲ欲シ豫メ承諾ヲ與フルニアラサレハ人民ニ對シテ貢物ヲ強迫スルコトヲ得スト云フ原則ヲ議會ニ主張シタリ近世ノ國法上ノ語ヲ以テ之ヲ云ヘハ租税ハ必ス法律ヲ以テ賦課スルト云フ意味ニシテ租税ト云フ觀念ハ更ニ之レナカリシナリ之ヲ換言スレハ政費ヲ國庫金ニテ支辨スル能ハサルトキニ止ムヲ得ス人民ヨリ、補助ヲ仰クヘキ有様トナリ即チ政府カ國庫ノ收入ト政費ヲ計算シテ其收支相償ハサル所ヲ示シ國民ノ承認ヲ要ストノ主義ヲ取リシナリ、而シテ國會カ豫算ヲ議定スルト云フコトヲ租税ヲ承諾スル權ト混同シ不法ノ收斂ヲ免カル、コトヲ目的トシタル國會ノ權能ナリト云フノ解釋ハ皆豫算制度ヲ國家ノ收入ノ基礎トシタルモノナリ之ヲ一言ニテ掩ヘハ豫算ヲ以テ租税ニ關スル法律ト混同シ永久ノ租税法ヲ認メテ豫算ニ依リ租税ヲ賦課シ得ルモノト認メシニ依ルモノニシテ而シテ此主義ヲ以テ佛蘭西白耳義伊太利等ノ憲法ヲ定メラレタルモノナリト雖トモ然レトモ實際ノ便宜上又ハ國法學者カ研究ノ結果英國ノ固有法ノ主義ハ遂ニ一變スルニ至レリ、第二政治上ノ實況ヨリ觀察スルモ政府ト國會ト豫算ノ爭ハ重モニ歲出ノ點ニアリ又理論上ヨリ見ルモ近世ノ國法學ハ租税ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ徵收スルモノニシテ豫算ニ付議會ノ議決ヲ要スル點

會計法規

ハ政府カ國家ノ財力ヲ亂用スルコトヲ防クニアリト見做シ豫算ヲ以テ政府カ國庫金ヲ使用スル標準ナリトスルニアリ故ニ從テ豫算ノ目的金額ヲ起過シテ政府ハ國庫金ヲ支出スルヲ得サルコト、ナリ即チ此說ニ依ルトキハ豫算制度ハ歲出ヲ監督スルコトヲ以テ議會ノ特權トナスカ如シ

我憲法ニ於テハ歐洲ノ豫算制度ヲ精密ニ研究シテ第二ノ主義ヲ明カニ正文上ニ之ヲ認ムルニ至レリ是レ即チ我憲法ノ豫算制度ノ精神ナリトス尙之ヲ再言スレハ歐洲ノ豫算主義ハ豫算ト租税法トヲ混同シ豫算ヲ以テ國家收入ノ基礎トナシタリト雖モ我國ノ豫算制度主義ハ豫算ト租税ニ關スル法律及會計法トヲ分離シ議會ノ豫算議定權ハ國家ノ歲出ノ監督ヲ爲スト云フ點ニアリトス

豫算ハ法律ナリヤ否ヤトノ議論ハ從來學者間ニ爭點タリシト雖モ昨今ニ至リテハ法律ト豫算トハ全ク別種ノモノナルコトヲ確ムルニ至レリ想フニ彼ノ豫算ヲ以テ法律ナリトスル論者ノ說ハ豫算ヲ歲入ノ基礎トスル外國ノ制度ヲ以テ直チニ我國ノ豫算制度ヲ解釋セントスルノ誤謬ニ陷タルモノニシテ現ニ我國ニ在テハ豫算ト法律トヲ區別セルニ依テ見ルモ其誤レルヲ知ルニ難シトセス抑モ我國法ヲ論スルニ於テハ豫算ハ其形式ニ於テモ法律ニアラス又實質上法律タルコトヲ主義トセサルナリ即チ豫算ヲ以テ人民ノ財產ヲ徵收スル基礎標準トナス制度ヲ採ラス專ラ歲計監督ノ方法トシテ採用シタルコト是レナリ即チ國家ノ歲出ハ官府カ之ヲ行フ故ニ官府ノ行爲ヲ監督スルヲ以テ豫算ノ目的ヲ達スルモノニシ

會計法規

テ人民ノ自由權利ヲ束縛スルコトヲ必要トセス從テ法律ノ形式ト効力ヲ具備スルヲ要セサルナリ故ニ我國法ニ於テハ豫算ト法律ヲ區別シ豫算ハ單ニ政府ノ財政ヲ羈束スル行政ノ標準タルニ過キササルモノトス而シテ租税法及會計法ハ之レニ反シ永久ノ法律トシ人民ノ負擔ハ租税法ニ依テ定マリ政府ノ財政ハ會計法ヲ以テ之ヲ規定ス之ヲ換言スレハ、政府ノ歲出ハ會計法ナル法律ヲ以テ豫算ニ依ルナキコトヲ命スルカ故ニ豫算ニ依リ歲出ヲ爲スハ即チ法律ヲ遵守スル所以トナル、之ヲ要スルニ豫算ハ人民ニ對シテ獨立ノ効力ナシ豫算ノ効力ハ即チ會計法ノ効力ニシテ會計法ノ規定ニ依リ毎年度ノ歲計ヲ見積ルモノ即チ之ヲ豫算ト云フニ過キス故ニ我國法上豫算ヲ法律ト云フハ到底誤解タルヲ免レサルナリ其

他歐洲ニ於テハ豫算ヲ以テ國會カ政府ニ財政ヲ委任スルモノナリト云フト雖モ是レ又我國法ノ精神ニアラス何トナレハ委任トシ云ヘハ國會カ其主體ニシテ政府ハ唯其指揮ヲ受ケ國會ノ意志ヲ執行スル機關ナリト云ハサルヘカサルニ至リ我憲法ノ規定ニ乖戾スヘクハナリ

豫算ヲ以テ財政ヲ監督スル方法ナリト云フハ概括的ノ定義ニ過キス其監督權ハ議會ニアラスシテ君主ノ大權ヲ以テ各種ノ行政機關ヲ監督スルニ付議會ヲシテ豫算案ヲ議定セシムルニ過キス、議會ノ協贊ヲ經タル豫算案ハ君主カ之ヲ裁可シ之ヲ公布スルニ依テ初メテ行政官ニ遵由ノ責任ヲ生セシムルモノナルヲ以テ豫算ヲ以テ財政ヲ監督スル方法トナスハ所謂監督權ノ所在ハ議會ニアラスシテ正シク大權

ニ屬スルコトハ總テノ行政機關ノ監督ハ君主ノ大權ニ屬スルト少シモ差異アラサルナリ、故ニ行政官カ豫算ニ依リ財政事務ヲ取扱フハ議會ノ議定ニ服従スルニアラシテ行政各部ヲ監督スル大權ノ監督ニ服従スルモノナルコトハ一般人民カ法律ヲ遵守スヘキ義務アルハ議會ノ議決ニアラシテ君主ノ裁可及公布シタル法律ニ服従スル義務アルト寸毫ノ差異アラサルナリ

第三章 豫算ノ効力

豫算ノ効力ハ會計法ニ依テ生ス是レ即チ豫算カ法律トシテノ効力ニアラスシテ法律カ豫算ニ依テ財政ヲ監督スルニ過キササルナリ以下豫算ノ効力ト各科目ニ就テノ効力ノ概略ヲ述ヘントス
歲計豫算ハ其年度ニ於テノミ其効力ヲ生ス故ニ毎年之ヲ更新スルヲ要ス但豫算カ成立セサルトキハ憲法ノ規定ニ依リ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スルコトヲ得、故ニ豫算カ翌年度ニ涉リ効力ヲ有スルト云フハ豫算本來ノ性質ニアラスシテ特別ノ場合ニ限ルナリ例ヘハ數年ニ跨ル繼續費ノ如シ
豫算全體ノ効力ハ收入支出ノ見積書ニシテ歲入ノ財源及經費ヲ要スル事項ハ法律命令ヲ以テ規定スト雖モ右ノ法令ノミヲ以テハ毎年度ノ收支ノ金額ヲ豫定スル能ハサルヲ以テ毎年法令施行ノ爲メニ出入スル金額ヲ更ニ計算シテ國家財政ノ見積ヲ定ムルモノ之ヲ豫算ト云フ此豫算ハ會計整理ニ關スル事實ノ推定ニシテ行爲ノ準則ニアラス是レ即チ豫算ト法則トノ區別アル所以ナリ而シテ豫算ハ之ヲ裁可公

會計法 規

會計法 規

布シ行政官府ヲシテ之ニ依テ一般ノ會計ヲ整理セシムルモノナルヲ以テ豫算ハ行政上ノ準則トシテ行政官ハ之ニ依リ收入支出ヲナスヘシト云フ會計法ノ規定ニ準據スルニ外ナラス之ヲ要スルニ豫算ハ財政監督ノ爲メニ設ケタル事實ノ推定ニ過キササルヲ以テ豫算カ國家ト個人トノ權力關係ノ準則ニアラサルハ勿論ナリトス
歲入ニ對スル豫算ノ効力ハ單ニ事實ノ見積タルニ過キス租稅其外ノ徵收ハ特別ノ法令ヲ以テ定メ收入豫算ハ歲入徵收上ニ何等ノ關係ナシ詳言スレハ人民負擔ノ割合既ニ法令ニ依テ定マレリト雖モ唯歲入ノ金額ハ果シテ幾何ナルヤハ到底不確定ナル事實ニ屬ス故ニ歲入豫算ノ性質ハ毎年度國庫ニ入ル所ノ總額ヲ豫見シタルニ過キササルヲ以テ歲出豫算ハ會計法ノ明文ニ依リ行政官ヲ束縛スルコトヲ得レトモ歲入豫算ハ特別ノ明文ナキヲ以テ行政官ヲ束縛スル効力ヲ有セサルナリ
歲出ニ對スル豫算ノ効力ハ國家經費ノ見積タル事實ノ豫測タルハ歲入豫算ト異ナルコトナシト雖モ國務大臣ハ歲出豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用スルコトヲ得スシテ單ニ款項ノ範圍ヲ超越セサル限リニ於テノミ國家ノ經費ヲ支出スルヲ得ルニ過キササルヲ以テ行政上ノ準則タルハ會計法ノ規定ニ依ル、是レ即チ歲入ト歲出トヲ平均セシムルノ必要ニ外ナラサルナリ故ニ歲出豫算ハ行政官ノ自由行爲ヲ束縛スルノ効力ヲ有ス而シテ又歲出豫算ヲ款項ニ別ケタル理由ハ其目的ノ爲メニ使用スル最高金額

ノ標準ヲ示シタルモノニシテ其範圍内ニ於テノミ經費ヲ支出スルコトヲ行政官ニ認許セタルモノニ外
ナラス、從テ其結果トシテ歳出豫算ノ款項金額ヲ彼是流用スルコトヲ禁シタルハ素ヨリ當然ナリトス
(會計法第十二條)然リト雖モ豫算ノ効力ハ唯行政官府ヲ束縛スルニ過キサルヲ以テ君主カ大權ノ處分
トシテ豫算ニ超過スル支出ヲナシ又ハ豫算外ノ支出ヲナスハ憲法ノ禁スル所ニアラサルノミナラス避
クヘカラサル歳出豫算ノ不足ヲ補フ爲メニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲メ歳計總豫
算中ニ豫備費ノ目ヲ設ク勅令ヲ以テ臨時之レカ支出ヲ認メタリ(憲法第六十九條)(會計規則第五款參
看)但豫備費ノ支出ニ就テハ次期ノ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス(憲法第七十條)

第四章 會計検査

國庫ノ會計ハ豫算ニ始マリ決算ヲ以テ終了ス而シテ決算ハ會計検査ヲ以テ之カ確定ヲ告ク、既ニ豫算
ハ國庫金ヲ出納スル豫定ノ見積書ニシテ是ニ依テ歳入歳出ヲ出納シ其結果ヲ決算トシテ報告シ検査ヲ
以テ確定ス故ニ豫算ハ會計検査手續ノ發軔ニシテ其準備ヲナスモノトス凡ソ歳入歳出ノ現計ハ一年度
毎ニ現金ノ出納ヲ決算シ其決算ヲ會計検査院ノ検査ニ附シ検査確定ノ上之ヲ帝國議會ニ報告ス
抑モ會計ノ事務ハ尤モ嚴格ナル監督ヲ要スルカ故ニ又一面各省大臣カ行政各部長官トシテ豫算ニ依リ
自ラ國庫金ヲ出納シ又ハ出納セシムル當事者ナルカ故ニ各省大臣ノ取扱フ會計ニ對シテ検査ヲ爲ス

會計法

官府ハ即チ會計検査院ナリ故ニ會計検査院ハ國務大臣ノ監督ヲ離レテ獨立ノ地位ヲ有セシムルコト必
要ナルヲ以テ會計検査院ノ組織及權限並ニ検査官吏タルモノ、地位ノ獨立ハ現ニ會計検査院法及附屬
法律ヲ以テ規定セル所ナリトス検査トハ現計ノ検査ニシテ官金ヲ收入支出シ及國有ノ財産ヲ處分スル
行爲ヲ監督スルニアラス之ヲ監督スルハ行政各部長官ノ職權ナリ故ニ検査院ハ事後ニ於テ財政ノ取扱
カ法令ニ準據スルヤ否ヤノ結果決算ヲ検査スルニ過キスシテ財政行爲ヲ監督スルモノニアラサルナリ
之ヲ要スルニ會計検査院ノ職權ハ直接間接ニ國庫金ヲ以テ收支セラレタル凡テノ現計ノ決算報告アル
ヲ待テ之ヲ検査スルモノニシテ自ラ進メテ各般ノ行政行爲ニ干渉スルヲ得ス故ニ其職務ノ範圍ハ計算
ノ當否及其收支カ果シテ法令ノ範圍ニ於テ適實ニ執行セラレタルヤ否ヤヲ検査審判スルニ過キサルモ
ノトス

會計検査ノ目的ハ計算上、行政上及豫算上ノ監督ニシテ(一)検査院ハ其受クル所ノ決算報告ニ付算
數上、果シテ正確ナリヤ否ヲ検査シ且收入支出ノ現計ト其報告ト符合スルヤ否ヤヲ検査ス例ハ各廳
經費ニ就テハ支拂命令及領收證等ヲ提出セシメ豫算ト現計上ノ支出額ト合致スルヤ否ヲ審査スルカ如
キ(二)検査院ノ検査ハ獨リ算數上ノ検査ノミナラス行政上ノ検査ヲモ之ヲ行フ行政上ノ検査トハ政
府ノ財政カ法律命令ニ準據セルヤ否ヲ審査スルニアリ例ハ歳入ノ賦課ハ總テ各其法律命令ニ適合シ

テ徵收シタルヤ否、又歳出ハ法令ノ命スル手續ヲ嚴格ニ履行セラレタルヤ否例ヘハ物品ノ購入ニ付競
争入札ニ付スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ果シテ法令上ノ手續ヲ勵行シタルヤ否ヤヲ審査スルカ如
キ(三)會計ノ支出ハ果シテ豫算ニ準據シ其範圍ヲ超過シタルコトナキヤ又其費用ヲ法令ニ背キ流用支
出シタルコトナキヤ否及ヒ收入ニ付テハ現計ト豫算ト如何ナル差異ヲ生シタルヤ否ヤヲ審査スルカ如
キ是レナリ。

會計検査院ハ以上ノ方法ニ依テ會計ノ検査ヲ行ヒ財政上違法ノ行政處分ヲ發見シタルトキハ國務大臣
及其責任アル官吏ニ質問ヲ發ス而シテ之カ答辨ニシテ尙違法ナリト認ムルトキハ直接君主ニ上奏スル
ニ止リ行政官府ニ對シテ之レカ處分ヲ差止ムルノ訓令ヲ發スル權利ナシ

又會計検査院ハ各出納官吏ノ計算書及其證憑書類ヲ検査シ凡テ正當ナリト判決シタルトキハ出納官吏
ニ認可狀ヲ與フ認可狀ノ効力ハ會計上ノ責任ヲ解除スルニアリ、責任解除トハ出納官吏カ行政監督ノ
爲メ受クル所ノ會計法上ノ特別責任ヲ解除セラル、ニアリ、從テ會計検査院ノ認可狀ハ行政内部ノ監
督ニ對スル責任ヲ解除スルニ過キスシテ之ヲ以テ直ニ民事上刑事上ノ責任ヲ解除スルモノニアラスト
謂ハサルヘカラス

之ヲ要スルニ會計検査院ハ國務大臣ノ監督ニ屬セス君主ニ直隸シタル行政官府ナルヲ以テ其職務ハ行

會計法規

會計

法

規

會

政ノ性質ヲ有スル國家財政ノ機關ナリトス故ニ會計検査法カ其決算ヲ審査確定シタルトキハ報告書ヲ
作り其成績ヲ内閣ヲ經スシテ直ニ君主ニ上奏ス然シテ此上奏ヲ以テ行政内部ノ會計手續ヲ終了スル
モノトス、而シテ一面更ニ君主カ大權ノ行動トシテ其決算及報告書ヲ國務大臣ニ命シテ帝國議會ニ報
告セシムルハ憲法上ノ規定ニ依ル
以上ノ手續ヲ以テ國家財政上ノ監督ハ全ク終了ヲ告グルモノトス

第二編 會計ニ關スル法令

緒言

國庫金出納整理ニ關スル會計法規ハ千律浩濶、錯綜極マリナク從テ之ニ通曉スルハ當局主任者ノ外、
殆ント稀有ナリト雖モ凡ソ國庫財政ノ整否ハ忽チ國家ノ盛衰消長ニ關スルコト大ナルヲ以テ苟モ眼ヲ
全局ニ注クモノ及ヒ大小ノ國務ニ從事スルモノニ在テハ瞬時モ會計ニ關スル思想觀念ナカルヘカラサ
ルハ固ヨリ論ヲ待タサル所ナリ、然ルニ從來ノ實檢ニ徵スルニ動モスレハ此觀念ニ乏シキカ如ク或ハ
甚タシキハ會計事務ヲ目スルニ死物ナリ、器械的ノ事務ナリトシ之ヲ輕視スルノ傾向アルハ識者ノ痛
嘆スル所ナリ、而シテ現行ノ制度ニ依レハ府縣監獄費ハ地方稅支辨タルヲ以テ各府縣ニ於テモ各種ノ

會計法規ヲ設ク適宜ノ取扱ヲナシツ、アルハ素ヨリ止ムヲ得サル結果ナリト雖既ニ會計事務ノ忽諾ニ
附スヘカラサルヲ知り又將來ニ於テ監獄費ノ全部ヲ國庫支辨ニ復スルノ曉ニ至リテハ總テ國庫會計法
ニ準據セサルヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ今日ニ於テ之ヲ研究シ亦其思想ヲ涵養シ置クハ最緊切要ノ
急務ナリト信ス、故ニ本編ニ於テ一般國庫ノ會計ニ關スル法規ノ全文又ハ監獄關係ノ會計ニ關聯スル
法令ノ摘要ヲ掲ク之レニ當局主管省局ノ指令、通牒ヲ拔抄シ讀者研究ノ資ニ供セントス

第一章 會計

○會計法明治二十二年二月十一日
法律第四號

會計法

第一章 總則

- 第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ
- 第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ
- 第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス
- 第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス
- 第二章 豫算
- 第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

會計法 規

會計法 規

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經營臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

- 第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各自ノ明細ヲ記入スヘシ
- 第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

- 第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
- 第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス
- 第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
- 第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ
法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

- 第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス
- 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲メニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非ザレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ支拂命令ヲ發スルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿免

除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ルモノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免ルモノトス

但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二十條 各年度ニ於テ會計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ノ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スル工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂額額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂納渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル歳入及其ノ他一切豫算外ノ歳入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各ト之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セズ隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルトキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルトキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ買拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ルトキ

第十 軍馬ヲ買入ルトキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命ジ又ハ物品ヲ買入ルトキ

第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ僱役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルトキ

第十三 囚徒ヲ僱役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ルトキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ買拂フトキ

第十五 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼スルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

會 計 法 規

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セザルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○會計法補則 明治二十三年八月二日 法律第五十七號

會計法補則

第一條 明治二十三年年度歳出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大體ニ基ケル既定ノ歳出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費憲兵屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依レル支出
- 五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ケ左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歳出トス

- 一 帝國議會經費

會 計 法 規

- 二 裁判所並會計検査院經費
- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
- 四 徴兵費
- 五 徴稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徴稅費滯納處分費差押物件買上代
- 六 囚徒費
- 七 遞信事業及航路標識費
- 八 内外國離破船費
- 九 沖繩縣及小笠原島地方費
- 十 備荒儲蓄
- 十一 北海道拂下土地買上代
- 十二 恩賞及救助費

第三條 明治二十四年度歳出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歳出上ノ義務トス

- 一 神社費
- 二 公債償還利子及拂手數料
- 三 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
- 四 沖繩縣諸條
- 五 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
- 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

七 法律上ノ賠償及訴訟費

八 諸拂戻金

九 國庫金取扱費

十 預金利息

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

會計規則 明治二十二年四月三十日 勅令第六十號

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勸年金恩給諸條ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻款損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 國中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五條 前各項ニ掲ケル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一日限リトス(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ八月十七日改正)

第二款 豫定經費要求書

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費請求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ總豫算ノ首ニハ會計全體ニ關スル說明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較テ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ條項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ付スヘシ

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(上全)

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金額ニ令達スヘシ(上全)

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額
翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫算ノ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第三豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル

豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納入ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大蔵大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込
ノ手續ヲ爲スヘシ(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中削除)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納入ヨリ租税其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納入ニ交付シ領收證ノ旨ヲ收
入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ該收入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納入ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ(同勅令ヲ以テ改正)

第二十八條 (全勅令ヲ以テ削除)

第二十九條 (全)

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ
其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ
其翌月中ニ大蔵大臣ニ送付スヘシ

第四十條 支出

第四十一條 仕拂命令

第四十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルナキヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂
豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算額ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調
査スヘシ

第四十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナル
モノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(廿六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中削除)

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記
載スヘシ

第四十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第四十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令
及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
(廿六年勅令第百十號ヲ以テ改正)

第四十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(全)

第四十七條 (全上勅令ヲ以テ削除)

第四十八條 (全)

第四十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ役額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運
輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月
分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ役額ヲ豫定シテ事務差支ナキ限リハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スダメ仕
拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ
發シタル仕拂命令ノ仕拂證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

二十七

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未満ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年以内ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂ヲモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セザルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ (廿六年勅令第百十ニ號ヲ以テ改正)

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セザルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セザルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入ルニシテ國庫ニ於テ繰越整理スヘシ (廿六年勅令第百十ニ號ヲ以テ改正)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年以内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ依リ政府力負債ノ義務ヲ免レ

タルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本交期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ (廿六年勅令第百十ニ號ヲ以テ改正)

第五十條 (全上勅令ヲ以テ削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書 (廿六年勅令第百十ニ號ヲ以テ改正)

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送附スヘシ

歳入ヲ測定スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入測定額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添へ年度經過後五箇月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添へ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得 (全勅令ヲ以テ追加)

第三款 國債計算書

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

第三 最近五箇年度間ニ於ル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ

毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五箇年度間資金ノ増減

第四 最近五箇年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後二箇月以内ニ繰越計

算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ(廿六年勅令第百十)

算書ヲ作リ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ(二號ヲ以テ改正)

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額及第四十四條ニ據リ翌年度六月三十日マテニ仕拂命令ヲ發スヘキ額(上全)

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル

金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業

住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ(廿六年勅令第百十)

第六十一條 (令上勅令)

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費

ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ(廿六年勅令第

百十二號ヲ以

テ改)

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲サタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ(上全)

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クルコトヲ得ス(上全)

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第六十六條 (同上勅令ヲ以テ削除)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシテ之ヲ調査ヲ作ラシム (全勅令ヲ以テ改正)

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官職ヲ命ジテ事實ヲ調査シ其調査ヲ作ラシムヘシ

任拂命令官ハ前各項ノ調査ニ據ルニアラサレハ任拂命令ヲ發スルコトヲ得ス (全上勅令ヲ以テ改正)

第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユルヘカラス (上全)

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得 (全勅令ヲ以テ追加)

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ約ムヘシ (全勅令ヲ以テ改正)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請買又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス (廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ違セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請買又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ (廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(全勅令ヲ以テ改正)

第八十條 工事及物件ノ買賣貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕様、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省却スルコトヲ得(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏(全勅令ヲ以テ改正)

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス(全勅令ヲ以テ追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其代理シタル所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ太藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(全勅令ヲ以テ改正)

第八十七條 (全勅令ヲ以テ削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ賠償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其賠償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ本蔵大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ賠償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ賠償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル賠償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 (廿六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本蔵大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大蔵大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本蔵大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人ノ之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本蔵大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十) (二號ヲ以テ改正)

第九十六條 歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計檢

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類

ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ
本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルガ爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大
臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高チ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以內
ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ズ

身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之ガ補填ヲ要スル場合ニ於テ
ハ前項ノ例ニ據ル

第百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ
之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出
納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四箇月以內ニ一年內ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類
ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但
運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調製シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(全勅令ヲ
以テ追加)

第九章 帳簿

第百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令額
額ヲ登記スヘシ

第百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ区分シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ区分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ区分シ仕拂豫算額、仕拂命令額領濟額ヲ登記スヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第百十七條 (全上) 削除

第百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ總切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ
定ムヘシ(廿六年勅令第百十
二號ヲ以テ改正)

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

本規則ト低觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ起テ廢止ス

歳入歳出豫算概定順序 閣令十二號

第一條 歳入ノ事務管理廳ハ毎年度歳入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(廿六年閣令第二
二號ヲ以テ改正)

第二條 歳入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ区分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

- 第三條 各省大臣ハ毎年度歳出概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ(廿六年閣令第二)
 - 第四條 歳出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ
 - 第五條 大蔵大臣ハ各廳ノ歳入概算書及歳出概算書ヲ檢案シ歳入出ヲ對照調理シ歳入出總概算書ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ(廿六年閣令第二)
 - 第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ
 - 第七條 内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ(廿六年閣令十二)
 - 第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以內ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ(同上)
 - 第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大蔵大臣之ヲ定ムヘシ
 - 第十條 明治二十三年度豫算ニ限リ前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得
- 豫定經費算出概則** 明治二十二年六月十日 閣令第十九號
- 第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ
 - 第二條 經費申其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ
 - 第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各々其積算所ヲ示スヘシ
 - 第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其積算所ヲ示スヘシ
 - 第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但

- 事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時僱人及解僱ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ
 - 第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ
 - 第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノ)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定期ニ據リ之ヲ豫算スヘシ
 - 第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ
 - 第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ
 - 第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ヲ所ヲ示スヘシ
- 政府ノ工事又ハ物件賣買貸借ニ關スル隨意契約方** 明治二十三年九月一日 勅令第九十三號
- 政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモノハ札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモノ尙豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之ヲ爲メ最モ競争ニ付スルトキ定メタル價格其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス
- 一 歳出豫算概定順序 明治二十二年内務省訓令第十七號 四月十一日發布
 - (摘要) 警視總監、府縣知事、集治監典獄ハ毎年度歳出概算書ヲ製シ前々年度二月二十八日限リ内務省ニ進達スヘシ、歳出概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ而シテ更ニ前年度五月三十一日限リ毎年度ノ豫算經費要求書ヲ内務省ヘ進達スヘシ
 - 一 豫定經費要求書様式 明治二十二年内務省訓令第二十二號 六月一日發布
 - (様式畧ス)
 - 一支拂命令委任規程 明治二十二年勅令第八十九號 七月三日發布

(摘要) 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條ニ依リ仕拂豫算額ヲ定メテ委任スヘシ

委任ヲ受ケタル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

一出納官吏現金取扱規則 明治二十二年大藏省令第十三條 十月四日付

(摘要) (義務委託) 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ委託ヲ爲シタルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑ヲ大藏大臣ニ送付シ同時ニ金庫ニ其旨ヲ申込ムヘシ

出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ保管證書ヲ製シ保管金引出切符用紙ヲ添ヘ現金ト引換ニ出納官吏ニ交付スヘシ

出納官吏ヲ任命シタル當該官ハ其資格氏名ヲ金庫ニ通知シ金庫ハ此通知ヲ受ケルニアラサルハ現金ノ仕拂ヲナスヘカラス

出納官吏其委託當時ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ際金庫ニ申込ムヘシ
金庫ハ毎年三月三十一日ニ於テ既往年度中ニ委託金額ヨリ仕拂金額ヲ控除シ其殘金ニ對シ新ニ保管證書ヲ作り前ノ保管證書ト引換フヘシ

(隨意保管) 金庫ノ設ケナキ場合ニ於テハ現金出納官吏ハ堅牢ナル函(金庫)ヲ備ヘ保管ニ係ル現金及出納ノ帳簿ヲ藏匿スヘシ二人以上連帶責任ヲ以テ保管スル場合ニ於テハ二個ノ異ナリタル鎖鑰ヲ備ヘ各其一ヲ分管スヘシ但現金ヲ携帶シ旅行ノトキハ別ニ相當ノ保護法ヲ設ケルコトヲ得

出納官吏カ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實信用アル銀行又ハ一私人ニ保管ヲ托スルコトヲ得

一内務省所管經費取扱方ノ件 明治二十三年内務省訓令第十號 三月十三日發布

(摘要) 各省又ハ歳入ノ事務管理廳ノ部長(會計規則第九十六條)ハ廳府縣長官集治監典獄等トス但集治監分監長ヲ以テ部長ノ代理官ト爲スコトヲ得

一出納官吏身元保證金取扱規則 明治二十三年大藏省令第二號 一月二十五日付

一出納官吏身元保證金ノ件 明治二十三年勅令第四號 一月二十日付

(全文略ス)

會計規則第六十七條第九十一條第九十二條第九百條ノ検査其他ノ官吏ハ部長ニ於テ之ヲ命スルコトヲ得
會計規則第三十條第四十九條ニ依リ毎月展出スヘキ報告計算書ハ翌月十日迄ニ其屬ヲ發シ當省ニ差出ヘシ
會計規則第九十八條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ差出スヘキ計算書ハ毎月一回トシ其仕拂ノ了リタル日ヨリ十日以内ニ提出スヘシ

一集合仕拂命令内譯書ノ件 明治二十二年内務省訓令第四十四號 二月二十四日付

(摘要) 會計規則第三十三條但書集合仕拂命令ニ添付スル各債主ノ金額氏名表左ノ通心得ヘシ

集合命令第何號金額氏名

(項) 何々

一金何圓

事由何々

内譯

一金何圓 何之誰

一金何圓 何之誰

一金何圓 何之誰

計金何圓 何名

(全文略ス)

一出納官吏保管金紛失具申方

明治二十四年内務省訓令第一七六號

三月九日發布

(摘要) 出納官吏保管金ノ紛失ヲ發覺シタルトキハ直ニ其旨具申スヘシ但缺損金補填ノ請求ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一會計規則第九十一條第二項ニ依リ臨時検査員検査書寫

一會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命セラレタル額未書但命セラレサルトキハ理由書

出納官吏検査規程

明治二十五年大藏省訓令第三十號

五月十七日發布

(摘要) 大藏大臣ハ其所屬官吏ヲ出納官吏保管ノ金櫃及帳簿ヲ検査セシム、検査員ハ總檢章ヲ出納官吏ノ請求ニ依リ之ヲ示スニアラサレハ検査ニ着手スルヲ得ス

検査員ハ帳簿及現金ノ對照検査ヲ了シタル後檢定書二通ヲ作り双方署名捺印ノ上其一通ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

検査員ハ検査ヲ了シタル帳簿表紙ノ裏面ニ何年月日迄ノ出納ハ検査済ナルコトヲ記載シ記名調印スヘシ

一出納検査ヲ受クヘキ件

明治二十五年大藏省訓令第三十五號

五月三十一日付

(摘要) 大藏大臣訓令第三十號(前項)ニ依リ出納帳簿等ノ検査員隨檢ノトキハ休暇日及退職後ト雖モ検査員ノ通知ニ依リ何時タリトモ検査ニ應スル義務ナリ

一金庫開庫時間ノ件

明治二十三年大藏省告示第二號

二月十二日付

(摘要) 金庫開庫時間左ノ通

第一、中央金庫及大坂本金庫

每年四月一日ヨリ七月十日マテ及九月十一日ヨリ翌年三月三十一日ハ午前九時ヨリ午後一時迄トス

但土曜日ハ正午十二時限リ閉鎖ス

會計法

會計法

每年七月十一日ヨリ九月十日迄ハ午前九時ヨリ十二時迄トス

第二、本金庫(大坂本金庫)及各支金庫

(毎年四月一日ヨリ七月十日迄及九月十一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ)午前九時ヨリ午後二時迄トス

但土曜日ハ正午十二時限リ閉鎖ス

每年七月十一日ヨリ九月十日迄ハ午前八時ヨリ十二時トス

第三、各金庫派出員

右ハ總テ前各項ノ時間ニ據ルモノトス

一歳入歳出外現金出納検査委任ノ件

明治二十六年會計検査院通牒

五月十三日付

(摘要) 會計検査院法第十六條ニ依リ左ノ部局ニ屬スル歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ明治二十五年年度以降内務省ニ委托ス

省ニ委托ス

一、東京集治監

二、三池集治監

三、宮城集治監

四、兵庫假留監(消滅)

五、各區土木監督署

七、各衛生試驗所

八、北海道集治監

(官制改正ノ結果茲ニ入ル)

一前全上

明治三十六年會計検査院通牒

五月十三日付

(摘要) 前全文明治二十五年以降警視廳ニ委托ス

一、警視廳監獄署

二、全上各部局

一前全上

明治二十六年會計検査院通牒

五月十三日付

(摘要) 前全文明治二十五年年度以降北海道廳ニ委托ス

一、北海道集治監(官制改正結果内務省ニ委托ス)

二、札幌農學校

三、北海道監獄署

四、北海道各郡區役所

第二編 會計ニ關スル法令 第一章 會計

五、北海道各警察署其他各部署

一前全上

(摘要) 前全文明治二十五年庚辰以降某々府縣ニ委託ス

明治二十六年會計検査院通牒 五月十三日付

一、某府縣監獄署 二、全上右警察署其他各部署

第二章 俸給及手當

一高等官官等俸給令

明治二十五年勅令第九十六號 十一月十四日發布

但明治三十年八月勅令第五百十四號ヲ以テ改正

(摘要) 内務省獄局長高等官三等(奏任)年俸二千五百圓、全監獄事務官高等官三等、二千五百圓(一級)四等、二千二百圓(二級)二千圓(三級)、五等、千八百圓(四級)千六百圓(五級)、六等、千四百圓(六級)千二百圓(七級)、七等、千圓(八級)九百圓(九級)八百圓(十級)トス

一集治監假留監高等官年俸令

明治二十四年勅令第一百五號 七月廿四日發布

(摘要) 東京集治監典獄千四百圓、三池集治監典獄千四百圓、宮城集治監千圓、北海道集治監典獄千八百圓、北海道集治監分監長八百圓トス

一警視廳高等官俸給令

明治三十年勅令第九十二號 六月十二日發布

(摘要) 第四部長ニ補スヘキ典獄一級千四百圓、二級千二百圓、三級千圓トシ、其他ノ典獄ハ一級八百圓、二級七百圓、三級、六百圓トス

一北海道廳高等官俸給令

明治三十年勅令第二百九十二號 十一月三十日發布

(摘要) 典獄一級千二百圓、二級千圓、三級九百圓、四級八百圓、五級七百圓トス

會計法 規

會計法 規

一地方高等官俸給令

明治二十四年勅令第二百二十號 七月二十七日發布

但明治二十六年十一月三十一日勅令第八十一號ヲ以テ第三條改正

(摘要) 典獄ノ俸給ハ京都府、神奈川、兵庫、長崎、新潟、愛知、宮城、廣島、熊本ノ八縣ハ八百圓其他ノ諸縣ハ六百圓トシ大阪府典獄ハ特ニ年俸千圓ヲ給スルコトヲ得

一臺灣總督府地方高等官等俸給令

明治三十一年勅令第四百十四號 六月二十日發布

(摘要) 典獄俸給ハ二級千圓、三級九百圓、四級八百圓、五級七百圓トシ同年六月二十日ヨリ施行セラル

一判任官俸給令

明治二十四年勅令第八十三號 七月二十七日發布

(摘要) 一級六十圓、二級五十圓、三級四十五圓、四級四十圓、五級三十五圓、六級三十圓、七級二十五圓、八級二十圓、九級十五圓、十級十二圓トシ判任官最上級ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練達優等ナル者ハ漸次七十五圓迄増俸スルコトアルベシ

判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得ス但八級以下ハ此限ニアラス

明治二十六年勅令第八十二號 十月三十日發布

一廳府縣集治監判任官最下俸給ノ件

明治三十年勅令第四百十九號 五月十八日發布

(摘要) 判任官俸給令最低額十二圓以下六圓迄ノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ

一巡查看守俸給令

明治三十年勅令第四百十九號 五月十八日發布

(摘要) 一級十五圓、二級十四圓、三級十三圓、四級十二圓、五級十一圓、六級十圓、七級九圓トシ初任ノ者ハ六級以下トス、但五級以上ノ月俸ヲ受ケル者ハ滿一年ヲ經過スルニアラザレハ昇級スルコトヲ得ス、部長ニ拔擢セラルル者ハ此限ニアラス、數員中ハ月俸六圓乃至八圓トス

一北海道廳巡查看守及北海道集治監看守俸給令

明治三十年勅令第九十九號 四月十七日發布

(摘要) 一級十二圓、二級十一圓、三級十圓、四級九圓トシ但最上級ヲ受ケ二年ヲ踰ヘ勤務熟練ナル者ハ漸次十五圓迄ヲ増給

第二編 會計ニ關スル法令 第二章 俸給及手當

スルコトヲ得、教習中ハ月俸八圓以内ヲ給シ休職中ハ現俸二分ノ一ヲ給ス但休職期限ハ一ケ年トス

一 巡查看守俸給令ヲ臺灣ニ適用ノ件 明治三十一年勅令第百二十號 六月二十日發布

(摘要) 明治三十年勅令第百四十九號巡查看守俸給令ヲ適用ス(前々項參照)

一 女監取締押丁人員俸給ノ件 明治二十七年內務省訓令第一號 一月九日發布

但廿九年訓令第九號ヲ以テ第一號第四號改正削除、三十一年訓令第十四號ヲ以テ第五號中改正

(摘要) 女監取締ノ俸給ハ四圓以上十五圓以下、押丁ノ俸給ハ四圓以上九圓以下トシ總テ日給トス

(參考) 女監取締押丁ノ俸給ハ本令ノ範圍内ニ於テ月額ヲ以テ支給シ欠勤アリタルトキハ勤務日數ニ應ジ日割ヲ以テ支給スヘキ主旨ナリ(二十八年四月五日警視廳何ニ對スル指令參照)

一 文官俸給支給細則 明治二十五年大藏省令第十一號 十二月二十三日發布

(摘要) 支給定日、內發省及其所管經費ニ屬スル官廳ハ毎月二十一日、非職、廢官、退官職、死亡ノ時ハ其月金額ヲ給シ職任

者ノ俸給ハ發令ノ當日迄ヲ甲總ノ負担トシ翌日以降ハ乙總ヨリ支給ス、俸給算出ニ當リ計上厘位未滿ノ端數ハ切捨トシ日割計

算ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ (參考) 官吏職務ノ爲メ刑事被告人トナリタル場合ノ俸給ハ高等官俸給令第十八條ニ依リ執務セサルコト三十日ニ踰ユル者ハ俸給ノ中額ヲ減シ旅費ハ一切支給セサルコト(廿六年五月四日大藏大臣ト協議一般ハ通牒參照)

一 巡查看守俸給支給規則 明治十九年內務省令第二十三號 十月十六日發布

但明治二十三年五月省令第五號ヲ以テ第一條改正、三十年五月勅令第百四十九號俸給令ノ明文ニ

依リ第二條第五條消滅

(參考) (三十年十月二十七日鹿兒島縣問合ニ對シ警保局長回答參照)

休職中ノ看守ニシテ官廳其他ノ雇入トナルヲ許スハ差支ナシ但休職俸給ハ停止スルノ限ニアラス(二十九年五月二日三重縣ヘノ回答ナ一般ニ通牒參照)

看守免職者俸給支給方ハ發令ノ日ヲモ日割ヲ以テ支給スヘキ義ナリ(二十五年七月五日石川縣ヘ回答參照)

一文官ニシテ軍人俸給ヲ受クル間ハ文官俸給ハ停止ス、但軍人俸給寡少ナルトキハ文官俸給ヨリ補給スルノ件 明治二十七年勅令第百二十九號 七月二十八日發布

(參考) 看守ニシテ陸海軍ヘ召集中ノ俸給ハ全俸給令ニ明文ナキヲ以テ金額支給ノ旨ナリ(三十一年二月二日三池集治監回答參照)

一 休職看守俸給ノ件 明治二十三年勅令第二百二十八號 十月十日發布

(摘要) 休職期限ハ一年トシ休職中ハ現俸ノ三分ノ一以内ヲ給スルコトヲ得

一 官吏職務上傷療療治料ノ件 明治二十五年勅令第八十號 八月二十六日發布

(摘要) 特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料費ヲ給ス但府縣費ヨリ給料ヲ給クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負担トス

一 巡查看守宿料ノ件 明治二十八年勅令第百五十九號 十一月廿二日發布

(摘要) 土地ノ狀況ニ依リ一ケ月一日以上三圓以下ヲ給スルコトヲ得

一 臺灣巡查看守手當支給規則 明治三十一年勅令第百十七號 六月二十日發布

(摘要) 手當ハ毎月十二圓トス、但滿二年以上勤續者ハ更ニ其十二分ノ一ヲ増給シ滿二年以上一ケ年ヲ加フル毎二十二分ノ一ヲ増給シ手當金ノ金額二十圓ニ至テ止ム

一 北海道廳巡查看守及同集治監看守ニ一ケ月三圓以内ノ手當金ヲ支給スルコトヲ得ルノ件

明治三十年勅令第二百四十六號 七月廿六日發布

第二編 會計ニ關スル法令 第二章 俸給及手當

一傳染病豫防救済ニ從事シタル官吏ニ手當支給ノ件 明治二十八年勅令第七十一號 六月七日發布

(摘要) 俸給及ハ給料月額二分ノ一以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得但其費用ハ各所屬經費ヨリ支給スル義ナリ

一備員俸給及諸手當ハ毎月下旬ニ支給シ得ルノ件 明治二十六年勅令第七號 二月廿二日發布

(摘要) 授業手ニシテ公務上負傷シ欠勤中ハ給料金額ヲ給スル義ナリ(二十九年六月十六日三池集治監ヘ指令參照)

一官吏公務上傳染病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキノ手當金支給ノ件

明治十九年勅令第二十三號 七月十三日發布

(摘要) 一吊祭料ハ俸給一ヶ月ニ相當スル額、救助料ハ一等、俸給五ヶ月分、日給百五十日分、二等、俸給三ヶ月分、日給九十日分、但死亡シタルトキハ一等トシ死亡セザルトキハ二等トス、療治料ハ一日金一圓トス

一同上手當金給與手續ノ件 明治十九年内務省訓令第五九八號 八月十九日發布

一流行病豫防救済ニ備使スル醫師以下、感染及死亡手當規則 明治十年太政官達第八十九號 十二月一日發布

一官役人夫死傷手當規則 明治八年太政官達第五十四號 四月九日發布

(摘要) 手當ヲ分テ療治料、埋葬料、遺族扶助料ノ三種トシ療治料ハ疵ノ輕重ヲ計リ適度ノ量ヲ給シ埋葬料ハ十圓、扶助料一等傷三十圓、二等傷二十圓、三等傷、十五圓、四等傷十圓トス

一警察及監獄備員ニシテ職務上死傷者吊祭扶助療治料支給ノ件

明治二十年内務省訓令第四十二號 九月七日發布

(摘要) 明治十五年太政官達第六十七號ニ準據シ警察備員、警察費、監獄備員、監獄費ヨリ支辨スヘシ

(參考) 十五年達第六十七號摘要、一、吊祭料三十圓親族故舊又ハ村役場ニ給シ便宜處分セシム、一、遺族扶即料五十圓以上百圓以下、一、傷疾扶助料一等傷(不具者)六十圓以上百圓以下、二等傷(不具ナラサル者)十圓以上五十圓以下、一、療治料傷疾

ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第三章 恩給、退官賜金

一官吏恩給法 明治二十三年法律第四十三號 六月二十一日發布

(摘要) 資格、在官判任以上滿十五年以上ニシテ左ノ各項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一、年齢六十歳ヲ超ヘ退官ヲ許シタルトキニ、傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘズ退官ヲ許シタルトキニ、廢官廢職若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ、但公務ノ爲メ傷疾又ハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサル者ハ年限ニ拘ハラズ終身恩給ヲ給ス

國務大臣ハ在職滿五年以上ナルトキハ恩給ヲ給ス

懲戒又ハ刑事裁判ニ依リ免職シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

恩給年額、退官當時ノ俸給ト勤続年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十(四分ノ一)トシ以上滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加給シ滿四十年ニ至テ止ム例ハ俸給年額六百圓ヲ受クル者在官滿二十年ニシテ退官シタルトキハ十五年ニ對スル年額百五十圓ニ五ヶ年ノ加給十二圓五十錢合計百六十二圓五十錢ノ恩給ヲ給ス

恩給ノ剝奪停止、恩給ヲ受クル者重罪ニ處刑セラレ若クハ日本臣民タル分限ヲ失フトキハ之ヲ剝奪シ左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス一、判任以上ノ官ニ任シ俸給ヲ受クルトキニ、公權ヲ停止セラレタルトキ

恩給ノ支給期及請求權、退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ル但事實ノ生シタル後三ヶ年内ニ請求セザルトキハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二編 會計ニ關スル法令 第三章 恩給、退官賜金

第二編 會計ニ關スル法令 第三章 恩給、退官賜金
局ノ裁定ヲ以テ終審確定ノモノトス

一 官吏恩給法施行規則 明治二十三年閣令第三號 七月二日發布

(摘要) 恩給ノ請求 ハ左ノ書類ヲ添ヘ願書ヲ退官當時ノ本廳長官ニ差出スヘシ

一、在官中ノ履歴書 二、市町村長ノ証明シタル戸籍調査

恩給ノ支給 ハ其年額チ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其前三ヶ月分チ大藏省ヨリ本人居住ノ地方廳ヲ經テ支給ス

恩給ノ廢停ハ恩給ヲ受ケル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

雜則、水火災盜難ニ依リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出テ地方廳ハ之ヲ審査シ内閣恩給局ニ申出ツヘシ恩給局ハ願書ヲ作り地方廳ヲ經由シテ本人ニ下付ス、但此場合ニ於ケル願書ハ恩給證書ト同一ノ效力ヲ有ス

一 官吏遺族扶助法 明治二十三年法律第四十四號 六月廿一日發布

(摘要) 資格、文官判任以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受ケル權利ヲ有ス一、在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ二、在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ三、恩給ヲ受ケル者死去シタルトキ但判任以上ノ者ニシテ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムル者ニ限ル

扶助料ヲ受ケル者ハ亡夫ノ寡婦、寡婦ナキトキハ孤兒、孤兒數子アルトキハ家名繼承者(給シ月主ニアラサル孤兒ニ在テハ長子、長子死亡ノトキハ順次年少者ニ轉給ス、以上ノ者ナキトキハ父母、祖父母ニ給ス)

扶助料年額 亡夫ノ受ケタル若クハ受ケヘキ恩給年額三分ノ一トシ公務ノ爲メ死亡シタルトキハ恩給年額三分ノ二トシ、在官中死亡者ノ扶助料ハ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乘シタル額トシ權利ノ消滅時期ハ寡婦死亡又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月、二、孤兒死去又ハ婚嫁シ他家ノ養子女トナリ又ハ年齡二十歳ニ滿チタル月ノ翌月、三、父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去

リタル月ノ翌月

扶助料ノ廢停 扶助料ヲ受ケル者日本臣比タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ廢止シ公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス但公權停止中ハ其轉給ヲ受ケヘキ者ニ之ヲ給ス

(参考) 扶助料ヲ受ケルハ恩給同様法律ノ保証アル權利ナルヲ以テ恩給局ノ裁定ヲ請ヒ及行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得而シテ出訴期限ハ甲ハ六ヶ月乙ハ一ケ年内ヲ限リトス

一 官吏遺族扶助法施行規則 明治二十三年閣令第四號 七月二日發布

(摘要) 扶助料ノ請求 在官中死去シタルトキハ本廳長官ヨリ下付シタル死者ノ履歴書ヲ以テ扶助料請求ノ證トナスヘク恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ恩給證書ヲ以テ其證トナスヘシ

扶助料ノ請求書 請求者及親族二名以上(親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名)連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ請求證書並ニ市町村長ノ證明シタル戸籍證書ヲ添付シ地方長官ニ差出スヘシ

扶助證書 死亡失或ハ扶助料ヲ受ケル者改氏名シタルトキハ恩給證書同様願書ノ下付ヲ受ケ請求ノ證トナスヘシ

一 巡查看守給助例 明治十五年太政官達第四十一號 七月十七日發布

(摘要) 給助ノ種類 一、退職給助 勤続巡查看守相互ノ勤続五年以上ノ者ハ一時之ヲ給シ十年以上ハ終身之ヲ給ス 二、傷疾給助 職務ノ爲メ負傷者ニ終身之ヲ給ス 三、死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及其傷疾ニ原因シテ死亡スル者并ニ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス 四、療治料 職務ノ爲メ負傷シ又ハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス 五、祭祀料 奉職中死亡者ニ之ヲ給ス

給助額 (一)退職給助 一、勤続滿五年ノ者ハ一時金二十圓以上三十圓以下、滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓乃至五圓ヲ遞加増給ス 二、全十年以上ノ年金二十五圓以上三十圓以下、滿十一年以上ハ一年毎ニ五十錢乃至一圓ヲ遞加増給ス (二)傷疾給助 (一)